第十三條　必要アリト認ムルトキハ保證金ヲ納付セシムルコトアルヘシ

第十四條　左ノ場合ニ於テハ許可ヲ取消シ期限ヲ定メ原狀ニ回復ヲ命スルコトアルヘシ

一、法令ノ施行上若ハ官廳ノ許可シタル事業施行ノ爲メ其ノ他公益上必要アリト認メタルトキ

二、虛僞若ハ錯誤アリタルトキ

三、占用人ニ於テ本則又ハ許可條件ニ違背シタルトキ

第十五條　本則ノ規定又ハ許可ノ條件ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ蒙ムルコトアルモ之カ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第十六條　占用期間中其ノ占用ヲ止メ又ハ期間滿了ノ場合ハ原形ニ回復シ其ノ旨届出ツヘシ

第十七條　公共事業ノ爲メ占用スル場合ノ外ハ明治二十四年大阪府告示第五十六號官有土地森林原野收入金徵收規程ニ準シ占用料ヲ徵收ス但シ左ノ場合ニ於テハ占用料ヲ減額又ハ特免スルコトアルヘシ

一、河川ニ關スル工事ノ爲メ土地ヲ寄附シタル場合ニ於テ其ノ寄附ニヨリテ生シタル河川敷地又ハ流水ヲ其ノ寄附者ニ占用ヲ許可スルトキ

二、道路ト效用ヲ兼ヌル堤防敷ノ占用ヲ許可スル場合ニ於テ道路占用料ヲ徵收スルトキ

第十八條　本則ニ依リ提出スル書類ハ市ハ大阪市役所又ハ町村役場ヲ經由スヘシ

附　則

第十九條　本則施行前既ニ許可ヲ受ケ其ノ期間ノ存續中ニ在ルモノハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十條　明治三十一年五月大阪府告示第八十二號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●河川法施行ニ係ル河川敷地流水及其ノ附屬物占用料ノ件

昭和十年八月三十日
大阪府告示第六百十六號

大正七年六月大阪府告示第百六十七號河川法施行ニ係ル河川敷地流水及其ノ附屬物ノ占用料左ノ通改正ス但シ從前許可シタルモノニシテ期限內ノモノニ對シテハ其ノ期限滿了ニ至ル迄之ヲ適用セス

〔大阪土〕

河川等級表

河川名	區域	新淀川 左岸	新淀川 右岸	大川 左岸
一等地				寢屋川合流口ヨリ西横堀川分流口ヨリ木津川ニ至ル地先
二等地				西横堀川分流口ヨリ木津川ニ至ル地先渡邊橋肥後橋ヨリ下流ヨリ松鼻渡船場ニ至ル地先
三等地				松鼻渡船場ヨリ海口ニ至ル地先
四等地		毛馬閘門ヨリ阪神電鐵橋ニ至ル本線鐵橋電鐵地先	東淀川區西之町一丁目ヨリ阪神電鐵橋ニ至ル本線鐵地先	毛馬洗堰ヨリ寢屋川分流口ニ至ル地先
五等地		東淀川區北大道町ヨリ毛馬閘門ニ至ル地先及阪神電鐵本線鐵橋ヨリ海口ニ至ル地先	東淀川區柴島町ヨリ同區木川東之一丁目ニ至ル地先及阪神電鐵本線鐵橋ヨリ海口ニ至ル地先	
六等地				
七等地				
八等地		北河內郡枚方町地先	神崎川閘門ヨリ東淀川區豐崎管原川閘門ニ至ル地先	
九等地		第四、五、八等地ヲ除キ全部	京都府界ヨリ神崎川閘門ニ至ル地先	

〔大阪土〕

	安治川	木津川		尻無川		中津川（傳法川正蓮寺川ヲ含ム）	六軒屋川
	右岸	左岸	右岸	左岸	右岸		
	天滿橋ヨリ新船津橋ニ至ル地先	土佐堀川分流口ヨリ七瀨川分流口ヨリ上ノ渡ニ至ル地先	土佐堀川分流口ヨリ船圖場入堀流口ニ至ル地先	木津川分流口ヨリ花宮橋ニ至ル地先	木津川分流口ヨリ花宮橋ニ至ル地先		
	櫻ノ宮橋ヨリ天滿橋ニ至ル地先及毛馬閘門ヨリ櫻宮橋ニ至ル地先	落合上ノ渡ヨリ海口ニ至ル地先	落合上ノ渡ヨリ海口ニ至ル地先	花宮橋ヨリ海口ニ至ル地先	木津川分流口ヨリ花宮橋ニ至ル地先	全部	
	西淀川區御幣島町ヨリ同區大和田町ニ至ル地先佃町（出來島町ヲ含ム）蒲島町	淀川分流口ヨリ西淀川町西島町中島町布屋町矢倉町地先	淀川分流口ヨリ西淀川區加島町ニ至ル地先	東淀川町地先及相淀川分流口ヨリ東淀川町界ニ至ル地先	三島郡吹田町地先	全部	

〔大阪土〕

	神崎川	寢屋川		水無瀨川	檜尾川	芥川	
	右岸	左岸	右岸	左岸			右岸	左岸
		極樂橋ヨリ淀川分流口ニ至ル地先	城東線鐵道橋ヨリ淀川分流口ニ至ル地先					
		德庵橋ヨリ極樂橋ニ至ル地先	極樂橋ヨリ城東線鐵道橋ニ至ル地先					
		德庵橋ヨリ極樂橋ニ至ル地先	德庵橋ヨリ極樂橋ニ至ル地先					
	三島郡吹田町地先							
	東淀川町地先及相島郡豐津ヨリ猪名川合流口ニ至ル地先	淀川分流口ヨリ東淀川町界ニ至ル地先						
	全部	第三、四、六等地ヲ除キ全部	第四、六等地ヲ除キ全部	全部	全部	第八等地ヲ除キ全部	三島郡高槻町大字芥川ヨリ同町大字下田部ニ至ル地先	全部

船橋川									全部
穗谷川									全部
天野川									全部
大和川 左岸						堺市地先			第六等地ヲ除キ全部
大和川 右岸						舊高野鐵道線鐵橋ヨリ海口ニ至ル地先			第六等地ヲ除キ全部
石川 左岸								南河内郡富田林町地先	第八等地ヲ除キ全部
石川 右岸									全部
安威川						三島郡吹田町地先		東淀川區相川町地先	第六、八等地ヲ除キ全部
茨木川						三島郡茨木町地先			第六等地ヲ除キ全部
猪名川						豐能郡池田町及細河村大字木部地先	豐能郡庄内村地先	豐能郡北豐島村地先	第六、七、八等地ヲ除キ全部
大津川								全部	

〔大阪土〕

牛瀧川									全部
槇尾川									全部
樫井川								泉南郡田尻村大字吉見地先	第八等地ヲ除キ全部
男里川									全部
恩智川									全部
東條川									全部

〔大阪土〕

料金表（一坪一箇年分但シ一廉ノ占用面積一坪未滿ナルトキハ一坪ト見做ス）

種等	占用目的	一等地	二等地	三等地	四等地	五等地	六等地	七等地	八等地	九等地
第一種	建物敷地、同懸出、屋形船及之ニ附屬スル工作物、堤防掘割ヲ目的トスル占用、上家、廣告臺、遊船繫留場、起重機	圓 二〇・〇〇	圓 一〇・〇〇	圓 六・〇〇	圓 三・五〇	圓 二・〇〇	圓 一・〇〇	圓 〇・六〇	圓 〇・四五	圓 〇・一五
第二種	造船解體並ニ修繕船ノ爲ニスル占用竹木浮場又ハ置場、金屬若ハ石材置場、軌條布設、生洲、船繫場、地中埋設物、露店（葭簀張等）	一八・〇〇	九・〇〇	五・五〇	三・〇〇	一・八〇	〇・九〇	〇・五〇	〇・四〇	〇・一三
第三種	各種棧橋、各種荷揚場、船繫場	一六・〇〇	八・〇〇	五・〇〇	二・八〇	一・六〇	〇・八〇	〇・四五	〇・三〇	〇・一〇

種								
第四種	通路、物干場、洗場、水泳場、各種畜産ニ關スル占用假締切	一〇・〇〇	五・〇〇	三・〇〇	二・〇〇	一・〇〇	〇・五〇	〇・三〇	〇・二〇	〇・〇八
第五種	繫船杭、信號標、電柱及支柱支線	一本ニ付市内一〇圓〇〇郡部五圓〇〇、多脚式柱ハ其ノ一本分ノ占用料ニ其ノ面積占用料ヲ加算シタルモノトス、占用區域内ノ繫船杭ハ電柱竝トシ其ノ他ノ場合ハ電柱ノ三倍トス								
第六種	吸水管	管ノ横斷面積一平方吋ニ付二圓〇〇 排水管ハ吸水管ノ1/20 但シ口徑十一吋以上ノモノニシテ引水速度毎秒一米六以内ノ場合ハ流速ニ應ジ輕減スルコトアルヘシ								
第七種	田畑藪	〇圓〇二五以上 〇圓〇一六以上 〇圓〇二〇以上								

土石、砂利、雜草等ノ拂下價格（告示セズ）

〔大阪土〕

種類		要	一坪ニ付改正價格
砂利	一圓七〇 一坪ニ付キ改正價格ノ摘	大和川本流、淀川本流及支派川猪名川（豐能郡南豐島村地内下流）安威川（茨木川トノ合流點下流）	上揭以外ノ河川
砂	一圓五〇		一圓四〇
壁土	二圓〇〇		一圓二〇
土	一圓〇〇		一圓七〇 〇圓七〇

〔大阪土〕

種類		要	
栗石	二圓五〇		
轉石、泥土、雜草類其他特殊ノモノ	品質ノ良否、大小及運搬ノ便利等ニ依リ一定シ難キニ付其都度伺定ニヨリテ價格ヲ定ム		二圓二〇

〔大阪土〕

●淀川ノ支川ト認定セシモノニシテ市町村其ノ他公共團體ニ於テ費用ヲ負擔スル堤防及河川ノ敷地流水占用處分方

明治三十一年五月十九日
大阪府令第三十九號

改正　明治三一年一〇月府令第六九號、三三年七月第四五號、九月第五九號

河川法ニ依リ淀川ノ支川ト認定セシ支川ニシテ町村其他公共團體ニ於テ其ノ費用ヲ負擔スル堤防及河川ノ敷地流水ノ占用ハ所屬町村其ノ他公共團體ヲ管理スル行政廳ニ於テ當廳ノ認可ヲ受ケ處分スヘシ

前項ノ占用料竝堤防及河川ヨリ生スル收益ハ所屬町村其ノ他公共團體ノ收入ニ歸ス

本令施行前ニ係ル收入ニ關シテモ前項ヲ適用ス但シ第一項中ノ河川ノ敷地、流水ノ占用料ニ付キテハ此ノ限ニ在ラズ

●中津川筋（長柄運河）占用其ノ他ノ件ハ內務省大阪土木出張所へ照會方ノ件

大正十二年六月三十日
內務省大阪土木出張所照會
知事宛

淀川下流改修工事中、中津川筋長柄運河ニ屬スル工事ハ竣功ニ付キ今回貴府ヘ御引渡致候處同河筋ニ於ケル占用其他ノ行爲ニ付テハ今後既成河川トシテ當所ニ於テモ監視ノ必要有之候儀ニ付キ從來ノ通リ其ノ都度御協議ニ預リ度此ノ段及照會候也

●中津川筋長柄運河ニ於ケル河川流水面占用ノ件

大正十二年七月二日
收第一六三號內務省大阪土木出張所照會

標記ノ件大正十二年三月十五日付土第一五〇〇號御回答ニ據レバ船繫場ノ目的ヲ以テ占用許可相成居候ハ來ル大正十六年六月ヲ最長期限ノ樣被存候然ル處當所トシテハ此ノ種ノ占用ハ成ルヘク許可セサルヲ希望致候儀ニ有之候得共既ニ大正十六年六月迄許可相成居候ニ付テハ該期ヲ以テ打切リ度キニ付官費護岸築造箇所ハ勿論例令自費護岸築造箇所ト雖モ（特ニ船溜リヲ設ケタルモノハ除ク）該期限外ハ許可相成ラサル樣致度此段及照會候也

●淀川支川ニ關スル占用竝收益其他取扱規程

明治三十三年十月十一日
大阪府訓令第六十三號

改正 明治四五年六月訓令第一八號、大正二年六月第一九號、一五年六月第四二號

町村役場　水利組合役場

（淀川ノ支川ニ關係ナキ郡）（市町村及水利組合ヲ除ク）

明治三十一年大阪府令第三十九號淀川支川ニ關スル占用竝收益其ノ他取扱規程左ノ通之ヲ定ム

〔大阪土〕

但シ明治三十一年大阪府訓令第三十號ハ之ヲ廢止ス

淀川支川ニ關スル占用竝收益其ノ他取扱規程

第一條 河川敷地、堤防、流水ノ占用ヲ許可セムトスルトキハ第一號樣式ノ調査表竝圖面ヲ添付シ認可ヲ受クヘシ但シ許可セサル場合ニ在リテハ其ノ事由ヲ具シ認可ヲ受クヘシ

河川敷地及流水占用規則第六條ノ許可ヲ爲サムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ

第二條 河川法第十七條ニ該當スル行爲ニ付許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ目的ノ爲ニ占用ヲ許可スル場合ニ在リテハ前條ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス

第三條 河川敷地及流水占用規則第七條ノ屆出ヲ受ケタルトキハ即時報告スヘシ

第四條 土石砂利ノ採取又ハ生産物ノ刈採リヲ許可セムトスルトキハ第二號樣式ノ調査表竝圖面ヲ添付シ認可ヲ受クヘシ

第五條 官有土石砂利拂下規程第六條乃至第八條又ハ河川內生産物拂下規程第六條第七條ノ場合ニ於テハ本知事ノ指揮ヲ受ケ處分スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ニ限リ便宜處分シ報告スルコトヲ妨ケス

第六條 第一條第四條ノ場合ニ於テ許可ヲ附スル條件又ハ出願ノ事項ヲ變更シテ許可セムトスルノ必要アルトキハ其ノ事由ヲ詳具スヘシ

第七條 町村其ノ他公共團體ニ於テ直接ニ河川敷地、堤防、流水ヲ占用シ又ハ土石砂利ヲ採取シ若ハ生産物ノ刈採リヲ爲サムトスル場合ニ在リテモ本規程ヲ準用ス

第八條 國、府ノ事業ノ爲河川敷地、堤防、流水ヲ占用シ若ハ土石砂利ノ採取ヲ要スル場合ハ町村長其ノ他公共團體ノ管理者ヘ通知スルモノトス

第九條 公益ノ爲必要アルトキ又ハ公害アルヲ發見シタルトキ其ノ他本知事ニ於テ必要アリト認ムルトキハ認可シタル條件ヲ變更シ若ハ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルヘシ

（第一號樣式）

何々占用調査表

河川名	占用箇所	種類	占用ノ目的	坪數	占用料金壹坪年額
何川	何町村大字何小字何	流水	船繫場	何坪	何圓
何川	、、、、、	堤防	物揚場	、、	

一　圖面
但シ見取圖トシ左ノ各號ヲ記載スヘシ
一　占用箇所ノ町村、大字、小字名
二　占用箇所ノ附近ノ狀況（基石、水制工、堤防、樋門、橋梁、大字界其ノ他地物ノ位置及距離等）
三　占用箇所ノ位置ハ朱線ヲ畫シ其ノ長、幅間數
四　磁北及流水ノ方向
五　二人以上占用ヲ出願セシトキハ各人毎ニ占用箇所ヲ區畫スヘシ
六　削除
七　前各號ノ外參考トナルヘキ事項

（第二號樣式）

何々調査表

河川名	採取(刈採)箇所	種類數量	期間	拂下價格	採取(刈取)人氏名住所
何川堤防	何町村大字何小字何	土砂何坪	自何年何月何日至何年何月何日	圓	
〃	〃	雜草何段歩	〃	〃	〃

一　圖面
但シ圖面ハ見取圖トシ左ノ各號ヲ記載スヘシ
一　採取又ハ刈採リ箇所ノ町村、大字、小字名
二　採取又ハ刈採リ箇所ノ附近ノ狀況
三　採取又ハ刈取リ箇所ノ位置ハ朱線ヲ畫シ其ノ長、幅間數但シ土石砂利ノ採取ニ付キテハ其ノ深サ
四　磁北及流水ノ方向
五　前各號ノ外參考トナルヘキ事項

●河川法ニ依リ附屬物ト認定シタル堤防等ヲ許可ヲ得スシテ掘鑿等爲スヘカラサル件

明治三十四年六月六日
大阪府令第八十九號

改正　大正一五年六月府令第七三號

河川法ニ依リ附屬物ト認定シタル堤防及其ノ保護ノ爲ニ設ケタル工作物ヲ毀壞シ又ハ許可ヲ得スシテ堤防ヲ掘鑿シ若ハ堤敷ノ地上ケヲ爲スコトヲ得ス、違フ者ハ拾圓以下ノ罰金又ハ十日以下ノ拘留ニ處ス

私人ニ於テ堤防ヲ掘鑿シ若ハ堤敷ノ地上ケヲ爲サムトスル者ハ其ノ期間方法、目的箇所ヲ記載シ圖面ヲ添付シ市役所（大阪市ニ在ツテハ區役所）町村役場ヲ經由シテ大阪府知事ノ許可ヲ受クヘシ、市町村其ノ他公共團體ニ於テ掘鑿若ハ地上ケヲ爲サムトスルトキモ亦本項ノ規定ニ準ス

〔大阪土〕

●河川内生産物拂下規程

明治三十一年六月十六日
大阪府告示第百五號

改正　明治三四年五月告示第一二〇號

河川内生産物拂下規程左ノ通相定ム

第一條　河川敷地及堤塘敷地附洲内ニ生スル葭蘆、雜草、柳等ノ生産物ヲ刈取ラムトスルモノハ本規程ニ依ルヘシ

第二條　刈採ヲ爲サムトスルモノハ別紙樣式ニ依リ出願スヘシ

〔大阪土〕

第三條　河川法施行ノ河川ニ係ル生産物ノ代金徵收ハ明治二十四年四月大阪府告示第五十六號官有土地森林原野收入金徵收規定ヲ準用ス

第四條　拂受人刈採ヲ爲ストキハ左ノ方法ニ依ルヘシ
一、雜草ハ地盤ヨリ五寸以上生長シ柳樹ハ幹部三尺以上ノ枝條ニアラサレハ刈採ルコトヲ得ス
一、拂下物件ノ外他ノ生產物ヲ刈採ルヲ得サルモ葭蘆、雜草中ニ交生スル荊棘、小篠ノ類ハ此ノ限ニアラス
一、秣用ノ爲メ拂下ヲ受ケタル雜草ト雖モ牛馬ヲ放牧シテ食マシムルコトヲ得ス
一、拂下ノ物件ハ生長ノ良否ニ拘ラス一切刈取ルヘキハ勿論刈採跡ヲ蕪穢ナラシムヘカラス
一、刈採ノ際ニハ生長物ノ根部又ハ樹幹ヲ伐傷シ又ハ地盤ヲ損荒スヘカラス
一、刈採現場ニ標杭ヲ建設スルハ妨ケナキモ其ノ寸法ハ長二尺以内太サ三寸角以内タルヘシ
一、刈採ノ際堤防其他工作物ニ損所アルヲ發見シタルトキハ速ニ最寄官署ヘ報告スヘシ

第五條　河川ニ關スル工事ノ施行ニ因リ拂下物件ノ數量ニ減損ヲ生スルコトアルモ拂受人ハ故障ヲ申立テ又ハ之カ補償ヲ請求スルコトヲ得ス

第六條　拂受人代金ヲ納付セス又ハ本規程ノ條項ニ違背スルトキハ刈採ヲ禁止スヘシ其ノ違背ニ因リ禁止セラレタルトキハ既納ノ代金ハ還附セス

第七條　前項違背ノ爲ニ生シタル損害ハ拂受人ニ於テ賠償ノ義務アルモノトス

第七條　刈採期限内ト雖モ公益上必要アルトキ又ハ公害アリト認ムルトキ又ハ河川敷地ノ占用又ハ使用ヲ第三者ニ許可スルカ爲メ必要アルトキハ之カ許可ヲ取消シ又ハ制限ヲ加フルコトアルヘシ
前項ノ場合ニ於テハ既納ノ代金ハ其面積又ハ員數ニ依リ算定シ還附スヘシ

第八條　天災地變ノ爲メ拂下物件ノ全部又ハ幾部亡失シタル場合ニ於テ其事實ノ生シタルトキヨリ十四日以内ニ既納代金ノ下戻ヲ請求スルトキハ前條第二項ノ例ニ依リ還附スルコトアルヘシ

第九條　拂受人ノ責任ニ屬スヘキ事件ハ被用者ノ行爲タリトノ理由ヲ以テ其責ヲ免カルルコトヲ得ス
二人以上連名シテ許可ヲ得タルトキハ勿論保證人ハ拂受人ト各連帶責任ヲ有スルモノトス

第十條　河川敷地及堤塘敷地又ハ附洲内ノ樹木ノ伐採又ハ其ノ枝葉ノ刈拂若ハ果實ノ收去ヲ爲サムトスル者ニ付テモ本規程ヲ準用ス

別紙省略

●明治三十年府令第八十二號ノ河川內ノ土石其ノ他ヲ採取セントスル者ニ關スル件

明治三十三年十月一日
大阪府告示第百九十五號

改正　明治三四年六月告示第一五〇號

明治三十年大阪府令第八十二號ノ河川內土石砂利ヲ採取シ又ハ河川敷地堤防流水ヲ占用シ若ハ生産物ヲ刈採ラムトスル者ハ明治二十九年大阪府告示第百號官有土石砂利拂下規程、明治三十一年大阪府告示第八十二號河川敷地及流水占用規程、明治三十一年大阪府告示第百五號河川內生産物拂下規程ニ準據シ其ノ他公共團體ヲ管理スル行政廳ヘ出願スベシ

●洪水防禦準備規程

大正七年六月十一日
大阪府令第五十六號

改正　大正一五年六月府令第七五號

第一條　洪水ノ害ヲ受クヘキ地域ト認メ特ニ指定ヲ受ケタル市町村其ノ他ノ公共團體ハ本規程ニ依リ豫メ水防員ノ設

〔大阪土〕

置、水防ノ設備其ノ他洪水防禦ノ準備ヲ爲スヘシ

第二條　水防員ノ組織ハ知事ニ於テ特ニ命スル場合ヲ除ク外左ノ各號ニ準據スヘシ

水防長（水防事務ヲ掌理スル者）	一名
水防部長（水防事務ヲ分擔シ又ハ水防長ノ事務ヲ代理スル者）	若干名
水防組頭（水防部長ノ命ヲ承ケ部下ヲ指揮スル者）	若干名
水防小頭（水防組頭ヲ補佐シ水防組頭故障アルトキ之カ代理ヲ爲ス者）	若干名
水防手（水防長以下ノ命ヲ承ケ水防ニ從事スル者）	若干名

前項ノ水防員ハ市町村長又ハ其ノ他ノ公共團體ノ管理者ニ於テ命免スヘシ但シ水防長、水防部長ノ命免ハ知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第三條　水防長ニ於テ出水ノ虞アリト認ムルトキハ水防員ヲシテ量水標ヲ監視セシメ洪水警戒水位ニ達シタルトキハ直ニ電信電話又ハ特夫ヲ以テ其ノ旨知事ニ報告シ洪水防禦ノ措置ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ水位ヲ直近下流水防分區又ハ水害防禦團體ニ通報スルコトヲ要ス爾後增水一尺以上ニ及フトキ亦同シ

〔大阪土〕

第四條　水防設備ハ左ノ各號ニ準據スヘシ

一、材料藏置場
材料藏置場ハ堤防又ハ堤防附近若ハ防禦スヘキ工作物附近ニ設置シ材料保存ニ適當ナル設備ヲ爲スヘシ
藏置場ハ堤防ニ對シテハ三百間乃至千間毎ニ一箇所ヲ設クルコトヲ要ス

二、量水標
沿川町村又ハ其ノ他ノ公共團體ハ其ノ地域內ニ於ケル洪水防禦準備ヲ要スル各箇所毎ニ一箇所以上

三、器具材料
空俵、繩、杭木、竹、鐵線、粗朶、土、蛸木、掛矢、鋸、鐮、鉞、手斧、莚、ショベル、提燈、篝火用燃料、小車、小船
量水標ノ構造其ノ建設位置、器具材料ノ種類、數量其ノ藏置場ノ位置及人夫、車馬其ノ他物件等ノ徵收方法ハ豫メ知事ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ器具材料ハ每年四月末日迄ニ準備シ直ニ知事ニ屆出テ檢查ヲ受クヘシ

第五條　第四條第三號ノ材料中竹ハ生立ノ竹林ヲ以テ藏置ニ代ユルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シタル標札ヲ建設スヘシ

第四類　河川　第三章　施行河川

一、洪水防禦準備材料タルコト
一、使用シ得ヘキ材料ノ數量
一、市町村又ハ公共團體ノ名稱

第六條　洪水防禦ノ爲器具材料ノ全部若ハ一部ヲ使用シ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ準備スヘキ員數ニ不足ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ補充スヘシ

第七條　市町村長又ハ其ノ他ノ公共團體ノ管理者ハ洪水防禦ノ方法竝之カ練習ニ關スル規程ヲ設ケ知事ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

附　則

第四條ノ期限ハ本令施行ノ際ニ限リ第一條ノ指定ヲ受ケタル日ヨリ三十日トス

●洪水防禦ヲ爲スヘキ市町村及公共團體指定

大正七年六月十二日
大阪府告示第百六十號

改正　大正七年七月告示第一七九號

大正七年六月大阪府令第五十六號洪水防禦準備規程第一條ニヨ

リ洪水防禦ヲ爲スヘキ市町村及公共團體ヲ左ノ通指定ス
淀川左岸ノ洪水防禦準備ヲ爲スヘキ市町村及公共團體
北河内郡樟葉村、牧野村、澱川茨田堤防水害豫防組合、
西成郡大道村、豐里村、豐崎町、中津町、鷺洲町、稗
島村、歌島村、傳法町、福村、
東成郡城東村、神路村、中本町、小路村、鶴橋町、榎本
村、淀寢二川堤防水害豫防組合、
中河内郡東六郷村、英田村、北江村、玉川村、若江村、
大戸村、西六郷村、孔舍衞村、意岐部村、楠根村、高
井田村、布施村、小阪村、三野郷村、池島村、
大阪市
淀川右岸ノ洪水防禦準備ヲ爲スヘキ市町村及公共團體
三島郡富田村、三島村、溝咋村、玉櫛村、宮島村、三宅
村、味舌村、岸部村、吹田町、第一區淀川水害豫防組
合、第二區淀川水害豫防組合、第三區淀川水害豫防組
合、島本村、如是村、
西成郡大道村、中島村、川北村、中島水害豫防組合、
大和川右岸ノ洪水防禦準備ヲ爲スヘキ市町村及公共團體、
大和川北岸第一水害豫防組合、
中河内郡堅下村、南高安村、曙川村、八尾町、中高安村、
彌刀村、西郡村、巽村、長瀬村、久寶寺村、大正村、
瓜破村、矢田村、

〔大阪土〕

東成郡喜連村、南百濟村、北百濟村、田邊町、生野村、
平野鄕町、

●淀川支川中堤防護岸水制ノ維持修繕費負擔區分ノ件

明治三十年六月
大阪府令第八十二號

改正 明治三三年七月府令第四六號、九月第五四號、三五年六月第五七號、三六年四月第三六號、大正一三年八月第五八號

明治二十九年十月大阪府告示第四百二號ヲ以テ告示シタル淀川ノ支川中左ノ區域ニ係ル堤防護岸水制ノ維持修繕及川中浚疏其ノ他流水ノ疏通ニ必要ナル工事ハ所屬町村其ノ他公共團體ヲ管理スル行政廳ニ於テ施行スヘシ
前項ノ維持又ハ工事ニ關スル費用ハ所屬町村其ノ他公共團體ノ負擔トス

一、水無瀨川
區域　三島郡島本村大字東大寺字鍋黑以下同村大字山崎東海道鐵橋ニ至ル

一、檜尾川
區域　三島郡磐手村大字成合落合橋以下同郡五領村大字萩ノ庄檜尾川橋ニ至ル

〔大阪土〕

一、舟橋川
區域　北河内郡招提村車谷川合流所以下同郡樟葉村大字楠葉境橋ニ至ル

一、穗谷川
區域　北河内郡山田村大字田口東高野街道長ヶ嶽橋以下同村大字下島字金出（明治橋下流川長三百十七間）ニ至ル

一、天野川
區域　北河内郡交野村大字私部前川合流所以下同郡川越村大字山ノ上笹原橋ニ至ル

一、寢屋川
區域　左岸北河内郡寢屋川村大字萱島流作
右岸同郡四宮村大字巢本清瀧街道猪ノ鼻橋下流同郡住道村大字三個他力橋ニ至ル

●淀川支川中堤防護川水制ノ維持修繕費負擔區分ノ件廢止

昭和十一年七月六日
大阪府令第六十號

明治三十年六月大阪府令第八十二號淀川支川中堤防護岸水制ノ維持修繕費負擔區分ノ件ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行前發生シタル災害ニ對スル復舊工事其ノ他施行計畫ノ確定シタル工事ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●河川附帶工事費補助令

明治三十二年四月六日
勅令第百二十二號

改正 昭和九年一〇月勅令第三〇六號

第一條 河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ニ對シ河川ニ關スル費用ノ內ヨリ補助ヲ爲スニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
一　河川法第十七條ニ記載スル工作物ノ新築改築若ハ除却ナルコト
二　工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於ケル工費ニシテ其ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體又ハ管理者タル私人ノ資力ニ比シ大ナルコト

第二條 河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ニ對スル補助ハ其ノ工費ノ三分ノ二以內トス但シ他ノ工事ノ管理者ニシテ私人ナルトキ又ハ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニアラス

第三條 此ノ勅令ノ規定ニ依リ國庫ヨリ工事ノ豫算費用ニ對シ補助シタル場合ニ於テハ工事費用精算ノ上豫算ヨリ減ス

ルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第四條　河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ニシテ其ノ管理者不明ナルトキハ河川ニ關スル費用ノ內ヨリ其ノ工費ノ全部ヲ支辨スルコトヲ得

第五條　府縣ニ於テ河川法第二十六條ニ依リ補助ヲ受ケタル場合ニ於テ此ノ勅令ノ規定ニ依リ補助又ハ支辨ヲ爲サントスルトキハ內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其ノ變更又ハ廢止ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第六條　北海道ニ付テハ本令中府縣ニ關スル規定ハ道ニ關シ之ヲ適用ス

附　則　（昭和九年勅令第三〇六號）

本令ハ昭和九年法律第二十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●河川法第三十二條第二項ノ補助取扱手續ノ件

明治三十二年五月三十一日
內務省令第二十一號

改正　明治三八年三月內務省令第五號

第一條　內務大臣ノ直接施行ニ係ル河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ニ對シ補助ヲ受ケントス

〔大阪土〕

長官ヲ經由スヘシ

地方長官前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ニ意見ヲ附シ當該內務省土木出張所ニ送付スヘシ

第三條　工事費ニ殘餘ヲ生シタル場合ニ於テ內務大臣ニ於テ金額ヲ指定シ還付ヲ命シタルトキハ管理者ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二箇月內ニ之ヲ國庫ニ納付スヘシ

第四條　本令ノ規定ハ本令發布前既ニ竣功シタルモノニ付テ亦之ヲ適用ス但シ第一條ノ規定ニ依レル申請ハ本令發布ノ日ヨリ三箇月內ニ提出スヘシ

●河川改修附帶工事施行竝ニ設計變更ノ場合ニ關スル件

大正二年七月二十三日
土第二〇五六號土木局長通牒
各府縣知事宛

當省ニ於テ施行スル河川改修ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ施行竝其設計ノ變更ニ付起業者ヨリ當省大臣ノ認可ヲ申請スル向有之候處右ハ假令國庫ヨリ補助ヲ受クルモノト雖起業者ハ地方廳ニ對シ許可ノ申請ヲ爲スヘク又地方廳ニ於テハ右申請ニシテ明治三十八年當省令第四號第一條ニ該當セサル爲同二十九年勅令第二百三十五號第二條本文ニ依リ禀伺

〔大阪土〕

セラルルハ格別然ラサルモノハ直ニ處分相成可然義ニ候條右樣御承知相成度候

追テ本文設計變更ノ場合貴廳限リ處分相成タルトキハ其都度當省土木出張所ヲ經由シ御報告相成度候

●河川法第四十條ニ依レル補償手續ノ件

明治三十二年七月十四日
內務省令第三十六號

改正　昭和九年一〇月內務省令第二五號

第一條　府縣知事ニ於テ河川法第四十條ニ依リ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ補償ヲ命スルトキハ補償スヘキ物件ノ種類、員數及補償金額竝ニ其ノ支拂期限ヲ定メ補償金ヲ受取ルヘキ者ノ氏名、住所ト共ニ之ヲ其ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ通知スヘシ

第二條　府縣知事ニ於テ前條ノ通知ヲ爲シタルトキハ同時ニ前條ニ依リ定メタル事項ヲ補償金ヲ受取ルヘキ者ニ通知スヘシ

第三條　北海道ニ付テハ本令中府縣知事ニ關スル規定ハ北海道廳長官ニ關シ、水利組合ニ關スル規定ハ土功組合ニ關シ之ヲ適用ス

附　則（昭和九年内務省令第二五號）

本令ハ昭和九年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●水ノ使用料徴收ニ關スル件

大正十年十二月二十六日
内務省遞土第四號土木局長通牒
各地方長官宛（沖繩縣ヲ除ク）

標記ノ件ニ付別紙甲號ノ通リ遞信省電氣局長ヨリ照會有之乙號ノ通リ經伺及回答候條御承知相成度

（甲號）水力使用料徴收ニ付テハ河川法第四十二條ノ規定モ有之候處右ハ水利使用許可ヲ爲シタル後ニ於テモ使用料ヲ徴收シ得ル儀ニ有之候哉差懸リ處理ヲ要スル件有之候ニ付何分ノ御回報相煩度

（乙號）水ノ使用料徴收ニ關スル件經伺回答

標記ノ件ニ關シ大正十年四月十九日電監第二〇〇三號ヲ以テ御照會ノ次第モ有之候處河川法第四十二條ノ規定ニ依ル使用料ハ水利使用ノ許可ヲ爲シタル後ト雖モ同條ノ解釋上之ヲ徴收シ得ヘキ儀ト存候

●通航料徴收規程

〔大阪土ヲ行フ〕

明治三十三年五月二十九日
内務省令第二十八號

改正　昭和九年一〇月内務省令第二六號

第一條　府縣知事ニ於テ河川法第四十三條ニ依リ通航料ノ徴收ヲ許可スルトキハ其ノ金額及徴收期間ヲ定ムヘシ

第二條　通航料ノ金額及其ノ徴收期間ハ原資及其ノ利子ノ償還ヲ標準トシテ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第三條　公益ノ爲メ必要アルトキハ府縣知事ハ通航料徴收ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更スルコトヲ得

第四條　通航料徴收ノ許可ヲ取消シタルトキハ其ノ許可ヲ取消サレタル者ノ申請ニ依リ府縣ニ於テ補償金ヲ下付スルコトヲ得

前項ノ補償金額ハ原資ノ未償還額ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條　通航料徴收許可ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シタルニ因リ其ノ收入ノ減少シタルトキ又ハ更ニ新築若ハ改築ヲ爲シタルトキハ府縣知事ニ於テ通航料ノ增額及徴收期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

第六條　通航料ハ左ニ掲ケタル舟筏ヨリ之ヲ徴收スルコトヲ得ス

一　河川ノ視察其ノ他公務ノ爲メ通航スル船舶

二　行政廳ノ使用スル船舶

三　國及府縣以下ノ公共團體ノ所有ニ屬スル筏

四　自家耕作用ノ肥料ヲ積載スル船舶

五　府縣知事ニ於テ特ニ定メタル舟筏

第七條　通航料徴收ノ許可ニ依リテ生スル權利義務ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第八條　左ニ掲ケタル各號ニ該當スル者ハ五圓以下ノ罰金ニ處ス

一　許可ノ效力停止期間内ニ通航料ヲ徴收シタル者

二　第六條ノ規定ニ違背シタル者

第九條　北海道ニ付テハ本令中府縣ニ關スル規定ハ道ニ關シ、府縣知事ニ關スル規定ハ北海道廳長官ニ關シ之ヲ適用ス

附　則（昭和九年内務省令第二六號）

本令ハ昭和九年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●廢川敷地處分令

大正十一年五月三十一日
勅令第三百三號

第一條　本令ニ於テ廢川敷地ト稱スルハ河川法第四十四條ニ規定スル河川敷地ノ公用ヲ廢シタルモノヲ謂フ

第二條　廢川敷地ノ處分ハ其ノ所在地ヲ管轄スル府縣知事之ヲ行フ

〔大阪土ヲ行フ〕

第三條　廢川敷地ハ府縣知事内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ告示スヘシ

第四條　廢川敷地ノ處分ノ費用ハ府縣ノ負擔トス

第五條　廢川敷地ニシテ御料地又ハ内務省所管以外ノ國有地ト爲スノ必要アルモノニ付テハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ第三條ノ規定ニ依ル告示ノ日ヨリ三月内ニ内務大臣ニ協議スヘシ

廢川敷地ニシテ前項ノ協議調ヒタルモノ又ハ内務省所管ノ國有地ト爲スノ必要アルモノニ付テハ内務大臣府縣知事ヲシテ之ヲ御料地又ハ國有地ニ編入セシムヘシ

第六條　河川法第四十四條但書ノ規定ニ依リ廢川敷地ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ前條第一項ニ規定スル期間内ニ府縣知事ニ申請スヘシ

前項ノ期間經過後爲シタル申請ト雖府縣知事宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ之ヲ受理スルコトヲ得

第七條　第五條ノ規定ニ依リ御料地若ハ國有地ニ編入セス又ハ河川法第四十四條但書ノ規定ニ依リ私人ニ下付セサル廢川敷地ハ府縣ニ歸屬ス但シ其ノ府縣以外ノ公共團體カ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔シテ施行セラレタル河川ニ關スル工事ニ因リ生シタル廢川敷地ニ付テハ府縣知事内務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ歸屬ヲ定ム

第八條　廢川敷地ニシテ現ニ他ノ公用又ハ公共ノ用ニ供セラルルモノニ付テハ府縣知事ハ內務大臣ノ認可ヲ受ケ前各條ノ規定ニ拘ラス特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第九條　廢川敷地ヲ取得シタル者ハ公用ヲ廢シタル日ヨリ其ノ土地ノ所有權ヲ取得ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前府縣知事ノ告示シタル廢川敷地ノ處分ニ關シテハ第五條、第六條及第七條但書ノ規定ヲ除クノ外仍從前ノ例ニ依ル

註（本令ハ明治三十二年勅令第三百九十一號河川法第四十四條ニ依リ河川敷地ノ公用ヲ廢シタル土地ノ處分ニ關スル件ノ改正ナリ）

●廢川敷處分ノ件

明治三十四年六月十二日
乙發第二三號土木局長回答

大阪府知事宛

河川敷地ノ公用ヲ廢シタル土地處分ノ件ニ付キ本年五月二十七日二第一六三二號ヲ以テ御照會相成候處右ハ河川敷地ノ公用ヲ廢シ其告示ヲ爲シタルモノハ河川臺帳更正ノ手續ヲ終了スルト否トニ拘ラス河川法第四十四條但書及三十二年勅令第三百九十一號ニヨリ處分スル事ヲ得ル儀ト存候此段及回答候也

大阪府知事伺（明治三十四年五月二十七日二第一六三二號）

河川敷地ノ公用ヲ廢シタル土地ハ河川臺帳ノ更正手續ヲ終了シ河川ノ敷地ヨリ其ノ土地ヲ除外シタル後ニ非サレハ明治三十二年勅令第三百九十一號ノ規定ニ依リ處分スルコトヲ得サル筋ナリヤ御意見至急承知致度此段及問合候也

●公用ヲ廢シタル河川敷地ノ下付及補償金下付ニ關スル件

明治三十五年五月二十九日
土甲第三四ノ四九號土木局長回答

大阪府知事宛

河川法第四十四條但書廢川敷地及同法施行規程第十條占用禁止ノ場合ニ於ケル補償金下付ノ件ニ付客年十一月四日二第三五五五號ヲ以テ御照會相成候處右廢川敷地ハ第一項後段御見込ノ通曩キノ所有者ニ下付スヘキ義ニ有之又補償金ハ占用權ヲ他ニ移轉セシ場合ニ於テハ曩キノ所有者ハ其下付ヲ受クヘキ權利ヲ失ヒ而シテ其移轉ニ依リ占用權ヲ得タルモノハ一般普通ノ占用者タルヲ以テ府縣ハ之ニ對シ補償金下付ノ義務ヲ有セサル義ト存候伺濟ノ上此段及回答候也

追テ此照會書中甲乙間ニ別段ノ契約又ハ許可ノ條件云々ト有之候ヘ共右ハ地方行政廳ノ處分上私人間ノ契約ニ依ルヘキモノニ無之又許可ノ條件トスヘキモノニモ無之存候爲念此段申添候也

大阪府知事問合（明治三十四年十一月四日）

河川法施行規程第九條ニ依リ甲者ニ許可シタル河川敷地ノ占用權ヲ河川法第二十一條ニ依リ甲者ヨリ乙者ニ移轉スルノ許可ヲ與ヘタル場合ニ於テ

一　河川法第四十四條但書ノ廢公用ノ下付及同法施行規程第十條ノ占用禁止ノ場合ニ於ケル補償金ノ下付ハ共ニ占用權ノ移轉ニ付甲乙間ニ別段ノ契約又ハ許可ノ條件アラサリシトキハ乙者ニ對シテナスヘキモノナルヤ將又反之其ノ權利ハ法律ノ效果トシテ甲者カ所有權ヲ喪失シタルカ爲メニ與ヘラレタルモノナレハ之ヲ乙者ニ下付スヘキモノニ非スシテ全然甲者ニ下付スヘキモノナルヤ

二　廢公用地ノ下付ヲ受クヘキ權利ト占用禁止ノ場合ニ於ケル補償金ノ下付ヲ受クヘキ權利トハ區別アルモノノ如シ果シテ然ラハ補償金ハ乙者ニ對シテ下付シ公用地ハ甲者ニ對シテ下付スヘキヤ

〔大阪土〕

右至急何分ノ御意見承知致度此段及問合候也

●河川附近地制限令

明治三十三年七月十三日
勅令第三百號

改正　昭和九年一〇月勅令第三〇一號

第一條　河川附近ノ土地ノ形狀又ハ家屋其ノ他ノ工作物ニシテ河川ニ害ヲ及ホシ又ハ及ホス虞アルトキハ府縣知事ハ其ノ土地ノ形狀ヲ變更シ又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ改築若ハ除却シ又ハ其ノ所有者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第二條　河川附近ノ土地ニ在ル土砂、竹木等ニシテ河川ニ害ヲ及ホシ又ハ及ホス虞アルトキハ府縣知事ハ其ノ所有者ヲシテ之ヲ除却セシムルコトヲ得

第三條　河川ニ關シ必要アルトキハ府縣知事ハ河川附近ノ土地ニ立入リ又ハ之ニ標柱等ヲ設置スルコトヲ得

第四條　左ニ揭ケタル行爲ヲ爲サムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

一　河川附近ノ土地ニ於ケル家屋以外ノ工作物ノ新築、改築又ハ除却

二　河川附近ノ土地ノ掘鑿其ノ他土地ノ形狀ノ變更

三　堤外地ニ於ケル家屋ノ新築、改築若ハ除却又ハ竹木ノ

栽植若ハ伐採

第五條　沿岸土地ノ所有者ハ其ノ土地ヲ曳船道ニ供スヘシ

前項制限ノ範圍ハ各曳船道ニ付府縣知事之ヲ定ム

第六條　沿堤土地ノ所有者ハ堤防ヨリ雨水ノ自然ニ流レ來ルヲ妨ケ又ハ其ノ土地ノ水ヲ堤防ニ注流セシムル設備ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　第一條、第二條、第三條又ハ第五條ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ府縣ハ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ

第八條　府縣知事ニ於テ第一條ニ依リ土地ノ形狀ヲ變更シ又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ改築若ハ除却セムトスルトキハ少クトモ十五日前ニ、第三條ニ依リ土地ニ立入リ又ハ標柱等ヲ設置セムトスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ所有者及占有者ニ之ヲ通知スヘシ

第九條　左ニ揭ケタル事項及其ノ變更又ハ廢止ハ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一　第一條ニ依ル處分

二　第四條ニ揭ケタル行爲ニシテ重大ナルモノノ許可

第十條　第四條又ハ第六條ノ規定ニ違背シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ禁錮、五十圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處ス

第十一條　北海道ニ付テハ本令中府縣ニ關スル規定ハ道ニ關シ、府縣知事ニ關スル規定ハ北海道廳長官ニ關シ之ヲ適用ス但シ河川法第六十七條ノ規定ニ依リ指定シタル河川ニ在リテハ第七條中府縣ニ關スル規定ハ國庫ニ關シ之ヲ適用ス

〔大阪土木〕

●河川法施行ノ河川敷地ニ接續スル民有地ニ於テ家屋等新築增築若ハ改築セムトスルトキ土地所有者ノ心得方

明治三十四年七月十一日
大阪府令第九十九號

河川法施行ノ河川敷地ニ接續スル民有ノ土地ニ於テ家屋其ノ他ノ工作物ヲ新築增築若ハ改築セムトスルトキハ土地所有者ニ於テ其ノ箇所ヲ示シタル圖面ヲ添付シ豫メ河川敷地ノ境界明示ヲ大阪府知事ヘ出願シ之カ明示ヲ受クヘシ違フ者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

●河川豫定地制限令

明治三十年十月二十三日
勅令第三百七十七號

改正　大正一五年八月勅令第二八九號、昭和九年一〇月第三〇二號

第一條　此ノ勅令ニ於テ河川トナルヘキ區域ト稱スルハ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域ヲ謂フ

第二條　河川トナルヘキ區域竝ニ其ノ附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事ニ於テ內務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第三條　河川トナルヘキ區域ニ於テ其ノ土地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ之ニ沿ヒ若ハ之ヲ橫過シ若ハ其ノ地下ニ於テ施設スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第四條　工事、營業其ノ他ノ行爲ニシテ河川トナルヘキ區域ノ現狀若ハ新ニ生スヘキ河川ニ影響ヲ及ホスノ虞アルモノハ府縣知事ニ於テ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第五條　此ノ勅令ニ依リ許可シタル事項ニ關シテハ府縣知事ハ左ノ場合ニ於テ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一　工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二　許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三　河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

〔大阪土木〕

四　河川法ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五　法律命令ニ違背シタルトキ

六　公益ノ爲必要ナルトキ

第六條　此ノ勅令ニ依リ與ヘタル許可ニ關シテハ河川法第二十一條ヲ準用ス

第七條　河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ府縣知事ハ河川トナルヘキ區域ニ立入リ又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

河川トナルヘキ區域ニ沿ヒタル土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限リ前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ關シテハ河川法第三十九條第三項及第六十二條ヲ準用ス

第八條　前條第一項及第二項ノ場合ニ於テハ明治二十九年勅令第二百三十六號第七條ヲ準用ス

第九條　河川法第四十五條及第四十七條ニ基キ河川附近ノ土地ニ關シ發スル命令ニ規定シタル事項ハ府縣知事ニ於テ府縣令ヲ以テ河川トナルヘキ區域附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第十條　河川法第八條ニ依リ內務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行

シ又ハ公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ內務大臣ハ此ノ勅令ニ依リテ府縣知事ノ有スル職權ヲ自ラ施行スルコトヲ得

第十一條　河川法第八條第一項ノ規定ニ依リ內務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ公共團體ノ行政廳ニ命ジテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於ケル本令ニ依ル府縣知事ノ職權ノ行使ニ付テハ河川行政監督令第二條第一項第三號第四號及第二項ノ例ニ依ル

第十二條　北海道ニ付テハ本令中府縣知事ニ關スル規定ハ北海道廳長官ニ關シ、府縣令ニ關スル規定ハ北海道廳令ニ關シ之ヲ適用ス

●各廳ニ於テ河川法ニ規定スル行爲ヲ爲ス場合ノ件

明治四十二年二月十九日
內務省訓令第三號

各廳ニ於テ明治三十年十月勅令第三百七十七號及明治三十三年七月勅令第三百號ニ記載シタル行爲ヲ爲サムトスルニ當リ協議アリタルトキハ一般ノ規定ニ準シ本大臣ノ認可ヲ受ケ若ハ直ニ處理スヘシ

〔大阪土〕

●河川行政監督令

大正十五年八月二十七日
勅令第二百九十號

第一條　河川法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村、市町村組合、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル河川行政及府縣知事ノ命ジ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

第二條　左ニ揭グル事項竝ニ其ノ變更、停止及廢止ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一　河川ノ區域、河川ノ支川及派川竝ニ河川ノ附屬物ノ認定

二　河川（支川及派川ヲ含ム）又ハ河川ノ附屬物ノ全部又ハ一部ニ付大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基ク改良工事及河川又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及ボスノ虞アル工事ノ計畫竝ニ施行

三　河川法第十七條及第十八條ノ規定ニ依ル許可ニシテ河川又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及ボスノ虞アルモノ

四　河川法第二十條ノ規定ニ依ル處分ニシテ內務大臣ノ認可ヲ經テ許可シタル事項ニ關スルモノ

五　河川法第二十九條ノ費用ニシテ河川法第八條第一項又ハ本條第一項第二號ノ工事ニ關スルモノノ負擔方法

〔大阪土〕

六　河川法第三十二條第一項ノ費用ニシテ國ニ於テ施行スル工事ニ原因スルモノノ負擔方法

七　河川法第四十二條ノ規定ニ依ル使用料又ハ占用料ノ徵收ニシテ發電ノ爲ニスル河川使用ニ關スルモノ

前項第二號及第三號ノ範圍ハ內務大臣之ヲ定ム

第三條　河川法第二十二條及第四十六條第一項ノ規定ニ依ル下級行政廳ノ處分竝ニ其ノ變更、停止及廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第四條　本令ニ依リ認可ヲ要スル事項ニ付テハ內務大臣ノ定ムル所ニ依リ輕易ナル事項ニ限リ認可ヲ受ケシメザルコトヲ得

第五條　北海道ニ付テハ本令中府縣知事ニ關スル規定ハ北海道廳長官ニ關シ、水利組合ニ關スル規定ハ土功組合ニ關シ之ヲ適用ス

附　則（昭和九年勅令第三〇五號）

本令ハ昭和九年法律第二十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●河川行政監督令第二條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ要スルモノノ範圍ニ關スル件

大正十五年八月二十七日
內務省令第四十三號

第一條　左ニ揭クル事項竝其ノ變更、停止及廢止ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但シ些少ナル變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　河川法第十七條ノ工作物ニ關スル工事ノ許可ニシテ左ニ揭クルモノ但シ河川法準用河川（水流水面ヲ含ム以下同シ）ニ付テハ第三號ニ該當スル事項ニ限ル

（一）　橋梁ノ新設及其ノ改築工事ニシテ徑間、最大高水位ヨリ桁下端迄ノ空間隔又ハ流水斷面積ヲ縮少スルモノ

（二）　河川又ハ其ノ附屬物ノ敷地內ニ於ケル家屋其ノ他ノ建物、電柱、鐵塔ノ築設及電纜、瓦斯管、水道管等ノ埋設

（三）　流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物ノ新築、改築又ハ除却ニシテ河川又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及ホスノ虞アルモノ

（四）　閘門、水門、樋門、陸閘其ノ他之ニ類スルモノノ新設

（五）　其ノ他河川又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及ホスノ虞アル工事

二　河川法第十八條ニ依ル河川ノ敷地又ハ流水ノ占用ノ許

可ニシテ左ニ揭クルモノ

(一)　發電ノ爲ニスル河川使用ニ關スルモノニシテ左記各號ノ一ニ該當スルモノ

1　河川法施行河川又ハ其ノ流域ニ屬スル河川法準用河川ニ付理論馬力百馬力以上ノ水力發生ノ爲ニスルモノ

2　前號以外ノ河川法準用河川ニ理論馬力一千馬力以上ノ水力發生ノ爲ニスルモノ及理論馬力百馬力以上ノ水力發生ノ爲ニスルモノニシテ左記各號ノ一ニ該當スルモノ

イ　掘鑿土砂二千坪以上ノモノ

ロ　貯水ヲ爲シ又ハ主トシ落差ヲ得ル目的ヲ以テ堰堤ヲ築造スルモノ

ハ　甲河川ヨリ引水シ乙河川ニ放水スルモノニシテ治水上利害關係ノ著シキモノ

ニ　堰堤以外ニ於テ舟筏ノ通航、材木ノ流下若ハ魚族ノ遡上ニ關シ特別ノ施設ヲ爲スモノ

ホ　灌漑其ノ他ノ水利事業ニ著シク障害ヲ及ホスノ虞アルモノ

(二)　其ノ他河川又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及ホスノ虞アルモノ

第二條　河川ニ關スル工事、河川法第十七條ノ工作物ニ關スル工事又ハ同法第十八條ニ依ル流水ノ占用ニシテ對岸他府縣ニ屬シ又ハ上流若ハ下流他府縣ニ連接スル場所ニ係ルモノ及他府縣ニ影響ヲ及ホスノ虞アルモノニ付テハ關係府縣知事ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルモノハ前條ニ拘ラス內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

〔大阪土〕

●河川ニ關スル行政監督ノ件

大正十五年八月二十七日
發土第四三號土木局長依命通牒
各府縣知事宛

本日勅令第二百九十號河川行政監督令竝內務省令第四十三號(河川行政監督令第二條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ要スルモノノ範圍ニ關スル件)公布相成候處

一　河川又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及ホスノ虞アルモノノ認定ハ一應貴官ニ於テ決定セラルヘキハ勿論ノ義ナルモ之レカ認定正鵠ヲ得サルトキハ河川行政監督上甚遺憾ノ義ニ付愼重調查ノ上認可ヲ受クヘキモノト然ラサルモノトノ間ニ苟モ正鵠ヲ失セサル樣御留意相成度

二　河川法第十八條ニ依ル流水占用ノ許可ニシテ發電ノ爲ニスルモノニ付新ニ省令ヲ以テ認可ヲ要スル範圍ヲ規定セラレ候處其ノ稟請手續及報告等ニ關シテハ從前ノ通大正五年十二月十六日發土第九五號及大正六年三月三十日發土第一九號竝之ニ關聯スル通牒ニ據ラルヘク又河川法施行及準用河川以外ノ河川其ノ他公有水面ノ水ノ使用ニシテ水力發生ノ爲ニスルモノニ關シテハ全然從前ノ通ニシテ何等變更無之候

三　左ニ揭クル事項ニ付テハ遲滯ナク其ノ要領ヲ具シ內務大臣ヘ報告相成度

イ　河川ノ區域、河川ノ支川及派川竝河川ノ隨屬物ノ認定

ロ　河川法ノ規定準用

ハ　明治三十五年七月內務省令第十六號ニ依ル告示

ニ　河川法第九條ニ依ル處分ニシテ內務大臣ノ認可ヲ要セサルモノ

ホ　河川法第二十九條及第三十二條ニ依ル費用ノ負擔方法ニシテ地方行政廳限リ處分シタルモノ

ヘ　河川法第三十條第三十一條ニ依ル處分

ト　河川法第三十九條ニ依ル建物其ノ他ノ障害物ノ除却

チ　河川法第四十二條ニ依ル使用料又ハ占用料ノ徵收ニシテ發電ノ爲ニスル河川使用ニ關スルモノ

リ　河川法第四十三條ニ依ル許可

ヌ　廢川敷地ノ告示

ル　明治三十三年六月內務省令第二十二號第一條ニ依ル處分但シ內務大臣ノ指揮ヲ受ケタルモノヲ除ク

ヲ　明治三十二年五月內務省令第十三號ニ依ル告示

ワ　河川法施行規程第十一條第一項但書ニ依ル處分

カ　河川法施行規程第十四條ニ依ル命令

ヨ　府縣費支辨河川ノ編入

(注意)

1　變更、停止、廢止ニ付テモ報告ヲ要スルモノトス

2　報告ヲ要スヘキ事項ニ付府縣令及告示ヲ發シタルトキハ其ノ寫添附ノコト

3　認可ヲ受ケタルモノニ付テハ其ノ認可年月日及番號附記ノコト

四　左記勅令、內務省令竝通牒ハ自然消滅ニ歸シタル義ニ有之爲念申添候

イ　明治二十九年勅令第二百三十五號

ロ　大正十一年五月內務省令第十一號

ハ　明治三十四年七月十九日土甲第三八號通牒

ニ　明治四十年八月十二日發第八五號通牒

ホ　大正十一年五月三十日發土第九九號通牒

●既成河川ニ關スル件

明治四十五年一月二十二日
四四土第三三〇八號土木局長通牒

京都、大阪、滋賀、千葉、茨城、三重、愛知、岐阜、福井、富山、佐賀、福岡各府縣知事宛

當省ニ於テ改修工事ヲ完成シ府縣ニ引渡シヲ了シタル河川ノ監督ニ就テハ曩ニ內務大臣ヨリ御訓示ノ次第モ有之其ノ管理ヲ完フスルト共ニ取締ヲ勵行セラルヘキハ勿論ノ義ニ候處當省ニ於テ調査スル所ニ依レハ大體別記各項ニ記載スル行爲ノ如キハ之カ取締ノ必要アルモノト被存候然レトモ右事項中地方ノ狀況又ハ河川ノ狀態等ニ依リ絕對ニ禁止若ハ不許可ノ處分ヲ爲シ能ハサルモノナキヲ保シ難カルヘク又右ノ外尙禁止制限若クハ不許可ノ處分ヲ爲スノ必要アルモノモ可有之ト被存候ニ付テハ此際十分御審議ノ上是等ノ事項ヲ定メ夫々別記各項ニ依リ御處理相成度依命此段及通牒候也

追テ當省土木出張所河川監督技術官ノ執務方ニ關シ別紙寫ノ通リ所長ヘ及通牒候條爲御參考此段申添候也

（別記）

一　河川法第十七條、第十八條竝第四十七條ニ基ケル命令ノ規定ニ依リ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項中左ニ記載セルモノノ如キハ治水上支障不尠ヲ以テ許可ヲ與ヘサルヲ相當ト認ムルモ地方ノ狀況竝從來ノ慣行等ニ依リ一時ニ之ヲ改ムルコトヲ得サル事情ノ存スルモノモ可有之付テハ右ノ內搔上堤ノ施設ハ絕對ニ之ヲ禁止シ其他ノ行爲ハ漸次此方針ニ依ル處分スルコトトシ地方ノ狀況及河川ノ狀態ニ鑑ミ相當取捨ノ上此際許可ヲ與ヘサル各事項ヲ定メ當省ニ申報スルコト

一　川敷及堤防ニ竹木ヲ植栽スルコト

二　川敷及改修堤防ニ家屋其ノ他ノ建物ヲ新築又ハ改築スルコト但シ堤防ニ水防小屋及渡船小屋ヲ新築及改築スルハ此ノ限ニ在ラス

舊堤防ニ於ケル家屋其他ノ建物ハ事情不得已モノノ外可成改修堤防ト同樣ノ取扱ヲ爲スコト

三　川敷及堤防ヲ物置場ニ供スルコト

四　制水、導水又ハ護岸ノ目的ノ爲ニ施設シタル河川附屬物ヲ物置場、物干場、渡船通路等ニ供スルコト但シ許可ヲ得テ相當ノ施設ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

五　川敷內ニ搔上堤ヲ設ケ其ノ他盛土ヲ爲スコト但シ用水引入ノ爲メ一時掘鑿土ノ盛上ケヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

二　河川法第十六條及第十九條ニ依レル命令ヲ以テ左記各事項ノ禁止若クハ制限ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ地方ノ狀況及河川ノ狀態ヲ參酌シ該命令ヲ制定スルコト

一　禁止事項

一　制水、導水若クハ護岸ノ目的ノ爲ニ施設シタル工作物又ハ量水標其ノ他ノ標杭ニ舟筏ヲ繫留スルコト

二　制水、導水及護岸ノ目的ノ爲ニ施設シタル工作物ヲ物置場、物干場、渡船通路等ニ供スルコト但シ許可ヲ得テ相當ノ施設ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

三　貨物陸揚ノ設備ナキ堤防、水制、護岸ニ於テ船積又ハ陸揚ヲ爲スコト

四　河川及堤防ニ土石塵芥其ノ他ノ物ヲ投棄スルコト

五　堤防ニ牛馬ヲ放牧スルコト

六　猥ニ堤防ノ法面ヲ昇降スルコト

七　捕魚ノ爲メ石附ヲ爲スコト

八　其ノ他堤防及制水、導水若クハ護岸ノ目的ノ爲ニ施設シタル工作物ノ維持上有害ナル行爲

二　制限事項

一　舟筏ノ通航及繫留

二　河岸地ヨリ船積又ハ陸揚ヲ爲スコト

三　堤外地及河岸地ニ木石ノ類ヲ積置クコト

四　川敷內ノ土石、砂礫ノ採取

五　捕魚ノ爲メ石附以外ノ行爲ヲ爲スコト

三　左記ノ各事項ハ河川管理上必要ノ義ト認ムルヲ以テ相當處理スルコト

一　現ニ河川又ハ附屬ノ占用許可ヲ受ケ居ルモノニシテ治水上支障アリト認メタルモノハ第一項ノ趣旨ニ準シ原形ニ復セシムルコト

二　從來許可ヲ得スシテ河川又ハ附屬物ヲ占用セルモノニシテ治水上支障ナキモノハ期限ヲ定メテ出願ノ手續ヲ爲サシメ其ノ支障アリト認メタルモノハ第一項ノ趣旨ニ準シ期限ヲ定メテ原形ニ復セシムルコト

三　川敷及堤防ノ竹木、雜草ノ芟除方法ヲ設クルコト

四　沿岸、沿堤其他河川附近ノ土地ニ指定ノ必要アル區域ニシテ未タ其ノ指定ヲ爲ササルモノハ速ニ其ノ手續ヲ爲スコト

五　用惡水路、樋管、水門等ノ維持修繕ヲ勵行セシムルコト

●河川法第五十條ニ依レル他ノ團體ニ對シ費用ヲ負擔セシムル件

明治三十二年六月十日
內務省令第二十二號

改正　大正一四年一〇月內務省令第一九號

第一條　府縣知事ニ於テ他ノ府縣又ハ他ノ府縣內ノ公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ヲ負擔セシメントスルトキハ其ノ

府縣知事ニ協議ノ上負擔金額及納付期限ヲ定ムヘシ

第二條　削除

第三條　第一條ノ協議調ハサルトキハ府縣知事ハ内務大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條　府縣知事ハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ期限確定シタルトキハ之ヲ其ノ府縣知事ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ負擔セシムヘキ金額アル場合ニ於テハ更ニ其ノ金額及納付期限ヲ其ノ公共團體ヲ直接ニ管轄スル行政廳ニ通知スヘシ

第五條　他ノ府縣ニ於テ期限内ニ其ノ負擔金額ヲ納付セサルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ其ノ旨ヲ具申スヘシ

他ノ府縣内ノ公共團體ニ於テ其ノ負擔金額ヲ期限内ニ納付セサルトキハ府縣知事ハ其ノ公共團體ヲ管轄スル府縣知事ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ河川法第五十五條第三項ニ依リ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムヘシ

第六條　内務大臣ニ於テ自ラ河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ府縣知事ニ代テ河川ノ管理ヲ爲シ若ハ其ノ維持修繕ヲ爲ス場合ニ於テハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ期限ハ内務大臣之ヲ定

〔大阪土〕

附　則　（大正一四年一〇月内務省令第十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●河川占用料滯納處分ノ件

明治四十四年一月二十六日
土第二六四二號土木局長回答

大阪府知事宛

本年六月十六日土地甲第一六二號ヲ以テ河川占用料徴收ニ關シ御問合相成候處右河川法占用料ハ河川法第五十五條ニ所謂私人ニ於テ負擔スヘキ費用ニアラサルモ府縣制第百十六條第二項及貴府三十一年五月告示第八十二號第十四條ニ依リ保證人ニ對シテモ滯納處分ヲ執行シ得ヘキ義ト存候此段及回答候也

大阪府知事伺（明治四十四年六月十六日）
土地甲第一六二號

河川占用料徴收ニ關シ左記ノ事項疑義相生候條至急何分ノ御回報相煩度此段及御問合候也

河川占用ヲ許可出願ノ手續上當該願書ニ保證人ヲ連署セシメタル場合其ノ占用料ノ徴收ニ關シテハ河川法第五十五條ニ依リ右保證人ニ對シ滯納處分ヲ執行シ差支ナキヤ

●河川法第五十八條ニ依レル罰則ノ件

明治三十三年四月十七日
勅令第百四十八號

改正　昭和九年一〇月勅令第三〇三號

第一條　許可ヲ受ケスシテ河川法第十七條ニ記載スル工事ヲ施行シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役若ハ禁錮、五十圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處ス

一　許可ヲ受ケスシテ河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者

二　河川法第二十三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ノ命ニ從ハサル者

三　許可ヲ受ケスシテ舟筏ヨリ通航料ヲ徴收シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者

附　則　（昭和九年勅令第三百三號）

本令ハ昭和九年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●河川法同施行規程等ニ依ル告示方法

明治三十二年五月十二日
内務省令第十三號

改正　大正八年九月内務省令第一四號、一四年一二月第二九號、昭和九年一〇月第二三號

第一條　府縣知事ニ於テ土砂扞止ノ爲ニ要スル土地、沿岸、沿堤若ハ河川附近ノ土地又ハ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ノ區域ヲ定メ之ヲ告示スルトキハ其ノ地方ノ公布式ニ依ルヘシ

第二條　前條ノ告示ニハ左ニ掲ケタルモノノ一又ハ一以上ニ依リ土地ノ區域ヲ明記スヘシ

一　市町村、大字、字又ハ小字

二　地番、地目

三　一定ノ地物又ハ之ヲ去ル距離及方向

四　圖面

第三條　内務大臣ニ於テ第一條ノ土地又ハ區域ヲ定メタルトキハ前條ニ準シ官報ヲ以テ之ヲ告示ス

第四條　北海道ニ付テハ本令中府縣知事ニ關スル規定ハ北海道廳長官ニ關シ之ヲ適用ス

附　則　（昭和九年内務省令第二十三號）

本令ハ昭和九年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔大阪土〕

第四章　準用河川

●河川法準用令

明治三十二年十月十四日
勅令第四百四號

改正　昭和九年一〇月勅令第三〇〇號

第一條　河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ水流若ハ水面又ハ河川ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ府縣知事之ヲ認定ス府縣知事前項ノ認定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示スヘシ

第二條　前條ノ認定ヲ受ケタル水流若ハ水面又ハ河川ニハ河川法第三條（敷地ヲ除ク）第四條第二項、第十二條、第十三條、第十六條乃至第二十三條、第三十四條、第三十八條乃至第四十三條、第四十五條乃至第四十七條、第四十九條第三項、第四項、第五十二條乃至第六十三條及之ニ基キテ發スル命令ノ規定ヲ準用ス

第三條　前條ニ揭ケタルモノノ外河川法ニ規定シタル事項ハ内務大臣又ハ府縣知事ニ於テ命令ヲ以テ第一條ノ認定ヲ受ケタル水流若ハ水面又ハ河川ニ準用スルコトヲ得但シ河川法第六條但書、第八條、第二十四條第二項、第二十六條乃至第二十八條及第三十三條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス府縣知事ニ於テ前項ニ依リ河川法ノ規定ヲ準用セントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第四條　北海道ニ付テハ本令中府縣知事ニ關スル規定ハ北海道廳長官ニ關シ之ヲ適用ス

附　則（昭和九年勅令第三〇〇號）

本令ハ昭和九年法律第二十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●河川法準用河川ノ附屬物及河川附近ノ土地ノ區域認定ニ關スル件

大正七年八月二十日
發第一一三號土木局長通牒
各地方長官宛

河川法ヲ施行セサル河川中其ノ重ナルモノニ付テハ各府縣共先年當省大臣ノ訓示ニ基キ大體ニ於テ既ニ夫々河川法ヲ準用相成候處更ニ進ムテ河川ノ附屬物及河川附近ノ土地ノ區域ヲ認定シ之レカ取締ヲ爲スニ非ラサレハ準用ノ效果ヲ收メ難キ次第ニ付可成速ニ認定ノ手續ヲ了シ取締ノ實蹟ヲ擧クル樣相當御措置相成度又其ノ認定ニ關シテハ特殊ノ事由アルモノヲ除ク外左記要項ニ據リ御處理相成度

記

第一　河川ノ附屬物ニ認定スヘキ工作物ノ種類

一　堤防

二　護岸及水制ノ類ニシテ重要ナルモノ

第二　河川ノ附屬物表示方法

一　堤　防

堤防一條毎ニ長及其ノ起終點ノ地名（小字迄但同一小字内ニ起點又ハ終點ヲ有スル他ノ堤防アルトキハ地番マテ）ヲ記入スルコト

二　護　岸

一箇所毎ニ長及其起終點（小字迄但同一小字内ニ起點又ハ終點ヲ有スル他ノ護岸アルトキハ地番マテ）ヲ記入スルコト

三　水　制

一箇所毎ニ長及所在地名（小字及地番マテ）ヲ記入スルコト

第三　河川附近ノ土地ノ區域表示方法

一　有堤部ニ在リテハ其ノ兩堤端（堤端堤防敷地界線ト馬踏ノ中心延長線トノ交點）ヨリ馬踏中心線ニ對シナセル或角度ヲ以テ示シタル線或ハ堤端標柱（標柱ニ番號ヲ附シ其ノ位置ヲ地名地番等ニテ明カナラシムルコト以下同シ）若ハ一定ノ地物ヲ見透シタル線ヲ以テ限ラレタル堤外地全部

二　無堤部ニ在リテハ左ノ一又ハ一以上ニ依リ地域ヲ表示スルコト但ロ號乃至二號ノ場合ニ於テ上下流ニ接續セル河川附近ノ土地ナキトキハ其ノ上流又ハ下流ノ境界線ヲ有堤部ノ表示方法ニ準シ表示スルコト

イ　地名又ハ地番

ロ　標柱ヲ建設シ之ヲ連結シタル線ヨリ河川敷地界線ニ至ル區域

ハ　一定ノ地物ヨリ河川敷地界線ニ至ル區域

ニ　河川敷地界線ヨリ測リタル距離

第四　河川附近ノ土地ノ内沿堤土地及沿岸土地ノ區域表示方法

一　沿堤土地ノ區域ハ兩堤端間ニ於ケル堤内堤防敷地界線ヨリ堤内ノ方ニ測リタル距離ヲ以テ表示スルコト

二　沿岸土地ノ區域ハ河川敷地界線ヨリ測リタル距離ヲ以テ表示スルコト

第五　河川敷地河川ノ附屬物及河川附近ノ土地ノ區域ハ陸地測量部刊行二萬分ノ一若ハ五萬分ノ一圖（略圖ヲ代用スルコトヲ妨ケス）ニ著色シテ之ヲ表示シ尚ホ河川ノ附屬物ハ別紙樣式ニ倣ヒ調書ヲ作リ圖面ト對照シ得ル樣調書及圖面ニ番號ヲ附スルコト

第六　第三項及第四項ノ河川敷地界ハ官有川敷（地租條例第二十四條ニ依リ川ニ歸シタル土地ヲ含ム）ト他ノ官民有地トノ界境ニ依ルコト但シ河川敷地ニ非サル官民有地ニシテ川成ノ狀態ヲ成シ永期ニ渉ルモノト認ムルトキハ河川法第二條ヲ準用シ河川區域ニ認定スルコト

第七　前項但書ニ依ル河川區域ノ表示方法

一　地域ヲ以テ河川區域ヲ表示スル場合ハ地名又ハ地番ニ依ルコト

二　境界線ヲ以テ河川區域ヲ表示スル場合ハ左ノ一又ハ一以上ニ依ルコト

イ　標柱ヲ建設シ其ノ各標柱ヲ連結シタル線

ロ　護岸又ハ堤防敷地界線

ハ　前二號其ノ他一定ノ地物ヨリ測リタル距離ニ基準ト爲スヘキ標柱ヲ建設シ其ノ各標柱ヨリノ方向（次ノ標柱ヲ連結セル線トナセル角度）及距離ニテ示セル各測點ヲ連結シタル線

河川附屬物調書

一　河　川

堤防（又ハ護岸水制、床固堰堤等夫々別記スルコト）

左岸（又ハ右岸）

番號	起點所在地名		終點所在地名		工種	長	摘要
	郡市	町村	大字	小字	地番		

（備考）

一　工種欄ノ記載方ハ堤防ニ在リテハ土堤、砂利堤及石堤等ニ區別シ護岸ニ在リテハ石積、混凝土工及板柵等ノ如ク記入シ水制堰堤ノ類ハ沈床（若シ之ニ打杭アラハ打杭何列施工セル旨ヲ記ス）木工床、石張工等ノ如ク別記スルコト

一　摘要欄ノ記載方ハ堤防ニ在リテハ土堤若ハ砂利堤ニ於テ其ノ法面ニ石張工又ハ混凝土工其ノ他ノ包覆工ヲ施設セルモノハ夫々堤長ニ全部若ハ點々ヲ施設セルヤノ實況ヲ摘記シ堤防護岸等ニシテ沈床（同上）、木工床、枠、打詰杭、捨石等ノ根固工ヲ施設セルモノハ前項ノ記載方ニ倣ヒ記入シ水制及堰堤ニ付テハ必要ト認ムル事項ヲ簡明ニ記載スルコト

●河川法準用河川採擇標準ノ件

大正五年三月一日
發土第九九號土木局長通牒
各地方長官宛

河川法ヲ施行セサル河川中其ノ重ナルモノニ對シ同法ノ規定準用ノ義ニ付テハ曩ニ大臣ヨリ再度御指示ノ次第有之タルモ爾來之ニ關シ未タ御稟伺ニ接セサルハ治水上遺憾トスル所ニ有之候依テ當省ニ於テ大體別記ノ標準ニ基キ全國ノ河川中河川法ノ規定ヲ準用スルノ必要アリト認ムルモノ選擇致候處貴管内ニ於テハ別表ノ河川其ノ選ニ當リ候ニ付別記各項ニ依リ御取調ノ上來ル四月十五日迄ニ準用方御稟伺相成度

準用河川選擇標準

一　左ノ資格ヲ四以上備フルモノ但シ利害關係寡ナキモノハ此ノ限ニアラス

一　流域十方里以上

二　流路十里以上

三　船ノ航路一里以上

四　本堤延長二里以上

五　欠止ヲ要スル延長二里以上

六　灌漑段別五百町歩以上

七　水害區域五百町歩以上

八　治水費最近十ケ年平均年額三千圓以上

九　水害損失價格最近十ケ年平均年額一萬圓以上

二　前項ノ標準ニ該當セサルモ特ニ必要アリト認ムルモノ選擇川及其加除

一　前項ノ標準ニ依リ河川法ヲ準用スルノ必要アリト認メタル河川別表ノ如シ

二　別表ノ河川ト雖モ其ノ狀態等ニ鑑ミ必要ナキモノハ河川法ヲ準用セサルコトヲ得但シ此場合ニ於テハ稟伺ノ際ノ事由ヲ詳具スルコトヲ要ス

三　別表以外ノ河川ト雖モ必要アリト認ムルモノハ河川法準用ノ稟伺ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其事由ヲ詳具スルコトヲ要ス

四　別表河川中利害關係重大ニシテ河川法ヲ施行スルノ必要アリト認ムルモノハ同法ノ準用ヲ見合セ河川法施行方上申スルコトヲ要ス

河川法準用ノ區域

一　河川法ヲ準用スヘキ區域ハ府縣ニ於テ之ヲ定メ其區域選定ノ事由ヲ詳具スルコトヲ要ス

河川法準用稟伺書添附圖書

一　準用區域調書

本調書ハ左ノ樣式ニ倣ヒ之ヲ調製スルコトヲ要ス

河川名	準用區域	區域選定ノ事由
何川	右岸　何縣何郡何村何字何々ヨリ 左岸　同シ　何々ニ至ル	
何沼	全面	

二　準用區域圖

本圖ハ參謀本部五萬分ノ一圖ニ赤線ヲ以テ準用區域ヲ劃シ尙該區域間ニ青色ヲ施スコトヲ要ス但シ本文圖面ノ調製ナキ地方ニ在リテハ參謀本部二萬分ノ一圖若ハ管內圖ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ妨ケス

（別表ヲ略ス）

〔大阪土〕

●河川法準用河川ノ選擇標準ニ關スル件

昭和三年七月三十日
發土第三〇號土木局長依命通牒
各地方長官宛

大正五年三月一日發土第九九號ヲ以テ標記ノ件及通牒置候處年次河川ノ利用激增シ又其ノ利用ノ途益多岐ニ亙リ從テ河川法準用ノ河川モ之ヲ治水及利水ノ兩方面ニ渉リテ選擇シ現時ノ實狀ニ適合セシメ因テ以テ河川ノ管理維持ヲ完全ナラシムルハ河川行政上最緊切ノ事タルヲ認メ新ニ選擇標準ヲ別紙ノ通選定相成候條右趣旨御了承ノ上稟伺方御取運相成度尙右標準ニ該當スル河川法準用河川ハ河川ノ狀態其ノ他特別ノ事由アルモノヲ除キ總テ府縣費支辨トナスヲ原則トシ其ノ他ノ河川ト雖比較的利害關係重要ノモノニアリテハ是亦府縣費支辨トナスコトヲ認ムル方針ニ內定セラレタル儀ニ付御承知相成度

河川法準用河川選擇標準

一、左ノ各號ノ一ニ該當スル河川（水流及水面ヲ含ム）ニ對シテハ河川法ヲ準用スルモノトス但シ特別ノ理由アリト認ムルモノハ標準ニ該當セサルモ河川法ヲ準用スルコトヲ得

（一）流域一府縣ニ止マラサルモノ

（二）流域五方里以上

（三）流路五里以上

（四）船ノ航路一里以上又ハ運河トノ連絡アルモノ若ハ其ノ計畫アルモノ

（五）本堤延長一里以上

（六）欠止ヲ要スル延長二里以上

（七）灌漑段別三百町歩以上

（八）水道用最大計畫使用水量合計每秒五立方尺以上ノ施設ノ設置若ハ其ノ計畫アルモノ

（九）灌漑及水道以外ノ最大使用水量合計每秒三十立方尺以上ノ施設ノ設置若ハ其ノ計畫アルモノ

（一〇）流域內ノ河川ニ總容量百萬立方尺以上ノ貯水池ノ設置若ハ其ノ計畫アルモノ

（一一）高サ三十尺以上ノ堰堤ノ設置若ハ其ノ計畫アルモノ

（一二）水害區域百五十町歩以上

（一三）水害ヲ被ムル連檐戶數五十戶以上若ハ之ト同等ノ被害アルモノ

（一四）鐵道軌道又ハ國府縣道ノ水害交通ニ著シキ支障アルモノ

（一五）治水費最近十ケ年平均年額壹千圓以上

（一六）水害損失價格最近十ケ年平均月額五千圓以上

〔大阪土〕

(一七)指定港灣若ハ府縣費支辨港灣ニ著シキ影響アルモノ
(一八)流木又ハ流筏ニ因リ河川ニ著シキ影響アルモノ
(一九)流域内ニ砂防設備ヲ要スルモノ
(二〇)河川ノ使用ニシテ著シク流水ノ方向、水質、水量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀ニ影響ヲ及ホスモノ
(二一)河川法施行又ハ準用河川ノ上流若ハ支派川ニシテ幹川ニ著シキ影響アルモノ
(二二)前項ノ標準ニ該當スル河川ニシテ河川ノ狀態其ノ他特別ノ事由ニ依リ直ニ準用シ難キモノ又ハ標準ニ該當セサルモ特ニ準用ノ必要アルモノハ稟伺ノ際其ノ事由ヲ詳具スヘシ
(二三)河川法ヲ準用スヘキ稟伺書ニハ左記圖書ヲ添附スヘシ

記

(一)河川法準用區域調書
本調書ハ次ノ樣式ニ倣ヒ之ヲ調製スヘシ

河川名	準用區域	區域選定ノ事由
何川	左岸 何郡何町村字何々ヨリ何々ニ至ル 右岸 同シ	
何沼全面		

(二)準用區域圖
現在準用河川及新ニ準用河川ニ編入セントスル河川ノ位置ヲ色別セル管内圖竝左記事項ヲ記入シタル陸地測量部發行五萬分ノ一地形圖(陸地測量部發行五萬分ノ一地形圖ナキトキハ適當ナル圖面)ヲ添附スルコト

記

(1)準用河川ニ編入セントスル區域ハ終始端ヲ赤線ヲ以テ劃スルコト
(2)準用河川ニ編入セントスル區域ノ流域ハ青色ヲ以テ劃スルコト
(3)準用河川ニ編入セントスル區域ニ於ケル灌漑區域ニハ紅色ヲ水害區域ニハ青色ヲ施スコト
(4)準用河川ニ編入セントスル區域ノ流域内ニ於ケル砂防設備地ニハ黃色ヲ施スコト
(5)準用河川ニ編入セントスル區域竝其ノ流域内ノ本標準ニ定メタル堰堤、貯水池等ノ構作物ノ位置ヲ記入スルコト

(三)準用標準内譯調
本調書ハ左ノ樣式ニ倣ヒ之ヲ調製スヘシ

標準事項名	河川	河川	河川		摘要
(一)					
(二)					
(三)					
〃					
〃					

備考
イ　標準事項中數字ヲ以テ表示シ難キモノニ付テハ各河川毎ニ別紙ニ詳具スルコト
ロ　標準事項中(八)乃至(一一)及(一九)ニ付テハ左記内譯書ヲ添附スルコト

●(大和川外六河川)河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ河川認定ノ件

明治三十四年五月二日
大阪府告示第百二十一號

左記河川ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ河川法第五條及明治三十二年勅令第四百四號ニ依リ河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ河川ト認定シ明治三十四年六月一日ヨリ施行ス

準用河川

〔大阪土〕

大和川
(昭和三年八月七日内務省告示第二〇七號ニヨリ抹消)
石川
(昭和五年六月二十六日指令第九一號ニヨリ抹消)
安威川
(昭和十一年六月十二日告示第六六一號ニヨリ抹消)
茨木川
(右ノ告示ニヨリ抹消)
東横堀川
左岸　大阪市東區京橋三丁目淀川分流ヨリ道頓堀川ニ至ル
右岸　同　市同區北濱一丁目淀川分流ヨリ道頓堀川ニ至ル
西横堀川
左岸　大阪市東區大川町淀川分流ヨリ道頓堀川合流ニ至ル
右岸　同　市西區土佐堀通一丁目淀川分流ヨリ道頓堀川合流ニ至ル
道頓堀川
左岸　大阪市南區二ッ井戸町ヨリ木津川合流ニ至ル
右岸　同　市西區大和町ヨリ木津川合流ニ至ル

●(猪名川外一河川)河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ河川認定ノ件

大正六年九月十三日
大阪府告示第百九十七號

左記河川ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ河川法第五條及明治三十二年勅令第四百四號ニ依リ河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ河川ト認定シ大正六年十月一日ヨリ施行ス

記

猪名川
左岸　豊能郡細河村大字古江字釜ヶ淵
下流　神崎川合流點ニ至ル

大津川
右岸　泉北郡穴師村大字板原字下川原下流海口ニ至ル
左岸　同　郡忠岡村大字馬瀬字川原下流海口ニ至ル

●(男里川外十三河川)河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ河川認定ノ件

昭和四年十月三日
大阪府告示第五百五十一號

左記河川ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ河川法第五條及明治三十二年十月勅令第四百四號ニ依リ河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ河川ト認定シ昭和四年十月十五日ヨリ施行ス

〔大阪土〕

男里川
左岸　自泉南郡東鳥取村大字鳥取中　以下海ニ至ル
右岸　自同　郡同　村大字同

樫井川
左岸　自泉南郡上之郷村大字母山
右岸　自同　郡日根野村大字日根野　以下海ニ至ル

牛瀧川
左岸　自泉南郡山直下村大字新在家
右岸　自同　郡同　村大字小倉　以下大津川合流點ニ至ル

槇尾川
左岸　自泉北郡南池田村大字浦田
右岸　自同　郡同　村大字和田　以下大津川合流點ニ至ル

石津川
左岸　自泉北郡鶴田村大字萬崎
右岸　自同　郡八田莊村大字八田　以下海ニ至ル

〔大阪土〕

東條川
左岸　自南河内郡中村大字神山　以下石川合流點ニ至ル
右岸　自同　郡同村大字同

恩智川
左岸　自中河内郡南高安村大字恩智　以下寢屋川合流點ニ至ル
右岸　自同　郡同　村大字同

江戸堀川
左岸　自大阪市西區江戸堀南通一丁目　以下木津川合流點ニ至ル
右岸　自同　市同區江戸堀北通一丁目

京町堀川
左岸　自大阪市西區靱北通一丁目　以下百間堀川合流點ニ至ル
右岸　自同　市同區京町堀通一丁目

阿波堀川
左岸　自大阪市西區阿波堀通一丁目　以下百間堀川合流點ニ至ル
右岸　自同　市同區靱南通一丁目

立賣堀川
左岸　自大阪市西區立賣堀南通一丁目　以下木津川合流點ニ至ル
右岸　自同　市同區立賣堀北通一丁目

長堀川
左岸　自大阪市南區鰻谷東之町　以下木津川合流點ニ至ル
右岸　自同　市同區末吉橋通一丁目

堀江川
左岸　自大阪市西區南堀江通一丁目　以下木津川合流點ニ至ル
右岸　自同　市同區北堀江通一丁目

百間堀川
左岸　自大阪市西區江戸堀南通五丁目　以下立賣堀川合流點ニ至ル
右岸　自同　市同區江之子島上之町

●(箕面川外十五河川)河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ河川認定ノ件

昭和十一年七月六日
大阪府告示第六百九十四號ノ二

左記河川ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ河川法第五條及明治三十二年十月勅令第四百四號ニ依リ河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ河川ト認定シ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス

箕面川
自豊能郡箕面村今井橋

至兵庫縣縣界
千里川
自豊能郡櫻井谷村内田明治橋
至猪名川合流點
天竺川
自豊能郡中豊島村大字福井福井橋
至神崎川合流點
佐保川
自三島郡福井村大字福井福井橋
至同　郡同　村茨木川合流點
勝尾寺川
自三島郡豊川村道祖本加治屋橋
至同　郡福井村茨木川合流點
女瀬川
自三島郡高槻町西垣内東海道線鐵橋
至同　郡同　町芥川合流點
北川
自北河内郡交野村郡津出鼻橋
至同　郡川越村天野川合流點
讃良川
自北河内郡府縣宣枚方八尾線高橋（四條畷豊野村界）
至同　郡寢屋川村寢屋川合流點

〔大阪土〕

東除川
自中河内郡惠我村南河内郡高鷲村界高鷲橋
至大和川合流點
飛鳥川
自南河内郡駒ヶ谷村月讀橋
至同　郡古市町石川合流點
梅川
自南河内郡石川村大字大ヶ塚大ヶ塚橋上流二百米
至同　郡駒ヶ谷村石川合流點
津田川
自泉南郡貝塚町阪和鐵橋
至海口
近木川
自泉南郡貝塚町阪和鐵橋
至海口
金熊寺川
自泉南郡信達村大字岡中西出橋
至同　郡雄信達村苧砥川合流點
山中川
自泉南郡東鳥取村新家阪和鐵橋
至同　郡苧砥川合流點
西除川

〔大阪土〕

自中河内村布忍村大字更池（布忍橋）
至泉北郡大和川合流點

●（箕面川外十五河川）河川法準用河川ノ區域ニ河川法第六條本文竝第二十四條第一項ノ規定準用ノ件

昭和十一年七月六日
大阪府令第六十一號

昭和十一年七月大阪府告示第六百九十四號ノ二ヲ以テ告示シタル河川法準用河川ニ對シ河川法第六條本文竝ニ同法第二十四條第一項ノ規定ヲ準用ス但シ本令施行前發生シタル災害ニ對スル復舊工事其ノ他施行計畫ノ確定シタル工事ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●（樫井川外二河川）河川法第六條本文竝ニ第二十四條第一項ヲ準用スヘキ河川ノ區域變更ノ件

昭和十一年七月六日
大阪府令第六十二號

〔大阪土〕

昭和四年十月大阪府令第六十四號ニ依リ河川法第六條本文竝ニ同法第二十四條第一項ヲ準用スヘキ河川ノ區域ヲ左記ノ通變更ス但シ本令施行前發生シタル災害ニ對スル復舊工事其ノ他施行計畫ノ確定シタル工事ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樫井川
左岸　泉南郡上ノ郷村大字母山
右岸　同　郡日根野村大字日根野　以下海ニ至ル

牛滝川
左岸　泉南郡山直町大字新在家　以下大津川落合ニ至ル
右岸　同　郡同　町大字小倉

槇尾川
左岸　泉北郡南池田村大字浦田　以下大津川落合ニ至ル
右岸　同　郡同　村大字和田

●（石津川）河川法準用河川中河川法第六條及第二十四條第一項準用ノ件

昭和十一年七月六日
大阪府令第六十三號

昭和四年十月大阪府告示第五百五十一號ヲ以テ告示シタル河

川法準用河川中左記ノ區域ニハ河川法第六條本文竝ニ同法第二十四條第一項ノ規定ヲ準用ス但シ本令施行前發生シタル災害ニ對スル復舊工事其ノ他施行計畫ノ確定シタル工事ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

石津川

左岸　泉北郡福泉町大字萬崎
右岸　同郡八田莊村大字八田　以下海ニ至ル

●河川ノ附屬物ト認定ノ件

明治三十四年六月十三日
大阪府告示第百四十九號

河川法ニ規定シタル事項ヲ準用セシ河川ノ堤防ハ內務大臣ノ認可ヲ受ケ河川法第四條第二項ニ依リ河川ノ附屬物ト認定ス

一、猪名川
堤防左岸

番號	起點所在地名				工種	長	摘要
	終點所在地名						
	郡市	町村	大字	小字	地番		
壹號	豐能郡	庄內村	庄本	島田		土堤	二、九二八間
	同郡	南豐島村	原田	才尾			
貳號	同郡	北豐島村	神田	中川原		同	四三七
	同郡	同村	神田	西垣內			

〔大阪土〕

●猪名川堤防河川附屬物認定ノ件

大正十五年四月二十六日
大阪府告示第百二十五號

左記工作物ハ內務大臣ノ認可ヲ受ケ河川法第四條第二項ニ依リ河川ノ附屬物ト認定ス

番號							
參號	同郡	同村	神田	河原島畑		同	一、四四二
	同郡	池田村		權田			
四號	同郡	北豐島村	神田	一本松	一、七二三	同	一二〇	分岐堤
	同郡	同村	神田	一本松	一、七二八		
五號	同郡	細河村	古江	芝野		同	一七六
	同郡	同村	古江	釜ヶ淵			

〔大阪土〕

●男里川外六河川堤防ノ河川附屬物認定ノ件

昭和五年二月二十日
大阪府告示第百三十七號

男里川外六河川ニ於ケル左記調書ノ堤防ハ河川法第四條第二項ニ依リ河川ノ附屬物ト認定ス

河川附屬物調書

一、河川　男里川
堤防左岸

番號	起點所在地名				工種	長	摘要
	終點所在地名						
	郡市	町村	大字	小字	地番		
	泉南郡	尾崎村		福島		土堤	一、二〇五間
	同郡	東鳥取村	鳥取中	高水			

一、河川　樫井川

堤防右岸

番號	起點所在地名	終點所在地名	工種	長	摘要
第一號	泉南郡同村	泉南郡雄信達村	土堤	九七五間	
第二號	泉南郡同村	泉南郡男里			
第三號	泉南郡同村	泉南郡ハマ堂前			

堤防左岸

番號	起點所在地名	終點所在地名	工種	長	摘要
第一號	泉南郡同村	泉南郡西信達村岡田川原	土堤	九五五間	
第二號	泉南郡同村	泉南郡西信達村中小路大苗代川原			
第三號	泉南郡同村	泉南郡北信達村大苗代向川原	同	一六〇間	

〔大阪土〕

一、河川　半濁川

堤防左岸

番號	起點所在地名	終點所在地名	工種	長	摘要
第一號	泉北郡同村	泉北郡忠岡村馬瀬井ノ向	土堤	四二・八間	

堤防右岸

番號	起點所在地名	終點所在地名	工種	長	摘要
第一號	泉南郡同村	泉南郡西信達村岡田大濱上	土堤	六七五間	
第二號	泉南郡同村	泉南郡西信達村北野星之宮田	同	一四五間	
第三號	泉南郡同村	泉南郡南中通村樫井不動山	同	一〇三間	
第四號	泉南郡同村	泉南郡上之郷村郷田間坂	同	一一五間	

〔大阪土〕

第二號	泉北郡 泉南郡	忠岡村 八木村	高月 西大路	前川原 川原		同	一三四間
第三號	泉南郡 同郡	山直下村 同村	新在家 同	中川原 同	一一五地先 三一ノ一地先	同	九二・八間
第四號	泉南郡 同郡	山直下村 同村	新在家 同	中川原 分關	一、四六四地先	同	六四・三間

堤防右岸

番號	起點所在地名	終點所在地名				工種	長	摘要
	郡市	町村	大字	小字	地番			
第一號	泉北郡 同郡	忠岡村 同村	高月 同	フケ コンダ		土堤	五四・二間	
第二號	泉南郡 同郡	八木村 同村	西大路 同	向井 同		同	八七・二間	

一、河川　槇尾川

堤防左岸

番號	起點所在地名	終點所在地名				工種	長	摘要
	郡市	町村	大字	小字	地番			

〔大阪土〕

	泉北郡 同郡	穴師村 忠岡村	板原 高月	中川原 野尻		土堤	四八二・七間	

〔大阪土〕

堤防右岸

番號	起點所在地名	終點所在地名				工種	長	摘要
	郡市	町村	大字	小字	地番			
第一號	泉北郡 同郡	穴師村 同村	板原 同	下川原 四ノ原		土堤	四九四・四間	
第二號	泉北郡 同郡	北池田村 同村	池田下 同	大田井 同	三一七地先 三一四地先	同	五七・〇間	
第三號	泉北郡 同郡	北池田村 同村	池田下 同	大田井 川ノ上	三一六地先	同	一七五・二間	
第四號	泉北郡 同郡	北池田村 同村	室堂 同	西久保 前代車尻		同	七四・〇間	

一、河川　東條川

堤防左岸

番號	起點所在地名	終點所在地名				工種	長	摘要
	郡市	町村	大字	小字	地番			

堤防右岸

一、河川　恩智川

〔大阪土〕

番號	起點所在地名	終點所在地名	工種	長	摘要
第一號	南河内郡同村	大伴村同村	土堤	五九五・〇間	
第二號	南河内郡同村	大伴村同村	同	六〇・〇間	
第三號	南河内郡同村	大伴村元北別井村	同	三九三・〇間	
第四號	南河内郡同村	大伴村元南別井村	同	八三・〇間	
第三號	南河内郡同村	大伴村元北別井村	同	一九六・〇間	
第二號	南河内郡同村	大伴村元北別井村	同	二八〇・〇間	
第一號	南河内郡同村	石川村同村	土堤	五二二・〇間	
番號	起點所在地名	終點所在地名	工種	長	摘要
郡	市町村	大字小字地番			
第一號	南河内郡同村	北大伴村同村	シマ下殿守	土堤	五九五・〇間
第二號	南河内郡同村	南大伴村同村	梶	同	六〇・〇間
第三號	南河内郡同村	南大伴村元北別井村	渡リ場向川原	同	三九三・〇間
第四號	南河内郡同村	大伴村元南別井村	前川原	同	八三・〇間
第三號	南河内郡同村	大伴村元北別井村	北川原二六〇地先	同	一九六・〇間
第二號	南河内郡同村	大伴村元北別井村	向梶二六〇地先	同	二八〇・〇間
第一號	南河内郡同村	石川村同村	河原ノ内	土堤	五二二・〇間
番號	起點所在地名	終點所在地名	工種	長	摘要
郡	市町村	大字小字地番			
第四號	南河内郡同村	大伴村元南別井村	前川原二六七ノ八地先二四五地先	同	八三・〇間
第三號	南河内郡同村	大伴村元北別井村	北川原二六〇地先二六七ノ九地先	同	一九六・〇間
第二號	南河内郡同村	大伴村元北別井村	向梶二六〇地先	同	二八〇・〇間
第一號	南河内郡同村	石川村同村	河原ノ内	土堤	五二二・〇間

堤防左岸

〔大阪土〕

番號	起點所在地名	終點所在地名	工種	長	摘要
郡	市町村	大字小字地番			
第一號	北河内郡同村	住道村中村東開一、二八三地先	土堤	二三二・〇間	
第二號	北河内郡中河内郡	住道村三箇三ノ割北堤一、一七四地先	同	四、二四三・九間	
第三號	中河内郡同村	同村同之島十皮一ノ坪二	同	一、〇五一・一間	
第四號	中河内郡同村	中高安村南高安村萬願寺西芦澤内	同	一、六三九・三間	
第一號	北河内郡同村	住道村三箇中島深野南稔ノ割	土堤	一、二九九・〇間	
第二號	中河内郡同村	孔舎衙村河内屋南伊ノ割	同	三一〇・〇間	
番號	起點所在地名	終點所在地名	工種	長	摘要
郡	市町村	大字小字地番			

番號	起點所在地名	終點所在地名	工種	長	摘要
第三號	中河内郡	中河内郡	同	孔舎衙村	
同	孔舎衙村	同	同	布市	
同	布市	同	同	味岡	
同	味岡	同	同	五〇四地先	
第四號	中河内郡	中河内郡	同	孔舎衙村	
同	孔舎衙村	同	同	布市	
同	布市	同	同	味岡	
同	味岡	同	同	五一一地先	
第五號	中河内郡	中河内郡	同	大戸村	
同	大戸村	同	同	植附	
同	植附	同	同	北濱東側島	
同	北濱東側島	同	同	五一二地先	
第六號	中河内郡	中河内郡	同	大戸村	
同	大戸村	同	同	石切植附	
同	石切植附	同	同	葭開西畑	
同	葭開西畑	同	同	四七六・〇間	
第七號	中河内郡	中河内郡	同	枚岡村	
同	枚岡村	同	同	額田豊浦	
同	額田豊浦	同	同	砂子三六	
同	砂子三六	同	同	七七〇・〇間	
第八號	中河内郡	中河内郡	同	縄手村	
同	縄手村	同	同	河内細井	
同	河内細井	同	同	島川中	
同	島川中	同	同	一、七二一地先	
第九號	中河内郡	中河内郡	同	縄手村	
同	縄手村	同	同	池島	
同	池島	同	同	萬寺	
同	萬寺	同	同	矢三十一	
第十號	中河内郡	中河内郡	同	三野郷村	
同	三野郷村	同	同	福萬寺	
同	福萬寺	同	同	矢三十一	
同	矢三十一	同	同	四八ノ一地先	
第十一號	中河内郡	中河内郡	同	三野郷村	
同	三野郷村	中高安村	同	上之島	
同	上之島	萬願寺	同	壹ノ坪	
同	壹ノ坪	樋之前	同	四一九地先	
同	四一九地先	三四ノ二地先	同	同	
第十二號	中河内郡	中高安村	同	萬願寺	
同	中高安村	萬願寺	同	樋之前	
同	萬願寺	同	同	三四ノ一地先	
同	樋之前	三四ノ一地先	同	一〇四地先	
同	三四ノ一地先	一〇四地先	同	三〇三・二間	

一、河川　石津川
堤防左岸

番號	起點所在地名	終點所在地名	工種	長	摘要
第一號	泉北郡	濱寺町	同	下石津西ノ山	
同	泉北郡	濱寺町	同	下石津西河原	
第二號	泉北郡	神石村	同	市サイノ上	
同	泉北郡	同	同	六十刀	
第三號	泉北郡	蹈尾村	同	エノヲ	
同	蹈尾村	同	同	平田	
第十三號	中河内郡	中高安村	同	萬願寺	
同	中高安村	同	同	東川田	
同	東川田	同	同	邊	
同	邊	同	同	一二五・一間	
第十四號	中河内郡	中河内郡	同	黒谷	
同	中河内郡	中高安村	同	敎興寺	
同	黒谷	敎興寺	同	平邊	
同	敎興寺	同	同	三二・〇間	
第十五號	中河内郡	中河内郡	同	南高安村	
同	中河内郡	南高安村	同	黒谷	
同	南高安村	同	同	東川田	
同	東川田	同	同	ビ田	
第十六號	中河内郡	中河内郡	同	南高安村	
同	中河内郡	南高安村	同	垣内	
同	南高安村	同	同	畑ケ田	
同	垣内	恩智	同	皆木田	
同	畑ケ田	皆木田	同	五五六・〇間	
同	恩智	同	同	二八二・五間	

堤防右岸

〔大阪土〕

番號	起點所在地名	終點所在地名					
	郡市町村	大字	小字	地番	工種	長	摘要
第一號	泉北郡同濱寺町	下石津	盤山北西ノ山	二八三地先	土堤	二四〇・七間	
第二號	泉北郡同濱寺町	下石津	我舞谷外垣内	二八三地先	同	三五九・〇間	
第三號	泉北郡同踞尾村	上ノ芝	上ノ芝	二八三地先	同	八二・〇間	
第四號	泉北郡同踞尾村	上ノ芝	上ノ芝	二八〇地先	同	三〇・〇間	
第五號	泉北郡同踞尾村	山ノ下	山ノ下	二〇五地先	同	七六三・六間	
第六號	泉北郡同踞尾村	山ノ下	山ノ下	二四ノ一地先	同	五四・〇間	
第七號	泉北郡同踞尾村	八田莊村	家原寺	二〇五地先	同	七六三・六間	
第八號	泉北郡同八田莊村	同家原寺	シナコゾミゾ	七〇地先	同	一六一・四間	
第九號	泉北郡同八田莊村	平田	下十二ホリタ	二	同	三二五・一間	
第十號	泉北郡同八田莊村	平田	ヤブノ下	同	同	四五・五間	
第十一號	泉北郡同八田莊村	同毛穴	シニメイリ	三五一地先	同	八三・〇間	
第十二號	泉北郡同八田莊村	毛穴	メイリブタイ	五三九地先	同	一八一・〇間	
第十三號	泉北郡同八田莊村	毛穴	フルカハ蛇ハミ		同	一六八・六間	

〔大阪土〕

番號	起點所在地名	終點所在地名					
	郡市町村	大字	小字	地番	工種	長	摘要
第四號	泉北郡同踞尾村	上平田口			同	四九九・〇間	
第五號	泉北郡同踞尾村	八田寺	森ノ内上ノ田		同	一、〇八二・七間	
第六號	泉北郡同八田莊村	八田寺	モモ山		同	一八〇・三間	

●安威川堤防公用廢止ノ件

昭和七年三月十一日
大阪府告示第百六十六號

安威川筋ノ內左記ノ區域ニ於ケル河川ノ附屬物タル堤防ノ公用ヲ廢止セリ

左　岸

大阪市東淀川區小松町六百拾番地先ヨリ大阪市東淀川區小松町六百參拾貳番地先ニ至ル（左記圖面ノ區域）（圖面略ス）

●河川法ニ規定シタル事項ヲ準用シタル河川內ノ土砂採取流水占用若ハ生產物刈取者出願方

明治三十四年六月
大阪府告示第百五十一號

河川法ニ規定セシ事項ヲ準用セシ河川ニシテ市町村其ノ他公共團體ニ於テ其ノ河川ニ關スル費用ヲ負擔スル河川內ノ土石、砂利ヲ採取シ又ハ河川敷地、堤防、流水ヲ占用シ若ハ生產物ヲ刈取ラントスル者ハ明治二十九年大阪府告示第百號官有土石砂利拂下規程、明治三十一年大阪府告示第八十二號河川敷地及流水占用規程、明治三十一年大阪府告示第百〇五號〔大阪土〕ニ準ジ河川內生產物拂下規程ニ準據シ其ノ所屬市町村其他公共團體ヲ管理スル行政廳ニ出願スヘシ

●市町村其他公共團體ニ於テ河川ニ關スル費用ノ負擔方ハ明治三十一年府令第三十九號ノ規定準用ノ件

明治三十四年五月二日
大阪府令第六十九號

河川法ニ規定シタル事項ヲ準用セシ河川ニシテ市町村其ノ他公共團體ニ於テ其ノ河川ニ關スル費用ヲ負擔スル河川ニハ內務大臣ノ認可ヲ受ケ明治三十一年大阪府令第三十九號ノ規定ヲ準用ス

●市町村ニ於テ其ノ費用ヲ負擔スル河川ノ使用料占用料其ノ他河川ヨリ生スル收益ノ歸屬方

昭和四年十月三日
大阪府令第六十五號

昭和四年十月大阪府告示第五百五十一號ヲ以テ河川法ニ規定シタル事項ヲ準用セシ河川ニシテ市町村ニ於テ其ノ費用ヲ負擔スル河川ノ使用料占用料其ノ他河川ヨリ生スル收益ハ所屬市町村ノ收入ニ歸ス

〔大阪土〕

●準用河川ニシテ市町村ニ於テ費用ヲ負擔スル河川ニ關スル占用竝ニ收益其他取扱ノ件

明治三十四年六月
大阪府訓令第三十一號

〔郡〕市役所、町村役場、水利組合役場

明治三十四年大阪府令第六十九號ノ河川ニ關スル占用竝收益其ノ他取扱ニ付テハ明治三十三年大阪府訓令第六十三號ノ規程ニ準據スヘシ

●明治三十四年府告示第百二十一號所屬市町村ニ於テ其ノ河川ニ關スル費用ヲ負擔スル河川ノ件

明治三十四年六月二十四日
大阪府告示第百六十九號

改正　明治三六年二月告示第三六號、大正一三年八月第二四二號

〔大阪土〕

明治三十四年大阪府告示第百二十一號中所屬市町村ニ於テ其ノ河川ニ關スル費用ヲ負擔スル河川ハ左ノ如シ

茨木川

左岸三島郡安威村大字安威佐保川合流下流安威川合流ニ至ル

右岸同郡福井村大字中河原勝尾寺川合流下流安威川合流ニ至ル

（右ノ內ヨリ左ノ區間削除）

左岸三島郡安威村大字安威字山西佐保川合流點ヨリ同郡宮島村大字島字外島安威川合流點ニ至ル

右岸三島郡福井村大字中河原字東河原勝尾寺川合流點ヨリ同郡三宅村大字太中字開キ安威川合流點ニ至ル

安威川

左岸三島郡安威村大字安威下流同郡味生村大字新在家（島飼村味生村堺界ヨリ三百四十五間下流）ニ至ル

右岸同郡同村大字同下流茨木川合流ニ至ル

但シ三島郡三ヶ牧村大字西面門樋及同郡宮島村大字島門樋下流ヲ包含ス

（右ノ內ヨリ左ノ區間削除）

左岸三島郡三宅村大字太田字橋詰太田橋ヨリ同郡味生村大字新在家字川田茨木川合流點ニ至ル

右岸三島郡安威村大字安威字川向太田橋ヨリ同郡宮島村大

字島字外島茨木川合流點ニ至ル
東横堀川
左岸大阪市東區京橋三丁目淀川分流ヨリ道頓堀川ニ至ル
右岸同市同區北濱一丁目淀川分流ヨリ道頓堀川ニ至ル
西横堀川
左岸大阪市東區大川町淀川分流ヨリ道頓堀川合流ニ至ル
右岸同市西區土佐堀通一丁目淀川分流ヨリ道頓堀川合流ニ至ル
道頓堀川
左岸大阪市南區二ッ井戸町下流木津川合流ニ至ル
右岸同市同區大和町下流木津川合流ニ至ル

●河川法ノ規定ヲ準用スル河川ヨリ生スル收入ニ關スル件

大正五年六月八日
發土第四三號土木局長通牒
各地方長官宛

河川法ノ規定ヲ準用スル河川ノ使用料占用料其ノ他ノ收入ハ其ノ河川ニ關スル費用ヲ負擔スル公共團體ニ歸スヘキ義ニ候條御了知相成度

〔大阪土〕

●土砂轉石拂下代金モ河川ヨリ生スル收入ニ包含ノ件

大正六年四月二十六日
新土第四四號土木局長通牒
各地方長官宛

河川法ノ規定ヲ準用スル河川ヨリ生スル收入ノ歸屬ニ付テハ客年六月發土第四十三號ヲ以テ申進置候次第有之候處右收入中ニハ其河川ヨリ生スル土砂轉石等ノ拂下代金ヲモ包含スル義ト存候得共往々伺出ラルル向モ有之候ニ付爲念及通牒候也

〔大阪土〕

第五章　河川法ヲ施行又ハ準用セサル河川

●河川法ヲ施行若ハ準用セサル河川又ハ港灣ニ關スル件

大正十一年五月二十六日
內務省訓令第六號

改正　大正一五年二月內務省訓令第三號、昭和二年一一月第二三號、三年八月第一〇號、四年七月第一〇號、第二二號、八年一月第一號、一〇年二月第一號

第一條　河川法ヲ施行若ハ準用セサル河川ニ關スル事項ニシテ左ニ揭グルモノハ本大臣ノ認可ヲ受ケ處分スヘシ

一　河川ノ全部若ハ一部ニ付大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キ施行スル改良工事ニシテ府縣費支辨ニ屬スルモノ

二　河川法ヲ施行若ハ準用スル河川ノ流域ニ屬スル河川ニ付流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物ノ新築改築又ハ除却ニシテ河川又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及ホスノ虞アルモノ

三　流域二府縣以上ニ跨ル河川ニ付他府縣ニ影響ヲ及ホスノ虞アル工事ニシテ關係府縣知事ノ協議調ハサルモノ

流域二府縣以上ニ跨ル河川ニ關スル事項ニシテ他府縣ニ影響ヲ及ホスノ虞アルモノハ關係府縣知事ニ協議ヲナスヘシ

第二條　港灣ニ關スル事項ニシテ左ニ揭グルモノハ本大臣ノ認可ヲ受ケ處分スヘシ

一　左ノ港灣ニ關スル新築、改築、除却工事但シ輕易ナル工事ニシテ豫メ稟伺省略ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

東京港、横濱港、清水港、名古屋港、四日市港、大阪港、神戸港、下關港、門司港、若松港（洞海灣ヲ含ム）、伊萬里港、長崎港、鹿兒島港、高松港、小松島港、今治港、那覇港、伏木港、境港、敦賀港、新潟港、土崎港、船川港、青森港、鹽釜港（花淵港ヲ含ム）、小名濱港、細島港、大分港、浦戸港、宮古港、七尾港、尾ノ道港、博多港、舞鶴港、酒田港、三角港、宇野港、廣島港、和歌山港、八戸港、飾磨港、宇部港、函館港、室蘭港、小樽港

二　前號港灣ノ外本大臣ノ指定スル港灣ニ關スル新築、改築、除却工事ニシテ其ノ港灣ノ利用ニ著シキ影響ヲ及ホスノ虞アルモノ

三　前各號以外ノ港灣ノ全部若ハ一部ニ付大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キ施行スル改良工事

第三條　前條ノ港灣ニ關シ明治四年太政官布告第六百四十八號ニ依リ使用料ノ徵收ヲ許可セムトスルトキハ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　本大臣ノ指定スル以外ノ河川又ハ第二條ニ該當セサル港灣ニ關スル費用ヲ府縣ノ支辨ト爲サムトスルトキハ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ支辨區域ヲ變更セムトスルトキ又ハ其ノ支辨ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第五條　河川法ヲ施行若ハ準用スル河川、水流若ハ水面ニ就キ府縣知事ニ於テ河川法第十七條若ハ第十八條ニ記載スル行爲ヲ爲サムトスルトキ又ハ同一ノ行爲ニ付行政廳ノ協議ニ應セムトスルトキハ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ「但シ大正十一年五月内務省令第十一號第一條又ハ第二條ニ依リ府縣知事限リ處分シ得ヘキ行爲ニ付キテハ此ノ限ニ在ラス」

附　則

大正元年十一月内務省訓令第二十五號ハ之ヲ廢止ス

●河川港灣ニ關スル處分禀伺方ノ件

大正十一年五月三十日
發土第九七號土木局長通牒
各地方長官宛

今般當省訓令第六號ヲ以テ標記ノ件訓令相成候處

一　本訓令ニ依リ禀伺ノ上處分シタル事項ト雖左ニ掲クルモノハ貴官限處分相成可然候

イ　第一條又ハ第二條ニ依リ認可ヲ受ケタル事項ノ些少ノ變更ニシテ認可ノ趣旨ニ反セサルモノ

ロ　第一條第一項第三號ニ依リ認可ヲ受ケタル事項ノ變更ニシテ關係府縣知事ノ間ニ協議調ヒタルモノ

ハ　第三條ニ依リ認可ヲ受ケタル事項中使用料徴收期間ノ變更

ニ　許可ニ因リテ生シタル權利義務ノ移轉

二　河川堤防又ハ港灣ノ大體ニ渉ル改修計畫ニ基キ施工スル工事ヲ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ於テ許可若ハ承認シタルトキハ直ニ其ノ計畫圖書ヲ具シ御報告相成度

三　大正元年十二月十二日土第一三二四號ヲ以テ及通牒候事項ハ第二號ヲ除クノ外總テ從前ノ通ト御承知相成度

四　大正元年十一月内務省訓令第二十五號ニ依リ禀伺ノ上處分シタル事項ノ變更ニ付テハ總テ本通牒ノ趣旨ニ依リ御處理相成度

●河川道路港灣等ニ關スル處分禀伺ノ場合取扱方ノ件

大正元年十二月十二日
土第一三二四號土木局長通牒
各地方長官宛

客月十六日〔内務省訓令第二十五號〕ヲ以テ河川道路港灣運河等ニ關スル處分中禀伺ヲ要スル件訓令相成候處

一　本訓令ニ於テ河身、堤防又ハ港灣ニ關スル工事ト稱スルハ河川又ハ港灣ノ爲ニスルモノト他ノ目的ノ爲ニスルモノトヲ問ハス河身堤防又ハ港灣ニ關スル總テノ工事ヲ指示スル義ニ有之候

二　（自然消滅）

三　河川法ヲ施行スル河川ノ河身及堤防ニ關スル工事ノ禀伺書ニハ工事ノ位置、形界等ヲ同一尺度ヲ以テ示シタル河川臺帳圖寫御添附相成度

四　港灣ニ關スル工事ノ禀伺書ニハ工事ノ位置、形界等ヲ同一尺度ヲ以テ示シタル海軍海圖又ハ其ノ寫（海圖ノ番號ヲ記入セラレタシ）御添附相成度

五　道路ノ部參照

六　明治四年太政官布告第六百四十八號ニ依ル使用料ノ徴收ニ關シテハ從前ノ方針ニ依リ御取扱相成度

七　明治十八年二月内務省達丁第二號、明治十九年八月内務省訓令第十三號、明治二十年五月内務省訓令訓第四三號中第十四號及第十五號、同年同月内務省訓令訓第四百三十四號、明治三十三年三月拓殖務省訓令第七十四號中第七號、明治三十年十二月内務省訓令訓第千百六號、明治三十八年三月内務省訓令第四號、明治三十八年三月内務省訓令第五號、明治二十一年四月通牒乙發第三十一號、明治三十一年二月通牒乙發第七號、明治三十九年一月通牒土甲第五十五號、明治三十九年六月通牒土甲第三十一號及明治三十九年六月通牒土甲第三十一號ノ内其ノ他本訓令ニ牴觸スル從前ノ通牒等ハ總テ消滅ニ歸シタル義ニ有之候

右依命及通牒候也

●河川指定ノ件

大正十一年五月二十七日
内務省告示第百三十二號

大正十一年五月内務省訓令第六號第四條ニ依ル河川左ノ通指定ス

水無瀬川　船橋川　穗谷川　天野川
木津川　尻無川　檜尾川　芥川　神崎川
左門殿川　中津川　大和川　寢屋川

第六章　雜

●大阪府共同荷揚場使用規則

昭和十年五月三十一日
大阪府令第三十八號

大阪府共同荷揚場使用規則左ノ通定ム

大阪府共同荷揚場使用規則

第一條　本則ハ大阪府知事ノ指定スル共同荷揚場ニ之ヲ適用ス

共同荷揚場ノ位置、區域ハ別ニ之ヲ告示ス

第二條　共同荷揚場ヲ使用スル者ハ大阪府荷揚場管理員ノ指示ニ從フヘシ

第三條　共同荷揚場ノ使用ハ翌日ノ日沒迄トス

第四條　前條ノ期間滿了後引續キ占用セントスル者ハ左記事項ヲ具シ知事ニ出願許可ヲ受クヘシ

一、共同荷揚場名稱
二、占用面積
三、占用期間
四、貨物ノ種類及數量

第五條　前條ノ占用期間ハ三十日ヲ超ユルコトヲ得ス但シ知事ニ於テ相當ノ理由アリト認ムル場合ハ期間ノ伸長ヲ許可スルコトアルヘシ

第六條　占用ノ許可ヲ受ケタル者ハ豫メ占用料ヲ納付スヘシ

占用料及其ノ徵收方法ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

既納ノ占用料ハ占用期間滿了前占用ヲ終リタル場合ト雖モ之ヲ還付セス

第七條　公共團體ノ公共事業ノ爲ニスル占用ニ關シテハ占用料ヲ減免スルコトアルヘシ

第八條　占用ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ區域ニ左記事項ヲ表示スヘシ

一　占用者ノ住所氏名
二、占用坪數
三、占用期間ノ始期及終期

第九條　共同荷揚場ハ左ノ目的ニ使用若ハ占用スルコトヲ得ス

一、火藥、爆藥其ノ他爆發性危險物ニシテ制規ノ包裝ナキモノノ積卸
二、劇藥、毒藥其ノ他衞生上危險ナル物件ニシテ制規ノ包裝ナキモノノ積卸

第十條　知事ハ各荷揚場ニ付取扱物件ヲ指定又ハ制限スルコトアルヘシ

第十一條　共同荷揚場又ハ其ノ附屬設備ヲ毀損シタル者ハ知事ノ命ズル所ニ從ヒ原形ニ復シ若ハ之ニ要スル費用ヲ賠償

スヘシ

第十二條　左ノ場合ニ於テハ使用占用ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スルコトアルベシ

一、本則若ハ許可ノ條件ニ違反シタルトキ

二、河川ニ關スル工事ノ爲必要アルトキ

三、其ノ他公益上必要アリト認メタルトキ

但シ第一號ノ場合ハ既納ノ占用料ヲ還付セズ

第十三條　第四條、第九條又ハ第十條ノ指定若ハ制限ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大阪府共同荷揚場使用規則第一條ニ依ル共同荷揚場ノ位置、區域

昭和十年八月三十日
大阪府告示第六百十四號

昭和十年五月大阪府令第三十八號大阪府共同荷揚場使用規則第一條ニ依ル共同荷揚場ノ位置區域左ノ通指定ス

大阪府共同荷揚場

等級	河川名	共同荷揚場名	坪數	所在地
一等地	安治川	左岸第一號	四九坪	港區南安治川通一丁目五七地先
同	同	同第二號	六二	同　四四
同	同	同第三號	二四	西區川口町四〇地先
同	同	右岸第一號	六〇	此花區川岸町一丁目地先
同	同	同第二號	五九	同　區北安治川通三丁目三六ノ一
同	同	同第三號	五六	同　二五ノ一

〔大阪土〕

同	同	同第四號	五六	同	二丁目三七ノ一	
同	同	同第五號	二五	同	二六ノ一	
同	同	同第六號	二九	同	一丁目八八ノ二	
同	同	同第七號	三一	同	八二	
同	木津川	左岸第一號	九〇	西成區津守新道地先		
同	尻無川	右岸第一號	七〇	港區北福崎東ノ町一地先		
同	同	同第二號	四二	同區尻無川北通六丁目六地先		
同	同	同第三號	六三	同　五丁目一一五地先		
同	同	同第四號	七〇	同　一地先		
同	同	同第五號	三六	同　四丁目一地先		
同	同	同第六號	五六	同　三丁目一八地先		
同	同	同第七號	七〇	同　二丁目一地先		
同	同	同第八號	九四	同區南境川町一丁目二九地先		
同	同	左岸第一號	七〇	大正區新千歲町一八六地先		
同	同	同第二號	一一三	同	二〇一地先	

〔大阪土〕

同	同	同　第三號	一二九	同	區北恩加島町一七ノ一地先		
同	同	同　第四號	二二〇	同	一地先		
同	同	同　第五號	九七	同	區泉尾濱通一丁目二八地先		
同	同	同　第六號	一七	同	區三軒家市場通一丁目一九地先		
同	同	同　第七號	一九	同	區櫨町一丁目一地先		
計	二六箇所						
二等地	土佐堀川	左岸　第一號	二〇坪	西區土佐堀通五丁目四六ノ一、四六ノ二			
同	同	同　第二號	二二	同	四五ノ一		
同	淀　川	右岸　第一號	三、二六〇	東淀川區長柄濱通一丁目二地先			
同	同	左岸　第一號	四八〇	北區澤上江町一丁目三二地先			
同	堂島川	右岸　第一號	五二	此花區上福島二丁目一四〇ノ七、一四〇ノ一〇			
同	同	同　第二號	一八	北區堂島濱通二丁目二七			
同	木津川	左岸　第二號	一六	西區南堀江通六丁目五三ノ四			
同	同	同　第三號	二一	同區新町南五丁目三四ノ一、三五ノ一			
同	同	同　第四號	二五	同區新町通五丁目三三ノ一、二、三			

〔大阪土〕

同	同	同　第五號	二〇	同區江ノ子島西ノ町二九ノ一			
同	同	右岸　第一號	四四	同區松島町二丁目五八ノ二、三、四			
同	中津川	左岸　第一號	七三	此花區四貫島元宮町地先			
同	同	同　第二號	九二	同			
同	同	同　第三號	八六	同	大通一丁目地先		
同	同	右岸　第一號	九三	西淀川區傳法町北一丁目地先			
同	同	同　第二號	六七	同			
同	六軒屋川	左岸　第一號	五四	此花區六軒町地先			
同	同	同　第二號	二一	同			
同	同	同　第三號	五四	同	區西野下ノ町地先		
同	同	同　第四號	二八	此花區新家町二丁目地先			
同	同	右岸　第一號	二〇	同	區春日出町上三丁目地先		
同	同	同　第二號	七二	同	區四貫島旭町三丁目地先		
同	同	同　第三號	九四	同			
同	同	同　第四號	八〇	同	一丁目地先		

〔大阪土〕

同	同	同	第五號	一六〇	同區四貫島大通一丁目	
同	傳法川	左岸	第一號	一一七	西淀川區傳法町南三丁目地先	
同		右岸	第一號	五五	同　北四丁目地先	
計	二七箇所					
三等地	寢屋川	左岸	第一號	一〇坪	旭區鴫野町四ノ一地先	
同		同	第二號	四	同區新喜多町二五三地先	
同		同	第三號	六一	同區放出町一、三二九ノ一地先	
同		同	第四號	九一	同　一、三二九地先	
同		同	第五號	四二	同　七一五地先	
同		同	第六號	九一	同區今津町一、〇〇八地先	
同		同	第七號	九一	同　九二七地先	
同		同	第八號	三〇	同	
同	神崎川	同	第一號	一八〇	西淀川區出來島町千北橋下手地先	
同		同	第二號	四二〇	東淀川區三津屋北通地先	
同		同	第三號	一、四一一	同　新高北通一丁目地先	

〔大阪土〕

同	同	同	第四號	六〇〇	同　三國町地先	
同	同	同	第五號	八四〇	三島郡吹田町字御旅島町地先	
同	同	右岸	第一號	一八〇	西淀川區佃町七二二地先	
同	同	同	第二號	一八〇	同　區蒲島町七二、七三、七四地先	
同	同	同	第三號	七一五	豐能郡庄內村菰江三國橋脇	
同	新淀川	右岸	第一號	一、九六〇	西淀川區野里町姫島町地先	
計	一七箇所					
總計	七〇箇所					

〔大阪土〕

●共同荷揚場占用料金及其ノ徵收方法

昭和十年八月三十日大阪府告示第六百十五號

昭和十年五月大阪府令第三十八號大阪府共同荷揚場使用規則第六條第二項ニ依ル共同荷揚場占用料金及其ノ徵收方法左ノ通定ム

共同荷揚場占用料金表

等級	期間	面積	料金 十日迄	料金 十一日以降二十日迄	料金 二十一日以降
第一等地	一日	一坪	八錢	十五錢	三十錢
第二等地	同	同	五錢	十錢	二十錢
第三等地	同	同	三錢	五錢	十錢

一坪ニ滿タザル占用面積ハ一坪ニ切上算定ス

一日ニ滿タザル占用期間ハ之ヲ一日トシテ計算ス

一廉ノ料金二十錢ニ滿タザルモノハ二十錢ニ切上算定ス
前表等級ニ關シテハ別ニ告示ス

●船圍場使用ニ關スル願届書式

明治三十四年七月二十九日
大阪府告示第二百號

改正　大正二年三月告示第七四號

船圍場使用ニ關スル願届書式左ノ通相定ム

（第一號書式）

船舶繫圍御届

船籍港何何
何丸又ハ何號（船舶ノ名稱ヲ記入）何石何噸又ハ何間
右本日ヨリ繫圍仕度候間入場券御下付相成度候也

年　月　日

住所
船主　氏　　名㊞

大阪府船圍場管理員宛

備考

此ノ届書ト同時ニ船圍場使用規則第二十七條ノ管理者ヲ定メタルトキハ本例ニ準シ左ノ通記載シ之ニ管理者連署捺印スルトキハ別ニ管理者届書ヲ差出サヽルモ妨ケナシ

〔大阪土〕

「前略」入場券御下付相成度尤モ使用料納入ニ關スル事項ヲ管掌セシムル爲左記ノ者ヲ以テ管理者ト定メ候間此段御届申上候也

（第二號書式）

船圍場土地（水面）使用願

大阪市西區何町第何番地（水面ニハ第何番地先ト記入ヲ要ス）

大阪府船圍場土地（水面）

一、坪數何坪

右土地（水面）ハ何々用（使用ノ目的記入ヲ要ス）ノ爲明治何年何月ヨリ同何年何月迄何年何月間使用致度就テハ貴府船圍場使用ニ關スル一切ノ規則ヲ遵守スヘキハ勿論使用料ハ御指定ノ通上納可致候間御許可相成度別紙圖面添付此段相願候也

年　月　日

住所
氏　　名㊞

大阪府知事宛

備考

圖面ニハ左ノ事項ヲ明記スルコトヲ要ス

一、實測ニ依ル坪數ノ算出方

二、方位及隣地ノ番號

〔大阪土〕

（第三號書式）

船圍場倉庫使用願

大阪市西區何町
大阪府船圍場第何號第何庫
一　倉庫　何戸前
此建坪何坪

右倉庫ハ何々用（使用ノ目的記入ヲ要ス）ノ爲明治何年何月ヨリ同年何月迄滿一箇年（又ハ何箇月）間使用致度就テハ貴府船圍場使用ニ關スル一切ノ規則ヲ遵守スヘキハ勿論使用料ハ御指定ノ通上納可致候間御許可相成度此段相願候也

年　月　日

住所
氏　　名㊞

大阪府知事宛

（第四號書式）

船圍場土地使用目變更願

大阪市西區何町大阪府船圍場第何番地ハ何々用（使用ノ目的記入ヲ要ス）ノ爲明治何年何月迄使用ノ御許可ヲ相受居候處今般何々（變更ヲ要スル事由詳記ヲ要ス）ニ付將來何々（將來使用ノ目的記入要ス）ニ使用致度右變更ノ義御許可相成度此段相願候也

〔大阪土〕

年　月　日

住所
大阪府知事宛　　氏　　名㊞

備考

水面等ノ使用目變更願ハ本例ニ準ス

（第五號書式）

船圍場土地使用權義移轉願

大阪市西區何町第何番地
大阪府船圍場土地
一、坪數何坪
但シ地上ニ何々ヲ築設又ハ存在ス（土地ニ定著シタル工作物其ノ他存在セル物件ヲ詳記スルヲ要ス）

右ハ何某ニ於テ何々（從來使用ノ事由ヲ詳記スルヲ要ス）ノ爲明治何年何月迄使用ノ御許可相受居候處今回該地上ノ物件（又ハ該地ニ定著物件）ヲ何某ヘ賣買（又ハ讓渡其ノ他ノ事由ヲ詳記スルヲ要ス）仕度候ニ付御來何某ニ於テ該使用ノ權義ヲ承繼仕度就テハ貴府船圍場ニ關スル一切ノ規則ヲ遵守スヘキハ勿論使用料ハ御指定ノ通上納可致候間御許可相成度別紙圖面添付此段相願候也

年　月　日

住所

承繼者　住所　氏　名㊞
現使用者　住所　氏　名㊞

大阪府知事宛

備考
一、使用者死亡ノ爲其ノ相續者ヨリ使用ヲ出願スル場合ハ本例ニ準シ其ノ旨記載ヲ要ス
二、圖面ノ調製ハ船圍場土地（水面）使用願ノ例ニ準ス
三、水面倉庫ノ使用權義移轉願ハ本例ニ準ス

（第六號書式）

船圍場土地（水面）使用繼續願

大阪市西區何町第何番地（水面ニハ第何番地先ト記入ヲ要ス）
大阪府船圍場土地（水面）
一、坪數何坪

右土地（水面）ハ何々用（使用ノ目的記入ヲ要ス）ノ爲明治何年何月迄使用龍在候處該土地（水面）ハ何々（事由ヲ詳記スルヲ要ス）ニ付仍明治何年何月迄何年何箇月間繼續使用仕度就テハ船圍場使用ニ關スル一切ノ規則ヲ遵守スヘキハ勿論使用料ハ御指定ノ通上納可致候間御許可相成度別紙圖面添付此段相願候也

年　月　日

住所　氏　名㊞

大阪府知事宛

備考
一、工作物ノ改築、變更、除却ノ願書ハ本例ニ準ス
二、使用ヲ許可セラレタル土地、水面保護ノ爲施行スル工作物ニ就テハ本願ニ左ノ追書ヲ要ス

〔大阪土〕

「追テ本工事落成ノ上ハ直チニ府有ニ歸セシメラレ度此段併願候也」

（第八號書式）

工事著手御屆

何月何日付ヲ以テ御許可相成候西區何町大阪府船圍場土地第何番地上ヘ何々（工作物ノ名稱記入ヲ要ス）新設（又ハ何々）工事ハ來ル何日ヨリ著手可致候間此段御屆申上候也

年　月　日

住所　氏　名㊞

大阪府船圍場管理員宛

（第九號書式）

工事竣功御屆

何月何日付ヲ以テ著手ノ旨御屆申上候西區何町大阪府船圍場土地第何番地上ヘ何々（工作物ノ名稱記入ヲ要ス）新設（又ハ何々）工事ハ本月何日竣功仕候間此段御屆申上候也

年　月　日

住所　氏　名㊞

大阪府船圍場管理員宛

（第十號書式）

管理者御屆

船圍場使用料納入ニ關スル事項ヲ管掌セシムル爲左記ノ者ヲ以テ管理者ト定メ候間此段御屆申上候也

年　月　日

住所　使用者　氏　名㊞
住所　管理者　氏　名㊞

大阪府船圍場管理員宛

第五類運河

第五類　運河

〔大阪土〕

○運河法……大正二年四月法律一六號……一
○運河法施行規則……大正二年一一月內務省令一七號……三
○運河開設免許申請方ノ件……大正二年一二月內務省訓令七三二號……六
○都市計畫事業運河新設ニ關シ運河法第一條ノ規定ノ取扱ニ關スル件……大正一三年六月省議決定……七

第五類　運河

●運河法

大正二年四月九日
法律第十六號

改正　大正四年一月法律第三號

第一條　一般運送ノ用ニ供スル目的ヲ以テ運河ヲ開設セムトスル者ハ內務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

第二條　免許ヲ受ケタル者ハ內務大臣ノ指定シタル期限內ニ工事設計ノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

第三條　國、公共團體又ハ行政廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ運河ニ接續若ハ接近シ又ハ之ヲ橫斷シテ河川、溝渠、道路、橋梁、鐵道、軌道其ノ他公共ノ用ニ供スルモノヲ造設スルモ免許ヲ受ケタル者ハ運河ノ效用ニ妨ナキ限リ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ內務大臣又ハ地方長官ハ公益上必要ト認ムルトキハ免許ヲ受ケタル者ニ命シ接續、橫斷ノ場所ニ於ケル設備ヲ共用ニ供セシメ又ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得

第四條　前條第一項ノ場合ニ於テ運河ノ效用ニ妨アリヤ否ニ付爭アルトキ又ハ同條第二項ノ場合ニ於テ設備ノ共用若ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五條　工事カ其ノ設計又ハ免許、許可若ハ認可ノ條件ニ違反スルトキハ地方長官ハ其ノ改築、除却又ハ停止ヲ命スルコトヲ得

第六條　工事ノ全部又ハ一部竣功シ運送ヲ開始セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　免許ヲ受ケタル者ハ通航料其ノ他運河使用ニ關スル規程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官ニ於テ公益上必要ト認ムルトキハ前項ノ規程ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第八條　內務大臣又ハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ヨリ事業ノ報告ヲ徵シ又ハ其ノ狀況ヲ檢查スルコトヲ得

第九條　內務大臣又ハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ニ對シ運河及附屬物件ノ維持修繕ヲ命シ其ノ他公益上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十條　運河及附屬物件ハ免許ノ效力存續スル間及其ノ效力消滅後一年間ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

第十一條　株式會社又ハ株式合資會社カ事業經營者タル場合ニ於テハ株式ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分一迄下ルコトヲ得

第十二條　左ニ揭クルモノヲ以テ運河用地トス

一　水路用地及運河ニ屬スル道路、橋梁、堤防、護岸、物

揚場、繫船場ノ築設ニ要スル土地
二　運河用通信、信號ニ要スル土地
三　上屋、倉庫等ノ建設ニ要スル土地
四　運河ニ要スル船舶、器具、機械ヲ修理製作スル工場ノ建設ニ要スル土地
五　職務上常住ヲ要スル運河從事員ノ舍宅及從事員ノ駐在所等ノ建設ニ要スル土地

前項第三號乃至第五號ニ掲クル土地ハ運河ニ沿ヒタルモノニ限ル

第十三條　明治四十二年法律第二十八號ハ運河ノ抵當ニ之ヲ準用ス

第十四條　運河財團ハ左ニ掲クルモノニシテ運河財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス
一　水路其ノ他ノ運河用地及其ノ上ニ存スル工作物竝之ニ屬スル器具、機械
二　工場、上屋、倉庫、事務所、舍宅及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具、機械
三　運河用通信、信號ニ要スル工作物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具、機械
四　前三號ニ掲クル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上ニ存スル地上權、登記シタル賃借權及前三號ニ掲クル土地ノ爲ニ存スル地役權

〔大阪土〕

五　運河ニ要スル船舶竝之ニ屬スル器具、機械
六　運河ノ維持修繕ニ要スル材料及器具、機械

第十五條　國又ハ公共團體ハ免許ノ效力消滅シタル後運河開設ニ要シタル費用ヲ支拂ヒ其ノ運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得但シ運河及附屬物件ニシテ開設當時ニ比シ價格ヲ減損シタルモノアルトキハ開設ニ要シタル費用ヨリ之ヲ控除ス

前項費用ノ範圍及金額ニ付協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十六條　國又ハ公共團體ニ於テ必要ト認ムルトキハ免許年限ノ滿了前ト雖運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得

前項ノ買收價格ニ付協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十七條　左ニ掲クル場合ニ於テハ免許ヲ取消スコトヲ得
一　法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ
二　免許、許可若ハ認可ノ條件ニ違反シタルトキ

第十八條　工事竣功前免許ノ效力消滅シタル場合ニ於テハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ニ對シ原狀ノ回復其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第十九條　前二條ノ場合ニ於テ同一路線ニ當リ運河ノ開設ヲ

〔大阪土〕

免許セラレタル者ハ運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得

前項ノ買收價格ニ付協議調ハサルトキハ第十六條第二項ノ規定ニ依ル本條ノ規定ハ運河財團ニ屬スルモノニハ之ヲ適用セス

附　則

第二十條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正二年勅令第三百五號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行）

第二十一條　本法施行前免許ヲ受ケタル運河ニ關シ本法ヲ適用スヘキ範圍ハ內務大臣之ヲ定ム

第二十二條　本法ノ適用ヲ受クル運河ノ用地ニシテ免許條件ニ依リ官有ニ歸屬シタルモノハ之ヲ運河經營者ニ下付スルコトヲ得

●運河法施行規則

大正二年十一月二十八日
內務省令第十七號

改正　大正七年四月內務省令第七號

運河法施行規則左ノ通定ム

運河法施行規則

第一條　運河開設免許ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添付スヘシ

一　起業目論見書
二　運河豫測圖
三　開設費概算書
四　事業上ノ收支概算書
五　組合事業ニ在リテハ其ノ組合契約書ノ謄本
六　會社發起人ニ在リテハ定款ノ謄本
七　會社ニ在リテハ其ノ會社ノ登記及定款ノ謄本竝運河事業經營ニ關スル株主總會ノ決議錄若ハ總社員ノ同意書ノ謄本
八　公共團體ニ在リテハ其ノ團體ノ運河事業經營ニ關スル決議書ノ謄本

第二條　起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　起業ノ目的及理由
二　運河ノ名稱及主タル事務所設置地
三　事業資金ノ總額及財源
四　運河ノ起點、終點及經過地名
五　運河ノ延長、底幅及水深（里町間尺ヲ以テ示スヘシ）
六　運河ヲ通航スヘキ最大舟筏ノ長、幅及吃水竝航行ノ方法
七　工事施行期間
八　事業經營期間

第三條　運河豫測圖ハ左ノ三種トス

一　平面圖

縮尺ハ二万分一以上トシ運河ノ中心線、閘門、水門、隧道、物揚場、乗降場、繋船場、船溜、待避場等ノ位置竝附近ノ鐵道、軌道、重要ナル道路、水流、水面等ノ位置及名稱ヲ記載シ運河中心線ノ距離ハ六町毎ニ記入スヘシ

二　縦断面圖

縮尺ハ距離ヲ二万分一以上、高ヲ二百分一以上トシ地盤及運河底敷ノ高位、諸水位（成ルヘク陸地測量部水準基線ニ據ルヘシ）竝平面圖ニ示シタル各種工作物ノ位置ヲ記載シ距離ハ六町毎ニ記入スヘシ

三　横断定規圖

縮尺二百分一以上トシ縦横ノ各寸法ヲ記入スヘシ

運河豫測圖ニハ運河經過地ノ地勢、水路選定ノ理由竝運河ト附近ノ鐵道、軌道、重要ナル道路、水流、水面、社寺、公園、名勝、舊蹟等トノ關係ヲ説明シタル書類ヲ添付スヘシ

第四條　開設費概算書ニハ其ノ總額ヲ測量費、監督費、用地費、土工費、閘門費、水門費、隧道費、橋梁費、通信信號設備費、建物費、船舶費、器具機械費、總係費等ノ各項ニ分チ數量及金額ヲ記載スヘシ

第五條　事業上ノ收支概算書ニハ收入及支出ノ總額、内譯竝其ノ計算ノ基ク所ヲ示シ且事業資金ニ對スル純益ノ割合ヲ

〔大阪土〕

第六條　工事設計認可ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添付スヘシ

一　運河實測圖
二　構造圖
三　工事説明書
四　土坪計算書
五　開設費豫算書

第七條　運河實測圖ハ左ノ三種トス

一　平面圖

縮尺ハ三千分一以上トシ運河ノ中心線、曲線ノ半經及交角、運河用地ノ境界、水路、閘門、水門、隧道、道路、曳船道、堤防、物揚場、繋船場、船溜、待避場、上屋、倉庫、工場、舍宅、駐在所、通信所、信號所等及之ニ要スル土地ノ區劃、用地以外左右各百間以内ノ地勢、附近ノ市街、村落、鐵道、軌道、道路、水流、水面、社寺、公園、名勝、舊蹟等及其ノ名稱、運河開設ニ伴ヒ鐵道、軌道、道路、水流、水面等ヲ變換スル爲施設スヘキ工作物、府、縣、郡、市、區、町、村ノ境界及方位ヲ記載シ運河中心線ノ距離ハ一町毎ニ記入スヘシ

二　縦断面圖

縮尺ハ距離ヲ平面圖ト同一ニシ高ヲ二百分一以上トシ

地盤、運河底敷及兩岸堤防ノ高位、諸水位（成ルヘク陸地測量部水準基線ニ據ルヘシ）竝平面圖ニ示シタル各種工作物ノ位置ヲ記載シ距離ハ一町毎ニ記入スヘシ

三　横断面圖

縮尺ハ二百分一以上トシ一町毎ニ調製スヘシ但シ水路幅員ノ異ナル箇所ニ付テハ其ノ断面ヲ示スヘシ

第八條　構造圖ハ左ノ二種トス

一　護岸、閘門、水門、隧道、曳船道、堤防、物揚場、乗降場、繋船場、船溜、待避場、通信所、信號所等ノ構造圖

二　運河開設ニ伴ヒ鐵道、軌道、道路、水流、水面等ヲ變換スル爲施設スヘキ橋梁、伏越其ノ他ノ工作物ノ構造圖

前項第二號ノ構造圖ニハ運河ト新舊工作物トノ關係ヲ明ニシタル平面圖及断面圖ヲ添付スヘシ

第九條　工事説明書ニハ水路測定ノ理由、運河實測圖及構造圖ニ示シタル各工事設計ノ要領、工事施行ノ順序、作業方法、掘鑿及浚渫土砂處分方法等ヲ記載スヘシ

第十條　土坪計算書ニハ一町毎（地盤ノ起伏甚シキカ又ハ幅員ニ廣狹アルトキハ仍其ノ箇所）ニ横断面ヲ取リ其ノ番號、距離、平積、立積ヲ記載シ土質ヲ區別シテ切取、盛土ノ數量ヲ示スヘシ

第十一條　開設費豫算書ニハ第四條記載ノ各項ヲ目ニ分チ各

〔大阪土〕

其ノ數量、金額及内譯ヲ示スヘシ

閘門、水門、隧道等構造ノ複雑ナル工作物ニ付テハ設計書ヲ添付スヘシ

第十二條　免許ヲ受ケタル者會社發起人ナルトキハ會社成立ノ後ニ非サレハ工事設計ノ認可ヲ申請スルコトヲ得ス

第十三條　指定ノ期限内ニ工事設計ノ認可ヲ申請スルコト能ハサルトキハ正當ノ事由アル場合ニ限リ期限ノ伸長ヲ許可スルコトアルヘシ

第十四條　免許ヲ受ケタル者ハ工事設計ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ工事ニ著手シ指定ノ期限内ニ之ヲ竣功スヘシ但シ正當ノ事由ニ因リ期限内ニ著手又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ期限ノ伸長ヲ許可スルコトアルヘシ

第十五條　工事ニ著手シ又ハ竣功シタルトキハ遲滯ナク地方長官ニ届出ツヘシ

工事竣功届出後一箇月内ニ開設費精算書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第十六條　免許ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ全部又ハ一部ノ通航ヲ停止スルコトヲ得ス

第十七條　免許ヲ受ケタル者ハ毎事業年度後一箇月内ニ事業報告書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第十八條　運河法第四條、第十五條第二項、第十六條第二項又ハ第十九條第二項ニ依ル決定ノ申請書ハ正副二通ヲ作成

シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當事者ノ表示
二　申請ノ目的及理由
三　協議ノ顚末

第十九條　前條ノ申請書ヲ受理シタル地方長官ハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ一定ノ期限内ニ答辯書ヲ提出セシムヘシ指定ノ期限内ニ答辯書ヲ提出セサルトキハ地方長官ハ申請書ノミニ依リテ決定ヲ爲スコトヲ得副本ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

第二十條　決定ハ理由ヲ附シタル文書ヲ以テ之ヲ爲シ當事者雙方ニ送付スヘシ

第二十一條　左ノ場合ニ於テハ運滯ナク内務大臣ニ届出ツヘシ

一　免許申請者又ハ免許ヲ受ケタル者其ノ氏名若ハ住所ヲ變更シ又ハ死亡シタルトキ
二　會社成立シ又ハ解散シタルトキ
三　定款又ハ組合契約ヲ變更シタルトキ
四　本則第二條第二號及第三號ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキ
五　事業ヲ廢止シタルトキ

第二十二條　本則ニ依リ内務大臣ニ提出スル書類ハ總テ副本ヲ作成シ運河開設地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

附　則

第二十三條　本則ハ運河法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正二年十二月一日ヨリ施行）

第二十四條　運河法施行前免許ヲ受ケタル運河ニシテ免許ノ條件ニ因リ免許年限滿了後官有ニ歸スヘキモノニ付テハ運河法中第十五條以外ノ規定ヲ、其ノ他ノモノニ付テハ運河法ノ規定全部ヲ適用ス

第二十五條　運河法ニ依リ許可若ハ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際既ニ許可若ハ認可ヲ受ケタルモノハ運河法ニ依リ許可若ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十六條　運河法第二十二條ニ依リ運河用地ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ内務大臣ニ申請スヘシ

●運河開設免許申請方ノ件

大正二年十二月一日
内務省訓令第七百三十二號

運河法ニ依リ運河開設免許ノ申請アリタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見書及命令書案ヲ添ヘ進達スヘシ

一　開係市區町村ノ意見
二　起業ハ成功ノ見込アルヤ否
三　申請者ノ信用及資產ノ狀態
四　運河開設ノ爲治水及交通上其ノ他關係地方ニ及ホスヘキ影響
五　其ノ他必要ト認ムル事項

第六類　運河（終）

〔大阪土〕

●都市計畫事業運河新設ニ關シ運河法第一條ノ規定ノ取扱ニ關スル件

大正十三年六月十日
省議決定

都市計畫事業トシテ運河ヲ新設スル場合ニ於テハ運河法第一條ニ規定セル運河開設者カ内務大臣ノ免許ヲ受クヘキ手續ハ本事業ノ確定ト共ニ手續ヲ了シタルモノトシテ取扱フコトニ致度

理　由

都市計畫事業ハ都市計畫法第三條ノ規定ニ依リ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ内務大臣之ヲ決定シ内閣ノ認可ヲ受ケ確定スヘキモノニシテ而シテ其ノ決定シタル事業ハ同法施行令第一條ノ規定ニ依リ原則トシテ行政廳タル市長カ執行スヘキモノニ付從テ此ノ場合ニ於テハ運河法第一條ニ依ル運河開設者カ内務大臣ノ免許ヲ受クルヲ要スル規定ハ便宜上事業ノ確定ト共ニ免許アリタルモノトシテ取扱フコト手續簡單ナレハナリ

第五類　運河（終）

〔大阪土〕

第六類　砂防

第六類　砂防

○砂防法……明治三〇年三月法律二九號……一
○砂防法施行規程……明治三三年一〇月勅令三八二號……六
○砂防行政監督令……大正一五年八月勅令二九一號……七
○砂防法第二條ニ依リ土地指定方稟申ノ件……明治三二年二月内務省訓一四五號……八
○砂防法指定地取締規則……明治四二年九月府令八一號……八
○淀川流域諸山ニ於テ樹木伐採開墾土取等ノ出願方（島上、島下郡、豐島、能勢）……明治一三年三月一二日號外……九
○淀川流域諸山ニ於テ樹木伐採開墾土取等ノ際出願方（大和、河内、淀川流域山林所有村々）……明治一四年七月五日號外……九
○砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免ニ關スル件……明治三二年八月勅令三七四號……九
○地租ノ免除又ハ輕減許可ニ關スル手續ノ件……明治三二年九月大藏省訓令六二號……一〇
○地租ノ免除又ハ輕減協議ノ件……明治三二年九月内務省訓八四五號……一〇

○砂防法第十三條ニ依リ工事費補助稟申ノ件……明治三二年二月内務省訓一四六號……一〇
○國庫補助ノ砂防工事竣功認可ノ件……明治三三年七月内務省訓令二三號……一一
○砂防法第三十三條ニ依レル命令……明治三二年七月内務省令三九號……一一
○森林治水事業奬勵規則……昭和一一年六月農林省令八號……一一
○民有森林伐木採礦停止ノ件……明治一七年二月太政官布達三號……一四
○民林諸作業處分方ノ件……明治一七年三月農商務省達三號……一四
○砂防工事落成箇所取締ノ件(抄)……明治一九年一〇月内務省訓七二〇號……一四
○金剛砂採掘作業取締規則……大正七年六月府令五一號……一五
○河川法及砂防法ニ基ク内務省直轄工事ニ關スル事務取扱方……(大正一五年四月内務省訓令八號第四類第四章參照)

第六類　砂防

●砂防法　明治三十年三月三十日　法律第二十九號

改正　大正一三年七月法律第三號

第一章　總則
第二章　土地ノ制限及砂防設備
第三章　砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務竝收入等
第四章　警察、監督及强制手續
第五章　訴願及訴訟
第六章　附則

砂防法

第一章　總則

第一條　此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ

第二條　砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條　此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得

第二章　土地ノ制限及砂防設備

第四條　第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサルトキハ主務大臣ハ前項ノ職權ヲ施行スルコトヲ得

第五條　地方行政廳ハ其ノ管内ニ於テ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ヲ監視シ及其ノ管内ニ於ケル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス

第六條　砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルトキ、其ノ利害關係一府縣ニ止マラサルトキ、其ノ工事至難ナルトキ又ハ其ノ工費至大ナルトキハ主務大臣ハ之ヲ管理シ、其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第七條　地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ砂防工事

ヲ施行セシメ又ハ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第八條　他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ生スルトキハ地方行政廳ハ其ノ行爲ヲナシタル者ヲシテ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第九條　行政廳ハ砂防工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十條　砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

第三章　砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務竝收入等

第十二條　第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視及砂防設備ノ管理、維持竝砂防工事ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條　砂防工事ニ要スル費用ハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ府縣ニ補助スルコトヲ得

前項國庫ノ補助額ハ工費豫算ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

本條ノ補助金ハ精算ノ上其ノ費用ノ三分ノ二ヲ超過スルコトアルモ其ノ超過額ヲ還付セシメサルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費用ハ本條ニ

〔大阪土〕

依ルノ限ニ在ラス

第十四條　第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理及維持ヲナシ又ハ砂防工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項費用ノ三分ノ一以内ヲ負擔セシムルコトヲ得

前項ニ依リ府縣ノ負擔スヘキ金額竝其ノ年度割及納付期限等ハ主務大臣之ヲ定ム

第十五條　地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ砂防ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十六條　砂防工事ニシテ他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生スル程度ニ於テ其ノ原因タル工事、作業其ノ他ノ行爲ニ關シ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得但シ河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　砂防工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十八條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔

トス

主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行スヘキ義務ヲ自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第十九條　公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル費用ノ爲寄附ヲナスコトヲ得

第二十條　公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第二十一條　公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第二十二條　砂防工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第二十三條　砂防ノ爲必要ナルトキハ行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ鄰接スル土地ニ立入リ又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條　第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ所有者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ其ノ土地ニ砂防工事ヲ施行シ又ハ砂防設備ノ維持ヲナスコトヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條　法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第二十六條　此ノ法律ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ補償金若ハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第二十七條　砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス但シ地方行政廳ハ其ノ收入ヲ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地若ハ其ノ土地ニ在ル森林ノ所有者又ハ其ノ砂防設備ノ施設者ニ下付スルコトヲ得

第二十八條　砂防設備ニシテ其ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現在スル土地若ハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得

第四章　警察、監督及强制手續

第二十九條　第四條ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ一定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合ニ於テ必要ト認ム

ルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ設備ノ變更若ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ生スル害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第三十條　法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生スル事實ヲ更正シ且其ノ違背ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第三十一條　地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視ノ爲竝砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料、手當、職務權限竝其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條　主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス

地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方行政廳ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條及第二十條ニ規定シタル事項竝此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第三十三條　他ノ府縣若ハ他府縣內ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十五條　義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限內ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第三十六條　私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ一定ノ期限ヲ示シ若ハ期限內ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ五百圓以內ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第三十七條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ保證金ヲ納付セシメタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第三十八條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅ノ滯

納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第三十九條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ强制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第四十條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ砂防視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十一條　此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以內ノ罰金若ハ一年以下ノ〔禁錮〕ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五章　訴願及訴訟

第四十二條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十三條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第四十四條　第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續又ハ監督官廳ノ決定ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第四十五條　第二十二條若ハ第二十三條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第二十三條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後六箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十六條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第六章　附則

第四十七條　此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條　第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ在ル從來ノ砂防ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規程ニ依ル

〔大阪土〕

●砂防法施行規程

明治三十年十月二十六日
勅令第三百八十二號

第一條　内務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條　砂防法第三條ニ依リ同法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ施設物ハ府縣知事ニ於テ其ノ地方ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示スヘシ其ノ準用スヘキ事項ハ府縣令ヲ以テ之ヲ定ム但シ同法第十三條及第十四條ニ規定シタル事項ハ之ヲ準用スルコトヲ得ス

第三條　砂防法第四條ニ依リ禁止若ハ制限スヘキ行爲ハ同條第一項ノ場合ニ於テハ府縣令ヲ以テ第二項ノ場合ニ於テハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　砂防法第六條第一項ニ依リ内務大臣ニ於テ砂防設備ヲ管理シ又ハ其ノ維持ヲナス場合ニ於テハ其ノ砂防設備ヲ、其ノ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ砂防設備工事ノ施行區域及起工年度ヲ官報ヲ以テ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

砂防法第六條第二項ニ依リ内務大臣ニ於テ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムル場合ニ於テモ亦前二項ノ例ニ依ル

第五條　内務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理又ハ其ノ維持ヲナストキハ内務省直轄ノ土木事業ニ準シテ〔土木監督署長ニ之ヲ行フ

〔大阪土〕

リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第十條　砂防法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ハ從來許可ヲ受ケタルモノト雖内務大臣又ハ府縣知事ノ定ムル所ノ期限内ニ於テ更ニ其ノ許可ヲ受クヘシ

●砂防行政監督令

大正十五年八月二十七日
勅令第二百九十一號

第一條　砂防法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村、市町村組合、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル砂防行政及府縣知事ノ命ジ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第二條　左ニ揭グル事項竝ニ其ノ變更、停止及廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一　砂防法第三條ノ規定ニ依ル準用

二　砂防法第四條ノ規定ニ依リ府縣知事ニ於テ禁止若ハ制限スヘキ一定ノ行爲

三　砂防法第七條ノ規定ニ依ル砂防工事ノ施行ニ關スル府縣知事ノ處分但シ輕易ナル修繕工事ニ關スルモノヲ除ク

四　砂防法第十三條ノ規定ニ依リ國庫ノ補助ヲ受クル砂防

第六條　砂防法第二十二條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメムトスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ物件所在地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第七條　砂防法第二十三條ニ依リ府縣知事、郡長、市參事會、町村長、町村組合長又ハ水利組合ノ管理者ニ於テ内務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ鄰接スル土地ヲ材料置場等ニ供セムトスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現在スル障害物ヲ除却セムトスルトキハ少クトモ十五日前ニ其ノ場所若ハ障害物ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第八條　行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ砂防工事ヲ施行セムトスルトキハ少クトモ七日前ニ之ヲ其ノ土地所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第九條　砂防ニ關スル費用ノ豫算ニシテ砂防法第二條ニ依ル土地ノ指定前ニ確定シタルモノハ其ノ指定ノ爲其ノ效力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依

工事ノ計畫但シ一設計内ニ於ケル變更ニシテ當初計畫ノ目的ヲ達シ得ベキモノヲ除ク

五　砂防法第十五條ノ費用ノ負擔方法但シ砂防設備ノ維持又ハ輕易ナル修繕工事ニ係ルモノヲ除ク

六　砂防法第十六條ノ費用ニシテ國ニ於テ施行スル工事ニ原因スルモノノ負擔方法

七　國庫ノ補助ヲ受ケテ施設シタル砂防設備ノ公用廢止

第三條　左ニ掲ゲル事項竝ニ其ノ變更、停止及廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一　砂防法第二十三條ノ規定ニ依リ下級行政廳ノ爲スベキ障害物ノ除却

二　砂防法第三十條ノ規定ニ依ル下級行政廳ノ處分

第四條　本令ニ依リ認可ヲ要スル事項ニ付テハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ輕易ナル事項ニ限リ認可ヲ受ケシメザルコトヲ得

●砂防法第二條ニ依リ土地指定方稟申ノ件

明治三十二年二月十六日
内務省訓令訓第百四十五號

第一條　明治三十年法律第二十九號砂防法第二條ニ依リ砂防設備ヲ要スル土地又ハ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ノ指定ヲ必要ト認ムルトキハ府縣知事ハ別表書式ニ依レル土地調書竝圖面ヲ添ヘ上申スヘシ

第二條、第三條　（土木監督署廢止ニ由リ消滅）

（別表略ス）

●砂防法指定地取締規則

明治四十二年九月十六日
大阪府令第八十一號

改正　大正一五年六月府令第七六號

第一條　砂防法第二條ニヨリ内務大臣ニ於テ指定セラレタル砂防設備ヲ要スル土地ニ於テ左ノ行爲ヲ爲サントスルモノハ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

一、開墾其他地形ヲ變換スヘキ行爲
二、竹木ノ伐採及根株ノ採掘
三、柴草、落葉及切芝ノ採取
四、山林ノ火入及焚火
五、土石ノ砿出、掘鑿、投棄
六、工作物ノ新築、改築、除却
七、牛馬其他畜類ノ放牧

第二條　前條以外ノ禁止制限地ニ於テ左ノ行爲ヲ爲サントスルモノハ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

一、開墾其他地形ヲ變換スヘキ行爲

二、山林ノ火入及焚火
三、土石ノ砿出、掘鑿、投棄及切芝ノ採取
四、竹木ノ皆伐、間伐及根株ノ採掘
五、工作竈ノ施設

第三條　前各條ニヨリ與ヘタル許可ニヨリテ生スル權利義務ハ當廳ノ許可ヲ受クルニアラサレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第四條　出願者カ土地所有者ト異ナル時ハ土地所有者ノ連署若クハ承諾書ヲ添付スルコトヲ要ス

本則ニヨリ提出スル願書ハ別記樣式ニ依ルヘシ

第五條　第一條ニ違反シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ科料又ハ二日以上二十日以下ノ拘留ニ處シ第二條ニ違反シタルモノハ一圓以上十圓以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ第三條ニ違反シタルモノハ十圓未滿ノ科料ニ處ス

附　則

第六條　本令ハ明治四十二年十月一日ヨリ施行ス

●淀川流域諸山ニ於テ樹木伐採開墾土取等ノ出願方

明治十三年三月十二日
號外

島上　島下
豐島　能勢　郡

淀川流域諸山ニ於テ自今官有、私有ヲ問ハズ樹木ヲ伐採シ草根ヲ掘取石材ヲ切出シ其他開墾、土取等ノ業ヲナサントスル者ハ六ケ月以前當府ヘ伺出許可ノ後著手可致此旨相達候事
但シ已ニ作業中ノ分ハ直ニ屆出ヘキ儀ト可相心得事

●淀川流域諸山ニ於テ樹木伐採開墾土取等ノ際出願方

明治十四年七月五日
號外

大和
河内　淀川流域ニ係ル山林所在村々

淀川流域ノ諸山ニ於テ樹木ヲ伐採シ草根ヲ掘取、石材ヲ切出シ其他開墾、土取等ノ業ヲ作サントスル者ハ作業ノ日ヨリ六月以前ニ圖面相添出願可致此旨布達候事

●砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免ニ關スル件

明治三十二年八月十六日
勅令第三百七十四號

改正　明治三五年一一月勅令第二五三號、四三年二月第七號、四四年一二

月第二八八號、大正七年九月第三五一號、昭和六年四月第五一號

第一條　砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテハ其ノ所有者又ハ納稅義務者ノ申請ニ依リ地租ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得

第二條　前條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地ニ對シテハ地租以外ノ公課ヲ免除シ其ノ地租ヲ輕減シタル土地ニ對シテハ同一ノ割合ヲ以テ地租以外ノ公課ヲ輕減ス

第三條　第一條ノ規定ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケントスル者ハ土地ノ所在、地番、地目、地積、賃貸價格及地租ノ免除又ハ輕減ノ區分（輕減ニ付テハ其ノ程度共）ヲ記載シタル申請書ヲ稅務署長ニ提出スベシ

第四條　第一條ノ規定ニ依リ地租ヲ輕減スベキ土地ニ付テハ其ノ賃貸價格ヨリ輕減地租額ニ相當スル賃貸價格ヲ控除シタルモノヲ賃貸價格トシ前條ノ申請アリタル後ニ開始スル納期ヨリ其ノ賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第五條　第一條ノ規定ニ依リ地租ヲ輕減シタル土地ニ付一定ノ行爲ノ禁止又ハ制限ノ解除アリタルトキハ直ニ地租法第九條第三項ノ例ニ準ジ其ノ賃貸價格ヲ修正シ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

附　則　（昭和六年勅令第五十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條ノ改正規定ハ本令施行ノ際現ニ第一條ノ規定ニ依リ地

〔大阪土〕

租ヲ輕減セラルル土地ノ賃貸價格ニ付之ヲ準用ス

●地租ノ免除又ハ輕減許可ニ關スル手續ノ件

明治三十二年九月四日
大藏省訓令第六十二號
〔稅務管理局〕宛

明治三十二年勅令第三百七十四號〔第四條〕ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ申請シタルモノアルトキハ地方廳ト協議シ禁止又ハ制限セラレタル行爲ノ程度ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ決定シ輕減スヘキモノハ其ノ割合ヲ定メ之カ許可ノ手續ヲ爲スヘシ

●地租ノ免除又ハ輕減協議ノ件

明治三十二年九月十三日
內務省訓令訓第八百四十五號

明治三十二年勅令第三百七十四號ニ依レル地租ノ免除又ハ輕減ニ關シ稅務管理局長ヨリ協議アリタルトキハ其協議ニ應シ處分上ノ便宜ヲ與フヘシ

●砂防法第十三條ニ依リ工事費

〔大阪土〕

補助稟申ノ件

明治三十二年二月十六日
內務省訓令訓第百四十六號

第一條　明治三十年法律第二十九號砂防法第十三條ニ依リ砂防工事ニ要スル費用ニ對シ國庫ノ補助ヲ受ケントスルトキハ府縣知事ハ前年（補助ヲ受クヘキ年度ヨリ起算ス以下倣之）二月末日迄ニ工事計畫書、工費豫算書及圖面ヲ添ヘ稟請スヘシ

第二條　（土木監督署廢止ニ依リ消滅）

第三條　府縣知事ニ於テ國庫補助內定額ノ通知ヲ受ケタルトキハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ議決書ヲ添ヘ前年十二月末日マテニ補助金ノ下附ヲ稟請スヘシ但當初ノ工事計畫、工費豫算又ハ工事施行箇所ニ變更ヲ來シタルトキハ更ニ其ノ圖書ヲ添付スヘシ

第四條　（土木監督署廢止ニ依リ消滅）

第五條　（同上）

●國庫補助ノ砂防工事竣功認可ノ件

明治三十三年七月三日
內務省訓令第二十三號

明治三十年法律第二十九號砂防法第十三條ニ依リ國庫ノ補助ヲ受ケテ施行スル砂防工事ハ竣功ノ都度竣功調書ヲ製シ本大臣ニ稟伺シ工事竣功ノ認可ヲ受クヘシ

〔大阪土〕

●砂防法第三十三條ニ依レル命令

明治三十二年七月二十二日
內務省令第三十九號

改正　大正一四年一〇月內務省令第二〇號

第一條　府縣知事ニ於テ他ノ府縣又ハ他ノ府縣內ノ公共團體若ハ私人ヲシテ砂防ニ關スル費用ヲ負擔セシメントスルトキハ其ノ負擔者カ府縣又ハ公共團體ナル場合ニ於テハ其ノ府縣知事ニ協議ノ上負擔金額及納付期限ヲ定メ私人ナル場合ニ於テハ府縣知事自ラ之ヲ定ムヘシ

●森林治水事業奬勵規則

昭和十一年六月二十日
農林省令第八號

改正　昭和一二年五月第一三號

森林治水事業奬勵規則左ノ通定ム

第一條　農林大臣ハ森林治水事業ヲ奬勵スル爲本則ニ依リ每年度豫算ノ範圍內ニ於テ奬勵金ヲ交付ス

第二條　奬勵金ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ニ付府縣ノ支出スル費用又ハ補助金ニ對シ府縣ニ之ヲ交付ス但シ別ニ國

庫ヨリ奬勵金又ハ補助金ノ交付ヲ受クベキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　荒廢林地ノ復舊
二　公有林野ノ造林
三　水害防備林ノ造成
四　遊水林ノ造成
五　指導監督職員ノ設置
六　森林組合其ノ他ノ團體ノ設立

第三條　奬勵金ノ交付ヲ受ケントスル府縣ハ申請書ニ豫算書ヲ添附シ前年度三月二十日迄ニ農林大臣ニ提出スベシ

第四條　荒廢林地復舊奬勵金ハ民有保安林ノ荒廢復舊工事ニ要スル經費及府縣ノ設計監督費ニ對シ左ノ標準ニ依リ之ヲ交付ス但シ府縣ノ補助事業ニ在リテハ府縣ニ於テ奬勵金ノ四分ノ一以上ヲ負擔スル場合ニ限ル

一　新設工事ニ在リテハ其ノ經費ノ三分ノ二以內
二　既設工事ノ修繕ニ在リテハ其ノ經費ノ二分ノ一以內
三　設計監督費ニ在リテハ新設工事費ノ千分ノ二十五以內

第五條　前條ノ奬勵金ノ交付ヲ受ケントスル府縣ハ前年度五月三十一日迄ニ事業豫定書及工事設計書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

前項ノ書類ニ記載セル事項ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其ノ訂正書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

〔大阪土ノ二〕

奬勵金ノ交付ヲ受ケタル府縣工事設計書記載ノ施業地又ハ工種ヲ變更セントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六條　公有林野造林奬勵金ハ公有林野ノ造林及經營ノ改善ニ要スル經費ニ對シ左ノ標準ニ依リ之ヲ交付ス但シ府縣ノ補助事業ニ在リテハ府縣ニ於テ奬勵金ト同額以上ヲ負擔スル場合ニ限ル

一　管理區分案、入會又ハ共同使用ノ整理案及部落有林野統一案ノ編成其ノ他經營方針ノ指導竝ニ市町村、市町村組合又ハ町村組合ノ所有ニ屬スル林野ノ施業計畫案ノ編成及檢訂ノ爲府縣ニ特置スル職員ノ俸給、給料及旅費ニ在リテハ各其ノ二分ノ一以內
二　市町村、市町村組合又ハ町村組合ノ行フ造林及防火線造設ニ在リテハ其ノ經費ノ三分ノ一以內
三　市町村、市町村組合又ハ町村組合ト收益ヲ分收スル契約ヲ以テ行フ府縣ノ造林及防火線造設ニ在リテハ其ノ經費ノ四分ノ一以內

第七條　前條ノ奬勵金交付申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一　第一號ノ奬勵金ニ付テハ事業豫定書
二　第二號ノ奬勵金ニ付テハ補助豫定書
三　第三號ノ奬勵金ニ付テハ事業豫定書

第八條　水害防備林造成奬勵金又ハ遊水林造成奬勵金ハ水害防備林又ハ遊水林ノ造成及補修ニ要スル經費竝ニ府縣ノ設計監督費ニ對シ左ノ標準ニ依リ之ヲ交付ス但シ府縣ノ補助事業ニ在リテハ府縣ニ於テ奬勵金ト同額以上ヲ負擔スル場合ニ限ル

一　造成ニ在リテハ其ノ經費ノ三分ノ二以內
二　補修ニ在リテハ其ノ經費ノ二分ノ一以內
三　設計監督費ニ在リテハ造成費ノ千分ノ二十五以內

第九條　前條ノ奬勵金交付申請書ニハ事業豫定書及事業設計書ヲ添附スベシ

奬勵金ノ交付ヲ受ケタル府縣事業豫定書及事業設計書記載ノ施業地又ハ工種ヲ變更セントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十條　指導監督職員ノ設置奬勵金ハ府縣ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル職員ヲ設置スル場合其ノ俸給及旅費ニ付各二分ノ一以內ヲ交付ス

一　市町村、市町村組合又ハ町村組合ノ所有ニ屬スル林野ノ施業及森林組合其ノ他ノ團體ノ施業ノ指導ヲ爲ス職員
二　治水關係保安林及開墾制限禁止地ノ保護取締ヲ爲ス職員

第十一條　前條ノ奬勵金交付申請書ニハ指導監督豫定書ヲ添附スベシ

第十二條　森林組合其ノ他ノ團體設立奬勵金ハ民有林野ニ於テ治水ニ關係アル森林ノ保護、造成、施業改善又ハ荒廢林地ノ復舊ヲ爲スコトヲ目的トスル森林組合其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル團體ノ設立奬勵ニ要スル補助金ニ對シ之ヲ交付ス但シ府縣ニ於テ奬勵金ノ四分ノ一以上ヲ負擔スル場合ニ限ル

前項ノ奬勵金ハ事業計畫ニ關スル調査設計ノ經費ニ對シ其ノ目的トスル林野面積一町歩ニ付金四拾錢以內トス

第十三條　前條ノ奬勵金交付申請書ニハ設立豫定書ヲ添附スベシ

第十四條　前二條ノ規定ハ森林組合其ノ他ノ團體ニシテ新ニ治水ノ目的ヲ以テ事業ヲ施行スルニ至リタル場合及本則ニ依リ奬勵金ノ交付ヲ受ケタル森林組合其ノ他ノ團體ガ治水ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業ニ著シキ變更ヲ要スルニ至リタル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル府縣ハ決算書ニ成績表ヲ添附シ翌年度七月三十一日迄ニ農林大臣ニ提出スベシ

第十六條　府縣ニ於テ交付ヲ受ケタル奬勵金ノ全部ヲ當該年度內ニ支出スルコト能ハザルトキハ其ノ殘額ヲ當該年度後ニ於テ行フ同一ノ事業ニ對シ支出スル義務アルモノトス但シ支出スベキ見込ナキトキハ當該年度三月二十日迄ニ其ノ金額及事由ヲ農林大臣ニ報告スベシ

前項ノ場合ニ於テ金額ノミヲ繰越シ使用セントスルトキハ其ノ事業ニ付當該年度四月三十日迄ニ新規申請ノ例ニ準ジ

〔大阪土ノ二〕

農林大臣ノ認可ヲ受クベシ其ノ事業ト共ニ繰越シタルモノニ在リテハ施業地毎ノ金額ヲ當該年度四月三十日迄ニ農林大臣ニ報告スベシ

第十七條　府縣ニ於テ交付シタル補助金ニ付還付ヲ命ズベキ事實發生シタルトキハ遲滯ナク其ノ金額及事由ヲ農林大臣ニ報告シ其ノ處分ニ付テハ農林大臣ニ協議スベシ

前項ハ府縣ニ於テ支出シタル費用ニ付誤拂又ハ被詐取其ノ他ノ事由ニ因リ還納セシムル場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　府縣ニ於テ交付ヲ受ケタル奬勵金ヲ彼此流用セントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ奬勵金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命ズルコトアルベシ

一　本則ノ規定ニ違反シタルトキ

二　奬勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三　第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ府縣ニ於テ奬勵金ヲ支出スベキ見込ナキトキ

四　奬勵金ノ目的ヲ達成シ得ズト認メタルトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條中前年度三月二十日迄トアルハ昭和十一年度分ニ限リ、第五條第一項中前年度五月三十一日迄トアルハ昭和十一年度分及昭和十二年度分ニ限リ昭和十一年七月三十一日迄トス

〔大阪土〕

●民有森林伐木採礦停止ノ件

明治十七年二月十五日
太政官布達第三號

民有森林ノ中水源ヲ養ヒ土砂ヲ止メ又ハ風潮ヲ防キ頽雪支フルノ類國土保安ニ關係アル箇所ニシテ濫ニ其ノ樹木ヲ斫伐シ鑛物土石ヲ掘採セハ他ニ障害ヲ及ホスコト不尠ニ付是等ノ箇所ハ實地ノ景狀ニヨリ其ノ事業ヲ停止セシムルコトアルヘシ

●民林諸作業處分方ノ件

明治十七年三月一日
農商務省達第三號

民有森林ノ内水源涵養土砂扞止風潮除頽雪止等ノ如キ國土保安ニ關係アル箇所ニ於テ樹木ヲ斫伐シ鑛物土石ヲ掘採セントシ欲スルモノアルトキハ其ノ都度實地ノ景狀ヲ檢査シ處分方可伺出

●砂防工事落成箇所取締ノ件(抄)

明治十九年十月十一日
内務省訓令第七百二十號

淀川流域大阪府

某川流域諸山ニ於テ當省直轄施行砂防工事竣成ノ箇所其ノ管下ニ係ル者ハ農商務省直轄其ノ屬ニ於テ篤ト取締左記ノ所業ヲ嚴禁スヘシ但シ工事竣成ノ箇所ハ其ノ時々土木局長ヨリ通牒スヘシ

一　砂防ノ爲新規植付タル松杉其ノ他雜木ヲ拔取又ハ伐採スル事

一　砂防ノ爲新規植付ヲ爲シタル山地ニ於テ土石ヲ掘取シ落葉ヲ摜取リ下草ヲ刈リ及牛馬ヲ飼養シ又ハ其ノ植樹ニ繫ク等ノ事

一　其ノ他施設ノ工事ヲ毀損スヘキ諸般ノ所業

●金剛砂採掘作業取締規則

大正七年六月六日
大阪府令第五十一號

改正　大正一五年六月府令第七二號

第一條　金剛砂採掘作業ヲ爲サムトスル者ハ本則ニ依リ左記各號ノ事項ヲ具備シタル書類及圖面ヲ提出シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

一、作業地名、地番、地目及段別

二、作業期間

三、作業方法

四、作業地及其ノ附近ノ實測平面圖、縮尺六百分ノ一以上

五、作業地附近ニ於ケル河川縱横斷面圖、縮尺横六百分ノ一以上、縱百分ノ一以上

六、土砂流出豫防設備ニ關スル設計書及仕樣書

七、其ノ他參考事項

前項ニ依ル願書ハ所轄市役所又ハ町村役場及所轄本府内務部土木課出張所ヲ經由スヘシ

第二條　前條第一號乃至第三號及第六號記載ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ更ニ出願シ許可ヲ受クヘシ但シ採取段別ノ縮少ハ此限ニアラス

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ許可ヲ取消シ又ハ作業ヲ停止シ若ハ許可條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形回復ヲ命スルコトアルヘシ

一、本作業ニ因リ公害ヲ生ジ又ハ生ゼントスル虞アルトキ

二、本則ノ規定若ハ許可條件ニ違背シタルトキ

三、河川又ハ溝渠ノ狀況變更其ノ他許可後ニ起リタル事實ニ依リ必要ト認ムルトキ

四、其ノ他公益上必要ト認ムルトキ

〔大阪土〕

第七類　土地　港灣　水面　附土木費

第四條　第一條ノ許可ヲ得スシテ金剛砂ノ採掘ヲ爲シ又ハ第二條本項ノ規定若ハ第三條ニ依リ發シタル命令ニ違背シタル者ハ二十圓未滿ノ科料又ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス

第六類　砂防（終）

〔大阪土〕

〔大阪土〕

第七類　土地　港灣　水面（附）土木費

第一章　共通則

○道路橋梁河川港灣等通行錢徵收ノ件……明治四年一二月太政官布告六四八號……一
○地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路竝木敷處分方ノ件……明治二四年五月內務省訓四六二號……一
○地方稅又ハ區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘使用料等取扱方ノ件……明治二一年七月內務省訓令一七號……一
○土木工事取締規則……明治三四年八月府令一〇八號……二
○土木工事取締規則ニ關スル願届書式……明治三四年八月府告示二一三號……五

第二章　土地

○地租法……昭和六年三月法律二八號……一一
○地租法施行規則……昭和六年四月勅令四七號……二二
○地租法施行細則……昭和六年四月大藏省令六號……二六

○國有財産法……大正一〇年四月法律四三號……三一
○國有財産法施行令……大正一一年一月勅令一五號……三四
○國有財産法施行規則……大正一一年二月大藏省令一四號……四〇
○內務省所管國有財産取扱規程……大正一一年六月內務省訓令一〇號……四一
○永代借地權ノ設定セラルヽ土地ノ取扱ニ關スル件……大正一一年七月會計課長通牒三四四號……四七
○雜種財産引繼ニ關スル件……大正一一年三月內務大藏次官通牒藏二八二二號……四八
○國有財産ノ取扱ニ關スル件……大正一一年七月庶二〇號……四九
○公共用財産用途廢止ニ關スル件……大正一一年六月內務省訓令一一號……五〇
○國有土地水面ヲ耕地整理地區ニ編入ノ件……大正一一年七月內務省訓令一五號……五〇
○國有地ヲ耕地整理施行地區ヘ編入取扱ノ件……大正一一年七月發土六七號……五〇
○雜種財産ノ處分ニ關スル件……大正一一年八月發會三八三號……五一
○公共團體ノ管理スル公共用土地物件ノ使用ニ關スル法律……大正三年四月法律三七號……五一
○公共團體ノ管理スル公共用土地物件ノ使用ニ關スル件……〔大阪土〕

○外國人居留地ニ設定シタル地上權移轉ニ付地券記載方申請手續……明治三四年二月府令一八號……五二

第三章　港灣

○河川法ヲ施行若ハ準用セザル河川又ハ港灣ニ關スル件……大正一一年五月內務省訓令六號……五五
○大正十一年五月內務省訓令第六號第二條第二號ニ依ル港灣指定ノ件（抄錄）……大正一一年五月內務省告示一三一號……五六
○重要港灣選定ノ件（抄錄）……明治四〇年一〇月港灣調査會決議……五六
○港灣區域決定ノ件（抄錄）……大正一二年八月內務省告示二七六號……五六
○府縣費支辨河川及港灣編入ニ關スル件（抄錄）……大正一四年七月發土二三號……五七
○河川港灣ニ關スル處分稟伺方ノ件……大正一一年五月發土九七號……五八
○河川道路港灣等ニ關スル處分稟伺ノ場合取扱方ノ

件……大正元年一二月土一三二四號……五八
○港灣工事ニ因リ生スル不用土地工作物處分ノ件……大正九年四月勅令八二號……五九
○府費支辨及府費補助ニ屬スル河川港灣等ノ名稱區域……（大正二年五月府告示一二〇號第四類第一章參照）
○堺市三寶海岸堤防府費支辨編入ノ件……昭和一一年三月府告示二四一號……五九
○堺港域內船舶航行禁止ノ件……昭和一一年一二月府令一〇〇號……六〇
○堺港域內船舶航行禁止區域當府作業船ノ標識ノ件……昭和一一年一二月府告示一二四五號……六〇
○航路標識條例……明治二一年一〇月勅令六七號……六〇

第四章　水面

○公有水面埋立法……大正一〇年四月法律五七號……六三
○公有水面埋立法施行令……大正一一年四月勅令一九四號……七〇
○公有水面埋立ニ關スル取扱方ノ件……大正一一年四月發土三五號……七六
○公有水面埋立ニ關スル取扱方ノ件……大正一二年一月發土二號……七九
〔大阪土〕
○公有水面埋立ニ付疑義ノ件……昭和七年一〇月阪土二〇八號……七九
○公有水面埋立使用免許權ヲ擔保貸付又ハ他ニ移スコトヲ出願スルモノアルトキ取扱方ノ件……明治二七年一一月內務省訓八一二號……八〇
○公有水面埋立法第二十五條ニ依ル國有地ノ下付處分ニ關スル件……昭和七年一一月發甲四九號……八一
○公有水面埋立免許命令書ニ關スル件……大正一四年八月發土二八號……八一
○公有水面無願埋立取締ニ關スル件……大正一四年一一月發甲二九號……八三
○官ニ屬スル公有水面埋立竝使用ニ關スル件……明治二三年一〇月內務省訓令三六號……八三
○公有水面埋立竝使用ニ關スル延期又ハ加除名ニ關スル取扱方ノ件……明治二五年一〇月庶甲二〇四號……八四
○公有水面埋立法施行令第三十二條ニ依ル河川港灣指定ノ件（抄錄）……大正一一年四月內務省告示八〇號……八四
○沿海工事施行ノ協議方ニ關スル件（抄錄）……大正一二年七月內務省訓六八一號……八五

○公有水面埋立及港灣工事施行協議方ニ關スル件……昭和三年三月內務省訓二三九號……八六
○公有土地水面使用規則……大正四年三月府令一五號……八六
○川中使用願書式……明治二七年六月府訓令四一號……八八
○公有水面敷地公用廢止ノ件……昭和一〇年七月府告示四八二號……九一

（附）土木費

○府縣ニ於ケル費用ノ府縣負擔ニ關スル件……大正一五年一一月勅令三三八號……九三
○土木費負擔所屬區分ノ件（抄）……明治一一年七月太政官達無號……九三
○土木費負擔所屬ノ指定ハ府縣會ニ付議スルニ及ハサル件……明治三〇年六月德乙二一五號……九三
○土木費舊慣施行ノ件……明治一二年二月太政官達無號……九四
○用排水幹線改良事業ノ施行ニ關スル件……大正一四年七月發甲一九號……九四

〔大阪土〕

第七類　土地　港灣　水面（附）土木費

第一章　共通則

●道路橋梁河川港灣等通行錢徵收ノ件　明治四年十二月十四日　太政官布告第六百四十八號

治水修路ノ儀ハ地方ノ要務ニシテ物產蕃盛庶民殷富ノ基本ニ付府縣管下ニ於テ有志ノ者共自費或ハ會社ヲ結ヒ水行ヲ疏シ險路ヲ開キ橋梁ヲ架スル等諸般運輸ノ便利ヲ興シ候者ハ落成ノ上功費ノ多寡ニ應シ年限ヲ定メ稅金取立方被差許候間地方官ニ於テ此旨相心得右等ノ儀願出候者有之節ハ其地ノ民情ヲ詳察シ利害得失ヲ考ヘ人費稅金ノ制限等篤ト取調大藏省ヘ可申出事但本文ノ趣管內無漏可相達事

●地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路竝木敷處分方ノ件　明治二十四年五月二十二日　內務省訓令訓第四百六十二號

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路竝木敷ノ使用ハ自今其ノ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ於テ處分スヘシ但市町村ノ處分ニ係ルモノハ府縣廳ノ認可ヲ請ハシムヘシ

前項堤塘道路竝木敷使用料及堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木其ノ他ノ收益ハ其ノ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ノ收入ニ屬スヘシ

費用ノ主擔定ラサルカ又年々負擔ヲ異ニスル堤塘道路竝木敷用惡水路土居敷等ニ關スル事項ハ府縣廳ニ於テ處分シ其ノ收益ニ屬スルモノハ府縣廳ニ於テ之ヲ徵收シ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ配付スヘシ

地盤ノ市町村有ニ屬スル堤塘ノ使用及堤塘ヨリ生スル收益等ハ市町村ノ管理ニ歸セシムヘシ

●地方稅又ハ區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘使用料等取扱方ノ件　明治二十一年七月十七日　內務省訓令第十七號

【地方稅】又ハ【區】町村費ノ支辨ニ係ル堤塘使用料及道路竝木敷貸渡料其ノ他同上ノ竝木及堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木拂代金ハ左項ニ準シテ取扱フヘシ

但本文ニ牴觸セシ從前ノ指令訓令ハ取消ス

一　修繕費ノ全部ヲ【地方稅】ヨリ支辨スル箇所ノ收入ハ

【地方稅】ヘ其ノ【區】町村費ヨリ支辨スル箇所ノ收入ハ【區】町村費ヘ每年度ニ於テ編入セシムヘシ

一　修繕ハ【區】町村費ノ主擔ニシテ【地方稅】ノ補助ニ係ル箇所ノ收入ハ【區】町村費ヘ編入セシムヘシ

一　【地方稅】ト【區】町村費ト修繕ノ主擔ヲ定メスシテ分擔支辨ニ係ル箇所ノ收入ハ其ノ支出金額ノ歩合ニ隨ヒ編入セシムヘシ

一　【地方稅】ト【區】町村費ト年々修繕負擔ヲ異ニスル箇所ノ收入ハ該年度負擔ノ方ニ編入セシムヘシ

一　【區】町村費ノ支辨ニ係ル堤塘道路用惡水路土居敷修繕費及竝木植繼及保護費ハ【區】町村費中土木費ヨリ支出セシムヘシ

一　前各項ノ收入金ニシテ府縣廳ヘ積置タル分ハ前各項ニ準據シ本年度中悉皆交付スヘシ

●土木工事取締規則

明治三十四年八月
大阪府令第百八號

改正　明治四五年七月府令第六四號、大正七年八月第七〇號、九年六月第五五號、一五年六月第六八號、昭和三年一一月第六九號

第一條　左ニ揭クルモノノ新築、改築、增築、變更、除去若ハ廢止ヲ爲サムトスル者ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外本則ニ依リ大阪府知事ノ許可ヲ受ク可シ

一、港灣、埠頭、船渠、河川、堤防、水制、護岸、運河、用惡水路、溝渠、堰堘、樋閘、溜池、沿岸物揚場

二、道路、橋梁、暗渠

三、海面、港灣、河川、運河、用惡水路、溝渠ヨリ引水シ若ハ之ニ注水スル工事又ハ海面、港灣、埠頭、河川、堤防、運河、幅員一間以上ノ用惡水路及溝渠ノ敷地ニ固著シ若ハ之ヲ橫過シ若ハ其ノ地下及床下ニ於テ施設スルモノ

港灣河川ノ浚疏ハ其ノ變更工事ト看做ス但シ其ノ維持修繕費ヲ負擔スル公共團體ニ於テ施行スル場合ハ出願ヲ要セス

第二條　左ニ揭クル工事ニハ第五條第三號第八條ヲ除クノ外本則ノ規定ヲ準用ス

一、堤防、掘鑿工事

二、私費ヲ以テ施行スヘキ堤防、護岸若ハ水制又ハ沿岸物揚場ノ修繕工事

堤防嵩置若ハ腹付ハ修繕工事ト看做ス

第三條　堰堘、樋閘、橋梁ノ修繕工事ヲ爲サムトスル者ハ第四條ニ準シ其ノ設計書ヲ添付シ少クトモ起工三日前ニ屆出ツヘシ

第四條　第一條ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載シ願人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一、所屬ノ郡市區町村大字及字名

二、種類及名稱

三、事由及目的

四、潰地アルモノハ其ノ處分

五、願人ノ氏名、住所若願人カ法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者

六、代理人ニ依リテ出願スルトキハ其ノ氏名住所

第五條　願書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添付スルコトヲ要ス

一、設計書及圖面

但シ廢止願書ニハ設計書ノ添付ヲ要セス

二、潰地アルモノハ其ノ段別取調書

三、參考書

但シ第十條ノ事項ヲ願書若ハ圖面中ニ記載シタルトキ及輕易ノ工事ニハ添付セサルモ妨ケナシ

四、代理人ニ依リテ出願スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面

五、公共團體ノ出願スル場合ニ於テ官廳ノ許可又ハ其ノ議會ノ議決ヲ要スヘキ事項ニ付テハ其ノ許可書ノ謄本又ハ議決ノ年月日及事項ヲ記載シタル書面

第六條　設計書ニハ工事ノ位置、工法、材料及數量竝工費ヲ記載スルコトヲ要ス

但シ輕易ノ工事ニハ工費ヲ記載セサルモ妨ケナシ

第七條　圖面ハ實測ニ因リ左ノ方法ヲ以テ平面及縱橫斷面ニ調製スルコトヲ要ス

但シ輕易ノ工事ハ見取圖ノミニテモ妨ケナシ

一、平面圖ハ縮尺六千分ノ一ヨリ大ニシテ工事計畫區域ノ全部及其ノ附近ノ形狀ヲ示スヘシ

二、縱斷面圖ノ橫線ハ平面圖ト同一ノ縮尺トナシ其ノ縱線ハ橫線縮尺ノ凡ソ十倍トシ土地ノ起伏ヲ示スヘシ

三、橫斷面圖ハ縮尺二百分ノ一ヨリ大ニシテ土地ノ高低ニ應シ三十間以內ノ距離每ニ之ヲ示スヘシ

四、工作物ノ圖面ハ縮尺二百分ノ一ヨリ大ニシテ其ノ構造及材質、寸法ヲ示シ尙其必要アルモノハ構造ノ細部ヲ示スヘシ

五、前各號ノ圖面ニシテ水利ニ關スルモノハ洪水位、常水位、低水位若ハ滿潮位、干潮位、土工ニ關スルモノハ勾配及曲線ノ半徑等其ノ計畫ニ關スル要領ヲ記載スヘシ

第八條　實測圖及設計書ニハ其ノ調製者ヲシテ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

第九條　潰地段別取調書ニハ官民有ノ區分、郡市區町村大字及字名地番號、地目、元段別、潰地段別竝民有地ニ在リテハ其ノ所有者ノ氏名、住所ヲ記載スルコトヲ要ス

第十條　參考書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス特ニ記載ヲ命セラレタル事項アルトキ亦同シ增築、變更若ハ除却スルトキハ其ノ現狀ヲモ併記スルコトヲ要ス

一、港灣、埠頭、船渠ハ最高最低ノ潮水位
二、河川、運河ハ水源、流末、常水位、洪水位、流水勾配
三、堤防ハ長、高、馬踏幅、敷幅、表裏勾配、土質
四、道路ハ長、幅、勾配、曲線、半徑竝ニ市街地建築物法施行ノ區域内ニ在リテハ建築線指定ノ年月日及番號
五、橋梁ハ種類、徑間ノ長、幅、橋脚ノ數及其ノ材質
六、溜池、用惡水路、溝渠ハ灌漑段別、惡水排除段別、面積、長、幅、水源、流末
七、堰堤、樋閘ハ其ノ構造、寸法、材質、灌漑段別、惡水排除段別
八、海面、港灣、河川、運河、用惡水路、溝渠ヨリ引水シ若ハ之ニ注下スル工事ハ其ノ水量
九、許可ノ日ヨリ起算シ工事著手ニ至ル期間
十、工事著手ノ日ヨリ起算シ其ノ竣功ニ至ル期間

第十一條　工事ヲ許可スルニ方リ保證金ヲ納付セシムルコトアルヘシ

第十二條　許可ヲ受ケタル者ニ工事竣功後ノ瑕疵擔保ノ義務ヲ負擔セシムルコトアルヘシ

第十三條　左ノ場合ニ於テハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既設ノ工作物ヲ改築若ハ變更セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ、又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ爲スコトヲ要ス

第十七條　工事竣功後ノ維持修繕ハ特ニ命セラレタル者アル場合ヲ除クノ外許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第十八條　本則ノ規定及許可ノ條件ニ依リテ生スル義務ハ其ノ權利ノ移轉ト共ニ其ノ承繼者ニ移屬ス

ムルコトアルヘシ

一、願書若ハ添付ノ書類及圖面ニ虛僞若ハ錯誤ノ事實アリタルトキ
二、本則ノ規定若ハ許可ノ條件ニ違反シタルトキ
三、工事施行中若ハ施行後ニ於テ他ニ障害ヲ加ヘ又ハ加ヘムトスル虞レアルトキ
四、公害ヲ生シ若ハ之ヲ發見シ其ノ他公益ノ爲必要ト認ムルトキ

第十四條　天災地變其他正當ノ事由ニ因リ指定期限内ニ工事ニ著手又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ期限後三十日以内ニ出願スルニ於テハ延期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十五條　本則ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル工事施行權ハ更ニ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第十六條　本則ノ規定又ハ許可ノ條件ニ違反シタル者ハ大阪府知事ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違反ニ因リテ生シタル事實ヲ更正シ且其ノ違反ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條　共同シテ許可ヲ受ケタル者ノ本則ノ規定及許可ノ條件ニ依リテ生スル義務ハ各連帶ノ負擔トス

第二十條　許可ヲ受ケタル後其ノ設計ヲ變更セムトスル者ハ更ニ許可ヲ受ケヘシ

第二十一條　許可ヲ受ケタル者工事ニ著手シタルトキハ卽日其ノ旨屆出テ工事竣功シタルトキハ二日以内ニ屆出テ其ノ檢査ヲ受ケヘシ但シ三日以内ニ竣功スル工事ハ其ノ著手ノ屆出ヲ要セス

第二十二條　工事中又ハ竣功後許可シタル設計書若ハ圖面ニ違反シタルト認ムルトキハ其ノ改築若ハ補修ヲ命スルコトアルヘシ

第二十三條　本則ノ規定又ハ許可ノ條件ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十四條　本則ニ依リ提出スル願書又ハ屆書ハ所轄市區役所又ハ町村役場及所轄本府土木部出張所ヲ經由スヘシ

第二十五條　第一條ニ違反シタル者ハ大阪府知事ノ命スル期間内ニ原形ニ回復スルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テ原形喪失シタルトキハ大阪府知事ノ命スル程度ニ從ヒ回復スルコトヲ要ス

第二十六條　地方鐵道法第十六條又ハ軌道法ノ特許ニ依リ必要ヲ生シタル工事ニ就テハ第二十四條ヲ除クノ外本則ノ規定ヲ準用ス

第二十七條　第一條乃至第三條及第二十條ノ規定ニ違反シタル者又ハ詐僞ノ方法ニヨリ本則ノ許可ヲ受ケタル者ハ五拾圓未滿ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第二十八條　削除

附　則

第二十九條　本則ハ明治三十四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十條　本則施行前ニ施設シタル第一條ニ該當スルモノニシテ公害ヲ生シ若ハ之ヲ發見シ其ノ他公益ノ爲必要ト認ムルトキハ大阪府知事ハ其ノ改築、增築、變更若ハ除却ヲ命スルコトアルヘシ

第三十一條　本則施行前許可ニ附シタル條件ハ本則ノ規定ニ牴觸セサル程度ニ於テ效力ヲ有ス

第三十二條　明治十八年十二月甲第百十九號達堤防取締規則中第三條第六條及明治十九年十月大阪府令第二十六號中第三條及第四條中「及土地掘鑿シタルモノ」ノ十字ヲ削除ス

第三十三條　明治三十一年三月大阪府令第二十一號ハ之ヲ廢止ス

●土木工事取締規則ニ關スル願屆書式

明治三十四年八月十九日
大阪府告示第二百十三號

土木工事取締規則ニ關スル願届書式左ノ通之ヲ定ム

第一號書式（第四條ニ依ル願書ノ例）

何々何々願

何郡何町村大字何字何
市何區何町何丁目

一何々何々（工事ノ種類及名稱ヲ記スヘシ）

右何々（起工ノ事由及目的ヲ詳記スヘシ）ニ付何費ヲ以テ何々致度候間許可相成度別紙設計書圖面及何々添付此段相願候也

年　月　日

住所
願人　氏　名印
（一私人ノ用ユヘキ例）
（市ノ事業ニ在リテハ「市」參事會」ト肩書スヘシ）

大阪府知事宛

備考

一　願書及附屬書類圖面等ハ各二通ヲ要スルモノトス

〔大阪土ノ六〕

二　公共團體ノ出願ニ係ルモノハ本文中其ノ議會ノ議決ヲ經タル旨ヲ記入スルモノトス

三　潰地ヲ官有ニ編入ヲ望ム者ハ其ノ旨本文中ニ記入スルモノトス

四　本願ト共ニ明治三十四年五月大阪府令第八十三號ニ依リ免租地ヲ有租地ト爲スノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ旨ヲ併記スルモ妨ケナシ

第二號書式（第三條、第五條第一號、第六條ニ依ル設計書ノ例）

何々工事設計書

何々（位置ヲ記スヘシ）

一何々（工事ノ種類及名稱ヲ記スヘシ）長何間　高何々　横何々

此數量何程　構造（構造ノ主要ヲ記スヘシ）

内譯

何々　何々

何々　何々

（道路、水路、運河等ノ工事ニシテ其ノ區域ノ長程ニ渉ルモノハ土坪其ノ他ノ計算書ヲ添付スヘシ）

右入用

〔大阪土ノ七〕

名稱	品種	長	高 横	數量	單價	金額	記事
					圓	圓	
合計							

住所
願人　氏　名印
（一私人ノ用ユヘキ例）
（市ノ事業ニ在リテハ「市」參事會」ト肩書スヘシ）

願人　何郡、市、町、村長　氏　名印
（公共團體ノ用ユヘキ例）

備考

一　位置ニハ所屬郡市區町村大字及字名竝河川名若ハ街道名等ヲ記入スルモノトス

二　「數量何程」トアルハ其ノ平坪若ハ立坪ヲ記入スルモノニシテ高、横トアルハ其ノ算出ノ基因ナル長、幅等ヲ適宜ニ記入スルモノトス

三　記事欄内ニハ使用ノ目途、數量算出ノ基因竝施工ノ程度ヲ詳記スルモノトス

四　長、高横、數量ノ單位ハ坪、間、尺、個、本、人トス

五　坪ノ算出ハ合止トシ職工人夫ハ分止トナシ何レモ四捨五入トス

六　工事ノ種類ノ異ナルモノ若ハ同種類ト雖一設計書中ニ記載シ難キモノハ各別ニ調製スルモノトス

七　他ノ工事ニ因リ國縣道ノ改築若ハ變更ヲ要スル工事ニハ掘割及盛土坪計算書、一位代價表、計畫說明書ヲ添付スルモノトス

八　修繕ノ設計書ニハ「構造」トアル所ニ其ノ修繕スヘキ部分ヲ記入スルモノトス

第三號書式（第五條第二號、第九條ニ依ル潰地段別取調書ノ例）

潰地段別取調書

官有地ノ部

何郡何町村大字何字何
市何區何町何丁目
井路（又ハ何々）ノ内

一段別何程　何々敷
何郡何町村大字何字何
何市何區何町何丁目
荒蕪地（又ハ何々）ノ内
一段別何程　何々敷
小計段別何程
何郡何町村大字何字何番地
何市何區何町何丁目
民有地ノ部
何郡何町村大字何字何番地
何市何區何町何丁目
一田（又ハ何々）段別何程　何々敷
住所　地主　氏　名
何郡何町村大字何字何番地
何市何區何町何丁目
外畦畔何程
宅地（又ハ何々）段別何程ノ内
住所　何々敷　地主　氏　名
一宅地（又ハ何々）段別何程　何々敷
何郡何町村大字何字何番地
何市何區何町何丁目
田段別何程外畦畔何程ノ内
住所　地主　氏　名
一田段別何程　溜池（又ハ何々）敷
内何程　井溝（又ハ何々）敷
外畦畔何程ノ内　何程　溜池（又ハ何々）敷
何程　井溝（又ハ何々）敷

〔大阪土〕

小計段別何程　何々敷
内何程　何々敷
外畦畔何程ノ内　何程　何々敷
何程　何々敷
合計段別何程　何程　何々敷
内　何程　何々敷
外畦畔何程　内　何程　何々敷
何程　何々敷

右之通候也

年　月　日

住所
願人　氏　名印
（一私人ノ用ユヘキ例）
（市ノ事業ニ在リテハ「市」參事會」ト肩書スヘシ）
何郡、市、町、村長　氏　名印
（公共團體ノ用ユヘキ例）

備考
共有地ニ係ルモノハ其ノ共有者ノ名簿ヲ添付スルモノトス

第四號書式（第二十一條ニ依ル工事著手屆書ノ例）
工事著手屆

何年何月何日許可ヲ得タル何郡何町村大字何字何番地
何年何月何日著手仕候間此段及御屆候也

年　月　日

住所
氏　名印
（一私人ノ用ユヘキ例）
（市ノ事業ニ在リテハ「市」參事會」ト肩書スヘシ）
何郡、市、町、村長　氏　名印
（公共團體ノ用ユヘキ例）

大阪府知事宛

第五號書式（第二十一條ニ依ル工事竣功屆書ノ例）
工事竣功屆

何年何月何日許可ヲ得タル何郡何町村大字何字何番地
何年何月何日竣功仕候間此段及御屆候也

年　月　日

住所
氏　名印
（一私人ノ用ユヘキ例）
（市ノ事業ニ在リテハ「市」參事會」ト肩書スヘシ）
何郡、市、町、村長　氏　名印
（公共團體ノ用ユヘキ例）

大阪府知事宛

〔大阪土〕

第六號書式（第三條ニ依ル修繕工事屆書ノ例）
何々修繕工事屆

何郡何町村大字何字何番地
何市何區何町何丁目
一何々修繕（工事ノ種類ヲ記スヘシ）
右何々（起工ノ事由ヲ詳記スヘシ）ニ付何費ヲ以テ來何月何日ヨリ該修繕ニ著手候間別紙設計書添付此段及御屆候也

年　月　日

住所
氏　名印
（一私人ノ用ユヘキ例）
（市ノ事業ニ在リテハ「市」參事會」ト肩書スヘシ）
何郡、市、町、村長　氏　名印
（公共團體ノ用ユヘキ例）

大阪府知事宛

〔大阪土〕

第二章　土地

●地租法

昭和六年三月三十一日
法律第二十八號

第一章　總則

第一條　本法施行地ニ在ル土地ニハ本法ニ依リ地租ヲ課ス

第二條　左ニ掲グル土地ニハ地租ヲ課セズ但シ有料借地ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　國、府縣、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地

二　府縣、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スルモノト決定シタル其ノ所有地但シ其ノ決定ヲ爲シタル日ヨリ一年內ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セザルモノヲ除ク

三　府縣社地、鄉村社地、招魂社地

四　墳墓地

五　公衆用道路、鐵道用地、軌道用地、運河用地

六　用惡水路、溜池、堤塘、井溝

七　保安林

第三條　土地ニハ一筆毎ニ地番ヲ附シ其ノ地目、地積及賃貸價格（無租地及免租年期地ニ付テハ賃貸價格ヲ除ク）ヲ定ム

第四條　稅務署ニ土地臺帳ヲ備ヘ左ノ事項ヲ登錄ス

一　土地ノ所在
二　地番
三　地目
四　地積
五　賃貸價格
六　所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
七　質權又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ其ノ質權者又ハ地上權者ノ住所及氏名又ハ名稱

本法ニ定ムルモノノ外土地臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　地番ハ市町村、大字、字又ハ之ニ準ズベキ地域ヲ以テ地番區域トシ其ノ區域毎ニ起番シテ之ヲ定ム

第六條　有租地ノ地目ハ土地ノ種類ニ從ヒ左ノ如ク區別シテ之ヲ定ム

第一類地　田、畑、宅地、鹽田、鑛泉地
第二類地　池沼、山林、牧場、原野、雜種地

第七條　地積ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

一　宅地及鑛泉地ノ地積ハ平方メートルヲ單位トシテ之ヲ

無租地ノ地目ハ第二條第三號乃至第七號ノ土地ニ在リテハ各其ノ區別ニ依リ、其ノ他ノ土地ニ在リテハ其ノ現況ニ依リ適當ニ區別シテ之ヲ定ム

定メ一平方メートルノ百分ノ一未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

二　宅地及鑛泉地以外ノ土地ノ地積ハアールヲ單位トシテ之ヲ定メ一アールノ百分ノ一未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ但シ一筆ノ地積一アールノ百分ノ一未滿ナルモノニ付テハ一アールノ一萬分ノ一未滿ノ端數ヲ切捨ツ

第八條　地租ノ課稅標準ハ土地臺帳ニ登錄シタル賃貸價格トス

賃貸價格ハ貸主ガ公課、修繕費其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃貸スル場合ニ於テ貸主ノ收得スベキ一年分ノ金額ニ依リ之ヲ定ム

第九條　賃貸價格ハ十年毎ニ一般ニ之ヲ改訂ス第一回ノ改訂ハ昭和十三年ニ於テ之ヲ行フ

前項ノ改訂ニ關スル事項ハ其ノ都度別ニ之ヲ定ム

土地ノ異動ニ因リ賃貸價格ヲ設定シ又ハ修正スル必要アルトキハ類地ノ賃貸價格ニ比準シ其ノ土地ノ品位及情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條　地租ノ稅率ハ百分ノ三・八トス

第十一條　地租ハ每年左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

一　宅地租

第一期　其ノ年七月一日ヨリ三十一日限　年額ノ二分ノ一

第二期　翌年一月一日ヨリ三十一日限　年額ノ二分ノ一

二　田租

第一期　翌年一月一日ヨリ三十一日限　年額ノ四分ノ一

第二期　翌年二月一日ヨリ末日限　年額ノ四分ノ一

第三期　翌年三月一日ヨリ三十一日限　年額ノ四分ノ一

第四期　翌年五月一日ヨリ三十一日限　年額ノ四分ノ一

三　其ノ他

第一期　其ノ年九月一日ヨリ三十日限　年額ノ二分ノ一

第二期　其ノ年十一月一日ヨリ三十日限　年額ノ二分ノ一

特別ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キモノニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ納期ヲ定ムルコトヲ得

第十二條　地租ハ納期開始ノ時ニ於テ土地臺帳ニ所有者トシテ登錄セラレタル者ヨリ之ヲ徵收ス但シ質權ノ目的タル土地又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ土地臺帳ニ質權者又ハ地上權者トシテ登錄セラレタル者ヨリ之ヲ徵收ス

第十三條　土地ノ異動アリタル場合ニ於テハ地番、地目、地積及賃貸價格ハ土地所有者ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ若ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキ又ハ申告ヲ要セザルトキハ稅務署長ノ調査ニ依リ稅務署長之ヲ定ム

第二章　土地

第一節　有租地及無租地ノ轉換

第十四條　本法ニ於テ無租地ト稱スルハ地租ヲ課セザル土地（免租年期地、災害免租地及自作農免租地ヲ含マズ）ヲ謂ヒ有租地ト稱スルハ其ノ他ノ土地ヲ謂フ

第十五條　無租地ガ有租地ト爲リタルトキ又ハ有租地ガ無租地ト爲リタルトキハ土地所有者ハ三十日內ニ之ヲ稅務署長ニ申告スベシ但シ有租地ガ無租地ト爲リタル場合ニ於テ之ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ若ハ申告ヲ爲シタルモノ又ハ官公署ニ於テ公示シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條　新ニ土地臺帳ニ登錄スベキ土地ヲ生ジタルトキハ當該地番區域內ニ於ケル最終ノ地番ヲ追ヒ順次其ノ地番ヲ定ム但シ特別ノ事情アルトキハ適宜ノ地番ヲ定ムルコトヲ得

第十七條　新ニ土地臺帳ニ登錄スベキ土地ヲ生ジタルトキハ直ニ其ノ地目ヲ設定ス

土地臺帳ニ登錄セラレタル無租地ガ有租地ト爲リ又ハ有租地ガ無租地ト爲リタルトキハ直ニ其ノ地目ヲ修正ス

第十八條　新ニ土地臺帳ニ登錄スベキ土地ヲ生ジタルトキハ直ニ之ヲ測量シテ其ノ地積ヲ定ム

土地臺帳ニ登錄セラレタル無租地ガ有租地ト爲リタルトキハ直ニ其ノ地積ヲ改測ス但シ其ノ地積ニ異動ナシト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十九條　國有財產法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂又ハ讓與ノ豫約ヲ爲シタル土地ニシテ開拓ノ事業成功ニ因リ賣拂又ハ讓與ヲ受ケ有租地ト爲リタルモノニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ有租地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ開拓減租年期ヲ許可シ年期中ハ其ノ原地（開拓前ノ土地）相當ノ賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セザル土地ニ付テハ更ニ十年內ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

第二十條　國有財產法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂又ハ讓與ノ豫約ヲ爲シタル土地ニシテ埋立（干拓ヲ含ム）ノ事業成功ニ因リ賣拂又ハ讓與ヲ受ケ有租地ト爲リタルモノ又ハ公有水面埋立法第二十四條若ハ第五十條ノ規定ニ依リ埋立地ノ所有權ヲ取得シ有租地ト爲リタル土地ニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ有租地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ六十年ノ埋立免租年期ヲ許可ス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セザル土地ニ付テハ更ニ十年內ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

第二十一條　前二條ノ規定ニ依リ開拓減租年期又ハ埋立免租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ有租地ト爲リタル日ヨリ六十日內ニ、開拓減租年期又ハ埋立免租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スベシ

第二十二條　開拓減租年期中ニ於テ地類變換ヲ爲シタルトキ

ハ開拓減租年期ハ消滅ス

開拓減租年期中ニ於テ地目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目ヲ修正スルモ其ノ賃貸價格ハ之ヲ修正セズ

埋立免租年期中ニ於テ地目變換、地類變換又ハ開墾ニ該當スル土地ノ異動アルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ナキモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ免租年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ地目ヲ修正ス

第二十三條　開拓減租年期地又ハ埋立免租年期地ニ付テハ土地所有者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期滿了申告書ヲ稅務署長ニ提出スベシ

第二十四條　無租地ガ有租地ト爲リタルトキハ直ニ其ノ賃貸價格ヲ設定ス

開拓減租年期地ニ付テハ有租地ト爲リタルトキ直ニ原地相當ノ賃貸價格ヲ設定シ開拓減租年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ修正ス

埋立免租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ設定ス

第二十五條　開拓減租年期又ハ埋立免租年期ノ滿了ニ因リ賃貸價格ヲ設定シ又ハ修正スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ地積ヲ改測ス

第二十六條　無租地ガ有租地ト爲リタルトキハ賃貸價格ヲ設定（第二十四條第三項ノ設定ヲ含ム）シタル年ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

開拓減租年期ノ滿了ニ因リ賃貸價格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第二十七條　有租地ガ無租地ト爲リタルトキハ其ノ申告ヲ要スルモノニ付テハ申告アリタル後ニ開始スル納期ヨリ、其ノ申告ヲ要セザルモノニ付テハ稅務署長ガ其ノ事實ヲ認メタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收セズ

第二節　分筆及合筆

第二十八條　本法ニ於テ分筆ト稱スルハ一筆ノ土地ヲ數筆ノ土地ト爲スヲ謂ヒ合筆ト稱スルハ數筆ノ土地ヲ一筆ノ土地ト爲スヲ謂フ

第二十九條　分筆又ハ合筆ヲ爲サントスルトキハ土地所有者ハ之ヲ稅務署長ニ申告スベシ

第三十條　一筆ノ土地ノ一部ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ前條ノ申告ナキ場合ニ於テモ稅務署長ハ其ノ土地ヲ分筆ス

一　別地目ト爲ルトキ

二　無租地ガ有租地ト爲リ又ハ有租地ガ無租地ト爲ルトキ

三　所有者ヲ異ニスルトキ

四　質權又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的ト爲ルトキ

五　地番區域ヲ異ニスルトキ

第三十一條　分筆シタル土地ニ付テハ分筆前ノ地番ニ符號ヲ附シテ各筆ノ地番ヲ定ム

合筆シタル土地ニ付テハ合筆前ノ地番中ノ首位ノモノヲ以テ其ノ地番トス

特別ノ事情アルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ適宜ノ地番ヲ定ムルコトヲ得

第三十二條　分筆ヲ爲シタルトキハ測量シテ各筆ノ地積ヲ定ム

合筆ヲ爲シタルトキハ合筆前ノ各筆ノ地積ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ地積トス

第三十三條　分筆ヲ爲シタルトキハ各筆ノ品位及情況ニ應ジ分筆前ノ賃貸價格ヲ配分シテ其ノ賃貸價格ヲ定ム

合筆ヲ爲シタルトキハ合筆前ノ各筆ノ賃貸價格ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ賃貸價格トス

第三節　開墾

第三十四條　本法ニ於テ開墾ト稱スルハ第二類地ヲ第一類地ト爲スヲ謂フ

第三十五條　開墾成功シタルトキハ土地所有者ハ三十日內ニ之ヲ稅務署長ニ申告スベシ

第三十六條　開墾ニ著手シタル土地ニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ開墾著手ノ年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ開墾減租年期ヲ許可シ年期中ハ原地（開墾前ノ土地）相當ノ賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ地類變換ヲ爲シタル後五年內ニ開墾ニ著手シタル土地ニ付テハ之ヲ許可セズ

二十年內ニ成功シ能ハザル開墾地ニ付テハ前項ノ年期ハ開墾著手ノ年及其ノ翌年ヨリ四十年トス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セザル土地ニ付テハ更ニ十年內ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

宅地又ハ鑛泉地ト爲ス開墾地ニ付テハ其ノ情況ニ依リ稅務署長ハ開墾減租年期ヲ短縮スルコトヲ得

第三十七條　前條ノ規定ニ依リ開墾減租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ開墾著手ノ日ヨリ三十日內ニ、開墾減租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スベシ

第三十八條　開墾減租年期中ニ於テ開墾成功シタルトキ又ハ其ノ成功地ニ付地目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目ヲ修正スルモ其ノ賃貸價格ハ之ヲ修正セズ

開墾減租年期中ニ於テ其ノ原地ニ付地目變換ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ成功地ニ付地類變換ヲ爲シタルトキハ開墾減租年期ハ消滅ス

第三十九條　開墾減租年期地ニ付テハ土地所有者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期滿了申告書ヲ稅務署長ニ提出スヘシ

第四十條　開墾成功シタルトキハ（開墾減租年期中ナルト否トヲ問ハズ）直ニ其ノ地目ヲ修正ス

第四十一條　開墾成功シタルトキハ開墾減租年期地ヲ除クノ外直ニ其ノ賃貸價格ヲ修正ス

開墾減租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ修正ス但シ年期滿了スルモ尙開墾成功セザル土地ニ付テハ開墾成功シタルトキ直ニ其ノ賃貸價格ヲ修正ス

第四十二條　開墾ニ因リ賃貸價格ヲ修正スル場合ニ於テハ其ノ地積ヲ改測ス但シ其ノ地積ニ異動ナシト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四十三條　開墾ニ因リ地目又ハ賃貸價格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正地目又ハ修正賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第四節　地目變換及地類變換

第四十四條　本法ニ於テ地目變換ト稱スルハ第一類地中又ハ第二類地中ノ各地目ヲ變更スルヲ謂ヒ地類變換ト稱スルハ第一類地ヲ第二類地ト爲スヲ謂フ

第四十五條　地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ土地所有者ハ三十日內ニ之ヲ稅務署長ニ申告スベシ

第四十六條　二十年內ニ成功シ能ハザル地目變換地ニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ地目變換著手ノ年及其ノ翌年ヨリ四十年ノ地目變換減租年期ヲ許可シ年期中ハ原地（變換前ノ土地）相當ノ賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セザル土地ニ付テハ更ニ十年內ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

宅地又ハ鑛泉地ニ變換スル土地ニ付テハ其ノ情況ニ依リ稅務署長ハ地目變換減租年期ヲ短縮スルコトヲ得

第四十七條　前條ノ規定ニ依リ地目變換減租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ地目變換著手ノ日ヨリ三十日內ニ、地目變換減租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スベシ

第四十八條　地目變換減租年期中ニ於テ其ノ原地又ハ變換地ニ付地目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目ヲ修正スルモ其ノ賃貸價格ハ之ヲ修正セズ

地目變換減租年期中ニ於テ地類變換ヲ爲シタルトキハ地目變換減租年期ハ消滅ス

第四十九條　地目變換減租年期地ニ付テハ土地所有者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期滿了申告書ヲ稅務署長ニ提出スベシ

第五十條　地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ（地目變換減租年期中ナルト否トヲ問ハズ）直ニ其ノ地目ヲ修正ス

第五十一條　地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ地目變換減租年期地ヲ除クノ外直ニ其ノ賃貸價格ヲ修正ス

地目變換減租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ

其ノ賃貸價格ヲ修正ス但シ年期滿了スルモ尙地目變換セザル土地ニ付テハ地目變換シタルトキ直ニ其ノ賃貸價格ヲ修正ス

第五十二條　地目變換又ハ地類變換ニ因リ賃貸價格ヲ修正スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ地積ヲ改測ス

第五十三條　地目變換又ハ地類變換ニ因リ地目又ハ賃貸價格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正地目又ハ修正賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第五節　荒地免租

第五十四條　本法ニ於テ荒地ト稱スルハ災害ニ因リ地形ヲ變ジ又ハ作土ヲ損傷シタル土地ヲ謂フ

第五十五條　荒地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ荒地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ十五年內ノ荒地免租年期ヲ許可ス前項ノ年期滿了スルモ尙荒地ノ形狀ヲ存スルモノニ付テハ更ニ十五年內ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

海、湖又ハ河川ノ狀況ト爲リタル荒地ニ付テハ前項ノ延長年期ハ二十年內トス其ノ年期滿了スルモ尙海、湖又ハ河川ノ狀況ニ在ルモノハ本法ノ適用ニ付テハ海、湖又ハ河川ト爲リタルモノト看做ス

第五十六條　前條ノ規定ニ依リ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ稅務署長ニ申請スベシ

荒地免租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ提出スベシ

第五十七條　荒地免租年期地ニ付テハ免租年期許可ノ申請アリタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收セズ

第五十八條　荒地免租年期中ノ土地ガ再ビ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ノ年期ハ消滅ス

第五十九條　開拓減租年期、埋立免租年期、開墾減租年期又ハ地目變換減租年期中ノ土地ニ付荒地免租年期ヲ許可シタルトキハ其ノ許可ヲ爲シタル年ヨリ荒地免租年期滿了ニ至ル迄ハ開拓減租年期、埋立免租年期、開墾減租年期又ハ地目變換減租年期ハ其ノ進行ヲ止ム

前項ノ規定ハ他ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ノ全部又ハ一部ヲ免除シタル土地ニ付荒地免租年期ヲ許可シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十條　荒地免租年期中ニ於テ地目變換、地類變換又ハ開墾ニ該當スル土地ノ異動アルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ナキモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ免租年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ地目ヲ修正ス

第六十一條　荒地免租年期地ニ付テハ納稅義務者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期滿了申告書ヲ稅務署長ニ提出スベシ

第六十二條　荒地免租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ設定ス

第六十三條　荒地免租年期ノ滿了ニ因リ賃貸價格ヲ設定スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ地積ヲ改測ス

第六十四條　荒地免租年期ノ滿了ニ因リ賃貸價格ヲ設定シタル土地ニ付テハ其ノ設定ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第三章　災害地免租

第六十五條　北海道又ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ亙ル災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ年分地租ハ之ヲ免除ス

第六十六條　地目變換若ハ開墾成功ノ申告アリタル土地又ハ耕地整理工事完了シ賃貸價格配賦ノ申出アリタル土地ニシテ未ダ土地臺帳ヲ更正セザルモノニ付テハ其ノ成功地目ガ田畑ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ヲ準用ス

第六十七條　前二條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ其ノ事實ヲ明ニシテ稅務署長ニ申請スベシ

第六十八條　前條ノ申請アリタルトキハ被害ノ調査中其ノ年分地租ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第六十九條　第六十五條又ハ第六十六條ノ規定ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ之ヲ控除セズ

第四章　自作農地免租

第七十條　田畑地租ノ納期開始ノ時ニ於テ納稅義務者（法人ヲ除ク）ノ住所地市町村及隣接市町村內ニ於ケル田畑賃貸價格ノ合計金額ガ其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未滿ナルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ田畑ノ當該納期分地租ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除ス但シ小作ニ付シタル田畑ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

民法施行前ヨリ引續キ存スル永小作權ニ付其ノ設定ノ當時舊來ノ慣行ニ依リテ小作料支拂ノ外當該田畑ノ地租ノ全額ヲ永小作權者ニ於テ負擔スルコトヲ約シタル田畑ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ永小作權者ヲ所有者ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

第七十一條　前條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ毎年三月中ニ住所地市町村ヲ經由シ稅務署長ニ申請スベシ

前項ノ申請期間經過後新ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタル田畑ニ付テハ次ノ納期開始前ニ於テ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第五章　地租徵收

第七十二條　稅務署長ハ土地ノ異動其ノ他地租徵收ニ關シ必要ト認ムル事項ヲ市町村ニ通知スベシ

第七十三條　地租ハ各納稅義務者ニ付同一市町村內ニ於ケル同一地目ノ賃貸價格ノ合計金額ニ依リ算出シ之ヲ徵收ス但シ賃貸價格ノ合計金額ガ一圓ニ滿タザルトキハ地租ヲ徵收セズ

田、畑、宅地以外ノ土地ハ之ヲ同一地目ノ土地ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

第七十四條　市町村ハ地租ノ納期毎ニ其ノ納期開始前十五日迄ニ賃貸價格及地租ノ總額竝ニ其ノ各納期ニ於ケル納額ヲ稅務署長ニ報告スベシ但シ前報告後異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ報告後納期開始迄ニ報告事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ直ニ其ノ異動額ヲ稅務署長ニ報告スベシ

第七十五條　市町村ハ第七十條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スル田畑ノ賃貸價格ノ總額ヲ前條ノ例ニ準ジ稅務署長ニ報告スベシ

第七十六條　大藏大臣ハ稅務署長又ハ其ノ代理官ヲシテ隨時市町村ニ於ケル國稅徵收ニ關スル事務ヲ監督セシムベシ

第六章　雜則

第七十七條　他ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ヲ免除シタル土地ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第五十七條及第六十條乃至第六十四條ノ規定ヲ準用ス

第七十八條　稅務署長土地ノ異動ニ因リ地番、地目、地積又ハ賃貸價格ヲ土地臺帳ニ登錄シタルトキ又ハ登錄ヲ變更シタルトキハ土地所有者及納稅義務者ニ通知スベシ

第七十九條　納稅義務者其ノ土地所在ノ市町村內ニ現住セザルトキハ地租ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲其ノ市町村內ニ現住スル者ニ就キ納稅管理人ヲ定メ當該市町村長ニ申告スベシ

第八十條　土地所有者ニ變更アリタル場合ニ於テハ舊所有者ガ爲スベカリシ申告ハ所有者ノ變更アリタル日ヨリ三十日內ニ新所有者ヨリ之ヲ爲スベシ

第八十一條　本法ニ依リ土地所有者ヨリ爲スベキ申告又ハ申請ハ質權ノ目的タル土地又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ土地臺帳ニ登錄セラレタル質權者又ハ地上權者ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

第八十二條　本法ニ依リ申告ヲ爲スベキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲サザルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第八十三條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ地租ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル稅金ノ五倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ地租ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒズ

第八十四條　本法ニ依リ申告ヲ爲スベキ義務ヲ有スル者其ノ

申告ヲ爲サズ仍テ地租ニ不足額アルトキハ直ニ之ヲ徵收ス

第八十五條　前二條ノ規定ニ依リ地租ヲ徵收スル場合ニ於テハ第七十三條ノ規定ニ拘ラズ當該土地一筆毎ニ其ノ地租ヲ算出ス

第八十六條　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ土地ノ檢査ヲ爲シ又ハ土地ノ所有者、質權者、地上權者其ノ他利害關係人ニ對シ必要ナル事項ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地ノ檢査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ゲタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條　市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

第八十八條　本法ハ國有地ニ之ヲ適用セズ

第八十九條　府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ第二條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セザル土地ニ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ズ但シ所有者以外ノ者同條第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其ノ土地ニ付使用者ニ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

第九十條　本法ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和六年分地租ニ限リ第十條ノ規定中百分ノ三・八トアルハ百分ノ四、第十一條ノ規定中宅地租第一期其ノ年七月一日ヨリ三十一日限トアルハ其ノ年十一月一日ヨリ三十日限、其ノ他第一期其ノ年九月一日ヨリ三十日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、其ノ他第二期其ノ年十一月一日ヨリ三十日限トアルハ翌年三月一日ヨリ三十一日限、第七十一條第一項ノ規定中三月中トアルハ十二月中トス

第九十一條　左ノ法律ハ之ヲ廢止ス但シ昭和五年分以前ノ地租ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

地租條例

災害地地租免除法

宅地地價修正法

明治七年第百二十號布告地所名稱區別

明治三十四年法律第三十號

明治三十四年法律第三十一號

明治三十七年法律第十二號

明治三十七年法律第十六號

大正十五年法律第四十七號

第九十二條　土地賃貸價格調查法ニ依リ賃貸價格ノ調查ヲ爲シタル土地ニ付テハ同法ニ依リ調查シタル賃貸價格ヲ以テ本法施行ノ際ニ於ケル賃貸價格トス但シ其ノ賃貸價格ニ依リ算出シタル本法ノ地租額ガ從前ノ地價ニ依リ算出シタル舊法ノ地租額ノ三倍八割ヲ超ユル土地ニ在リテハ舊法ノ地租額ノ三倍八割ニ相當スル金額ヲ百分ノ三・八ヲ以テ除シタル金額ヲ以テ其ノ賃貸價格トス

第九十三條　大正十五年四月一日後本法施行前ニ於テ地價ヲ設定シ又ハ修正シタル土地（免租年期又ハ低價年期ノ滿了ニ因リ原地價ニ復シタルモノヲ含ム）ニ付テハ第九條第三項ノ例ニ準ジ其ノ賃貸價格ヲ定ム

大正十五年四月一日後本法施行前ニ於テ分筆又ハ合筆ヲ爲シタル土地ニ付テハ第三十三條ノ例ニ準ジ前條ノ賃貸價格ヲ配分又ハ合算シテ其ノ賃貸價格ヲ定ム

第九十四條　舊法ニ依リ低價年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ本法施行ノ際未ダ原地價ニ復セザルモノニ付テハ第九條第三項ノ例ニ準ジ其ノ賃貸價格ヲ定ム

第九十五條　前三條ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ定メタル土地ニ付テハ昭和六年分ヨリ本法ニ依リ地租ヲ徵收ス

第九十六條　本法施行前ニ於ケル土地ノ異動中本法施行ノ際未ダ舊法ニ依リ地價ノ設定又ハ修正其ノ他ノ處分ヲ爲サザルモノニシテ本法中之ニ相當スル規定アルモノニ關シテハ本法ヲ適用ス但シ第九十一條但書ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第九十七條　舊法ニ依ル屆出又ハ申請ニシテ本法中之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依ル申告又ハ申請ト看做ス

第九十八條　舊法ニ依リ開墾ノ屆出アリタル土地ニシテ本法施行ノ際開墾著手後未ダ二十年ヲ經過セザルモノハ第三十六條第一項ノ規定ニ依リ開墾減租年期ヲ許可セラレタルモノト看做ス但シ地類變換ヲ爲シタル後五年內ニ開墾ヲ爲シタル土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九十九條　舊法ニ依リ免租年期、鍬下年期又ハ地價据置年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ本法施行ノ際未ダ其ノ年期ノ滿了セザルモノハ左ノ區分ニ從ヒ本法ニ依リ免租年期又ハ減租年期ヲ許可セラレタルモノト看做ス

一　地租條例第十六條第三項ノ鍬下年期ハ第三十六條第二項ノ開墾減租年期トス

二　地租條例第十六條第四項ノ鍬下年期ハ第十九條第一項ノ開拓減租年期トス

三　地租條例第十六條第五項ノ新開免租年期ハ第二十條第一項ノ埋立免租年期トス

四　地租條例第十六條第六項ノ地價据置年期ハ第四十六條第一項ノ地目變換減租年期トス

五　明治三十四年法律第三十號ノ年期延長ハ前各號ノ例ニ準ジ第十九條第二項、第二十條第二項、第三十六條第三項又ハ第四十六條第二項ノ年期延長トス

六　地租條例第二十條ノ荒地免租年期ハ第五十五條第一項ノ荒地免租年期トス

七　地租條例第二十三條又ハ第二十四條ノ免租繼年期ハ荒地ノ種類ニ從ヒ第五十五條第二項又ハ第三項ノ年期延長トス

前項ノ年期ハ舊法ニ依リ許可セラレタル年期ノ殘年期間ノ經過スル年ノ翌年ニ於テ滿了ス

第百條　地積ハ第七條ノ規定ニ拘ラズ當分ノ內左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

一　宅地及鑛泉地ノ地積ハ六尺平方ヲ坪、坪ノ十分ノ一ヲ合、合ノ十分ノ一ヲ勺トシテ之ヲ定メ勺未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

二　宅地及鑛泉地以外ノ土地ノ地積ハ六尺平方ヲ歩、三十歩ヲ畝、十畝ヲ段、十段ヲ町トシテ之ヲ定メ歩未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ但シ一筆ノ地積一歩未滿ナルモノニ付テハ歩ノ十分ノ一ヲ合、合ノ十分ノ一ヲ勺トシテ之ヲ定メ勺未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第百一條　舊法ノ土地臺帳ハ之ヲ本法ノ土地臺帳ト看做ス

第百二條　小笠原島及伊豆七島ノ地租ニ付テハ當分ノ內仍從前ノ例ニ依ル

地租法施行規則

昭和六年四月一日
勅令第四十七號

〔大阪土〕

第一章　總則

第一條　地租法第二條第一號及第二號ノ規定ニ依リ左ノ公共團體ヲ指定ス

一　府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村內ノ區、北海道地方費

二　市町村學校組合、町村學校組合、學區

三　水利組合、水利組合聯合、北海道土功組合

第二條　土地ノ所有權、質權又ハ地上權ノ得喪變更ニ關スル事項ハ登記所ヨリ通知アルニ非ザレバ土地臺帳ニ之ヲ登錄セズ但シ左ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

一　新ニ土地臺帳ニ登錄スベキ土地ヲ生ジタルトキ

二　未登記ノ土地ガ土地臺帳ニ登錄ヲ要セザル土地ト爲リタルトキ

三　未登記ノ土地ガ收用セラレタルトキ

第三條　土地臺帳ニ登錄セラレタル土地所有者、質權者又ハ地上權者其ノ住所ニ異動ヲ生ジタルトキ又ハ其ノ氏名若ハ名稱ヲ改メタルトキハ遲滯ナク之ヲ稅務署長ニ申告スベシ

第四條　土地臺帳謄本ノ交付ヲ受ケントスル者ハ土地一筆ニ付十錢ノ手數料ヲ納メ稅務署長ニ之ヲ請求スベシ

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムベシ

謄本ハ送付ニ要スル郵便切手ヲ提供シテ之ガ郵送ヲ求ムルコトヲ得

國有地又ハ御料地ノ拂下又ハ讓與ニ係ル土地ニシテ未登記ノモノニ付テハ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ズ

土地臺帳謄本ノ書式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五條　北海道、鹿兒島縣大島郡及沖繩縣ニ於ケル地租ハ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

北海道

一　宅地租

第一期　其ノ年八月一日ヨリ三十一日限　年額ノ二分ノ一

第二期　翌年二月一日ヨリ末日限　年額ノ二分ノ一

二　其ノ他

第一期　其ノ年十一月一日ヨリ三十日限　年額ノ二分ノ一

第二期　翌年五月一日ヨリ三十一日限　年額ノ二分ノ一

鹿兒島縣大島郡十島村

翌年五月一日ヨリ八月三十一日限　年額全部

鹿兒島縣大島郡(十島村ヲ除ク)

翌年五月一日ヨリ三十一日限　年額全部

沖繩縣那覇市、首里市、島尻郡、中頭郡、國頭郡

一　宅地租及田租

其ノ年八月一日ヨリ三十一日限　年額全部

〔大阪土〕

二　其ノ他

翌年五月一日ヨリ三十一日限　年額全部

沖繩縣宮古郡平良村字鹽川、仲筋、水納、八重山郡八重山村字波照間、與那國

翌年五月一日ヨリ七月三十一日限　年額全部

沖繩縣宮古郡(平良村字鹽川、仲筋、水納ヲ除ク)、八重山郡(八重山村字波照間、與那國ヲ除ク)

一　宅地租

翌年三月一日ヨリ三十一日限　年額全部

二　田租　其ノ年七月一日ヨリ三十一日限　年額全部

三　其ノ他

翌年五月一日ヨリ三十一日限　年額全部

第二章　土地ノ異動

第六條　土地ノ異動ニ關スル申告書(年期滿了申告書ヲ含ム)ニハ異動ノ種類ヲ表示シ原地ノ所在、地番、地目、地積及賃貸價格(無租地及免租年期地ニ付テハ賃貸價格ヲ除ク)竝ニ異動シタル地番、地目、地積及賃貸價格ヲ記載スベシ

前項ノ申告書中新ニ土地臺帳ニ登錄スベキ土地ニ關スル申告書又ハ分筆ノ申告書ニハ地積ノ測量圖ヲ添附スベシ其ノ他ノ申告書ニシテ之ニ記載シタル異動地ノ地積ガ其ノ原地ノ地積ト同一ナラザルモノニ付亦同ジ

第七條　減租年期又ハ免租年期ノ申請書ニハ年期ノ種類ヲ表

示シ土地ノ所在、地番、地目、地積及賃貸價格（無租地及免租年期地ニ付テハ賃貸價格ヲ除ク）ヲ記載シ倘左ノ事項ヲ附記スベシ

一　開拓減租年期又ハ埋立免租年期ニ付テハ有租地ト爲リタル事由

二　二十年ノ開墾減租年期ニ付テハ開墾ノ豫定地目及著手ノ日

三　四十年ノ開墾減租年期又ハ地目變換減租年期ニ付テハ開墾又ハ變換ノ豫定地目、著手ノ日及事業計畫

四　荒地免租年期ニ付テハ荒地ト爲リタリ事由、被害ノ狀況及許可ヲ受ケントスル年期

五　前各號ノ年期ノ延長ニ付テハ土地ノ狀況及許可ヲ受ケントスル年期

第八條　開墾減租年期又ハ地目變換減租年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニ付開墾若ハ變換ノ豫定地目ヲ變更シ又ハ開墾若ハ變換ヲ廢止シタルトキハ遲滯ナク稅務署長ニ之ヲ申告スベシ

第三章　災害地免租

第九條　災害地免租ノ申請書ニハ收穫皆無ニ歸シタル事由、被害ノ狀況、土地ノ所在、地番、地目、地積及賃貸價格ヲ記載スベシ

第十條　災害地免租ノ申請ヲ爲ス者ハ稅務署長ノ承認ヲ受クルノ迄收穫皆無ノ事實ヲ證スルニ足ルベキ作毛ヲ存置スベシ

第十一條　地租法第六十六條ノ規定ニ依ル地租ノ免除ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一　地目變換地又ハ開墾地ニ在リテハ原地（變換又ハ開墾前ノ土地）ノ地租ヲ免除ス

二　耕地整理地ニ在リテハ收穫皆無ニ歸シタル換地ニ相當スル從前ノ土地ノ地租ヲ免除ス

第四章　自作農地免租

第十二條　地租法第七十條第二項ニ規定スル永小作權者ニシテ同條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ每年三月中ニ左ノ事項ヲ田畑所在ノ市町村長ニ申告スベシ

一　永小作權ノ目的タル田畑ノ所在、地番、地目、地積及賃貸價格

二　田畑所有者ノ住所及氏名

三　永小作權設定ノ年月日

前項ノ申告期間經過後新ニ地租法第七十條第一項ノ規定ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ次ノ納期開始前ニ於テ前項ノ申告ヲ爲スコトヲ得

第十三條　市町村長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ申告ヲ爲シタル者ニ對シ永小作權ノ設定ヲ證スベキ證書其ノ他必要ナル書類ノ呈示又ハ提出ヲ求ムルコトヲ得

第十四條　第十二條ノ申告ヲ爲シタル永小作權者ハ地租法第七十一條第一項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ當該田畑ノ所有者ト看做ス

第十五條　地租法第七十一條ノ規定ニ依ル地租免除ノ申請書ニハ土地ノ所在、地番及地目ヲ記載スベシ但シ申請者ガ其ノ住所地及隣接市町村內ニ於ケル自己ノ田畑ノ全部ニ付申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載シ各筆ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第十六條　市町村ハ其ノ市町村內ニ於ケル田畑ニ付地租ヲ納ムベキ者（地租法第七十條第二項ノ規定ニ依リ所有者ト看做サレタル永小作權者ヲ含ム）ノ住所ガ隣接市町村內ニ在ルトキハ各人別田畑ノ賃貸價格合計金額ヲ每年三月中ニ其ノ住所地市町村ニ通知スベシ

前項ノ通知後田畑地租ノ各納期開始迄ニ通知事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ直ニ之ヲ住所地市町村ニ通知スベシ

第十七條　市町村ハ隣接市町村內ノ田畑ニ付地租法第七十一條ノ申請ヲ受ケタル場合ニ於テ申請者ノ住所地市町村及隣接市町村內ニ於ケル田畑賃貸價格ノ合計金額ガ其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未滿ナルトキハ其ノ旨ヲ田畑所在ノ市町村ニ通知スベシ

前項ノ通知後田畑地租ノ各納期開始ノ時迄ニ通知事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ之ヲ田畑所在ノ市町村ニ通知スベシ

第五章　地租徵收

七十條第一項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ當該田畑ノ所有者ト看做ス

第十八條　市町村ハ其ノ市町村內ノ田畑ニ付地租法第七十一條ノ申請又ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ同法第七十條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スル田畑ヲ調査シ同法第七十五條ノ報告ヲ爲スベシ

第十九條　市町村ハ其ノ市町村內ノ土地ニ付土地臺帳ノ副本及地租名寄帳ヲ設備スベシ

地租名寄帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第六章　雜則

第二十條　地租法以外ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ノ全部又ハ一部ヲ免除スル土地ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第六條及第七條ノ規定ヲ準用ス

第二十一條　地租法第七十八條ノ規定ニ依ル通知及減租又ハ免租ノ申請ニ對スル許否ノ通知ハ土地所在ノ市町村ヲ經由スベシ

第二十二條　市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本令中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和六年分地租ニ限リ第

五條ノ規定中北海道宅地租第一期其ノ年八月一日ヨリ三十一日限トアルハ其ノ年十一月一日ヨリ三十日限、其ノ他第一期其ノ年十一月一日ヨリ三十日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、沖繩縣那覇市、首里市、島尻郡、中頭郡、國頭郡宅地租及田租其ノ年八月一日ヨリ三十一日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、沖繩縣宮古郡(平良村字鹽川、仲筋、水納ヲ除ク)八重山郡(八重山村字波照間、與那國ヲ除ク)田租其ノ年七月一日ヨリ三十一日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限リ、第十六條第一項ノ規定中三月中トアルハ十二月中トス

地租條例施行規則、土地臺帳規則、明治三十八年勅令第百五十九號及明治四十四年勅令第九十二號ハ之ヲ廢止ス但シ昭和五年分以前ノ地租ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

●地租法施行細則

昭和六年四月一日
大藏省令第六號

第一條　土地臺帳ハ第一號書式ニ依リ之ヲ調製スベシ

第二條　土地臺帳ノ謄本ハ第二號書式ニ依リ之ヲ調製スベシ

第三條　地租名寄帳ハ第三號書式ニ依リ之ヲ調製スベシ

第四條　地租法第七十四條及第七十五條ノ規定ニ依ル報告書ハ第四號書式ニ依リ之ヲ調製スベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

土地臺帳規則施行細則、大正三年大藏省令第五號、明治二十二年大藏省訓令第四十九號ハ之ヲ廢止ス

土地臺帳(副本ヲ含ム)及地租名寄帳ノ書式ニ付テハ當分ノ內從前ノ例ニ準ズルコトヲ得

明治三十八年大藏省令第五十號中第二號ヲ削リ第三號ヲ第二號ニ改ム

第一號書式(土地臺帳)

字	地番			等級		
地目	地積	內步	外步	登記年月日	事由	所有者住所
	賃貸價格	名稱	名稱			質權者住所 地上權者住所
			沿革			所有者氏名又ハ質權名稱 地上權名稱

〔大阪土〕

〔大阪土〕

備考

一、土地臺帳ハ地番順ニ之ヲ編纂シ紙數凡二百葉ヲ以テ一册ト爲シ左記書式ノ表紙ヲ附スルモノトス

郡
市
町
村
大字

土地臺帳

何稅務署(副本ハ何市町村役場)

二、共有者ノ人員多數ニシテ一行ニ記載シ得ザル場合ハ左記書式ノ共有者氏名表ヲ添附スルモノトス

共有者氏名表

字	地番	登記年月日	事由	共有持分	住所	氏名又ハ名稱	登記年月日	事由	共有持分	住所	氏名又ハ名稱

第二號書式（土地臺帳謄本）

土地臺帳謄本

郡市	町村	大字	字	地番	地目	地積	賃貸價格	事由	所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
年月日									

備考

一、數筆ヲ連記スルモ妨ケナシ

〔大阪土〕

何稅務署（印）

第三號書式（地租名寄帳）

「田」ノ部

異動及現在額	大字	字	地番	地目	地積	賃貸價格	地租	摘要	納稅義務者住所及氏名又ハ名稱	納稅管理人ノ住所及氏名

〔大阪土〕

備考

一、地租名寄帳ハ田、畑、宅地及雜地（田、畑、宅地以外ノ土地）ノ四科目ニ區分シ尙各科目ノ合計ヲ附シ左ノ書式ノ表紙ヲ附スルモノトス

地租名寄帳

何市町村役場

二、稅務署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ本書式ト異リタル書式ニ依リ調製スルコトヲ得

第四號書式（地租納額報告書）

年　月　日提出

租第　　年　期分地租納額「異動」報告書

何市町村長

摘要	賃貸價格總額	地租總額	納額	人員
月　日現在額				

〔大阪土〕

右ノ外自作農地免租ニ係ルモノ及賃貸價格ノ合計金額一圓未滿ノモノ左ノ如シ

摘要	賃貸價格總額	人員
自作農地免租ニ係ルモノ		
賃貸價格ノ合計金額一圓未滿ノモノ		

〔大阪土〕

備考

一、田租、畑租、宅地租及雜地租ニ區分シテ調製スルモノトス

二、異動報告書ニハ異動額（增ハ墨書、減ハ赤書）ノミヲ當該欄ニ記載スルモノトス

三、所轄稅務署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ本書式ト異リタル書式ニ依リ調製スルコトヲ得

●國有財產法

大正十年四月八日
法律第四十三號

第一條　本法ニ於テ國有財產ト稱スルハ國有ノ不動產竝勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動產及權利ヲ謂フ

第二條　國有財產ヲ分チテ左ノ四種トス

一　公共用財產　國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

二　公用財產　國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務、事業若ハ官吏其ノ他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

三　營林財產　國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

四　雜種財產　前各號ニ屬セサルモノ

第三條　國有財產ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ國有財產ニ關スル總轄事務ハ大藏大臣之ヲ管理スヘシ

第四條　國有財產ハ雜種財產ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス

第五條　雜種財產ハ左ニ揭クル場合ニ限リ之ヲ讓與スルコトヲ得

一　帝室用又ハ公共團體ニ於テ公共用若ハ公用ニ供スル爲必要アルトキ

二　公共用財產又ハ公用財產ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ維持保存ノ費用ヲ負

擔シタル者、其ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル者其ノ他ノ緣故者又ハ關係者ニ讓與スルトキ

三　神社、寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ供用ヲ止メタル國有財産ヲ其ノ合併シタル神社、寺院又ハ佛堂ニ讓與スルトキ

第六條　雜種財産ハ法律ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタル場合ニ限リ之ヲ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第七條　雜種財産ハ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ニ限リ帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ他ノ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ト交換ヲ爲スコトヲ得

前項ノ交換ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ價格均シカラサルトキハ金錢ヲ以テ補足スヘシ

第八條　用途及期間ヲ指定シテ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間內ニ之ヲ其ノ用途ニ供セス又ハ之ヲ其ノ用途ニ供シタル後指定期間內ニ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第九條　國有財産ノ賣拂代金又ハ交換差金ハ財産引渡前之ヲ納付セシムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ延納ノ特約ヲ爲スコトヲ得

第十條　國有財産ニ付境界查定ヲ施行セムトスルトキハ豫メ期日ヲ定メテ隣接地所有者ニ之ヲ通知シ其ノ立會ヲ求ムヘシ

隣接地所有者期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ境界查定ヲ施行スルコトヲ得

第十一條　境界查定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第十二條　前二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者ノ住所居所共ニ不明ナルトキハ通知ノ要旨ヲ公告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ公告シタル場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第十三條　隣接地所有者其ノ他境界查定ニ對シ不服アル者ハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條　國有財産ニ付境界查定又ハ測量ヲ爲ス爲政府ニ於テ他人ノ土地ニ立入リ、目標ヲ設置シ又ハ障害物ヲ除却スルノ必要アルトキハ當該土地又ハ物件ノ所有者及占有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十五條　國有財産ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一　植樹ヲ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ八十年

二　前號ノ場合ヲ除クノ外土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ三十年

三　建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年

貸付期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條　國有財産ハ帝室用又ハ公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アル場合及勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外無償ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得ス

第十七條　國有財産ノ貸付料ハ每年定期ニ之ヲ納付セシムヘシ但シ數年分ヲ前納セシムルコトヲ妨ケス

第十八條　國有財産ヲ貸付シタル場合ニ於テ其ノ貸付期間中帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要ヲ生シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十九條　貸付期間ノ終了又ハ貸付契約ノ解除ニ當リ政府ニ於テ時價ヲ提供シ其ノ國有財産ノ上ニ存スル建物其ノ他ノ物件ヲ買取ルヘキ旨通知シタルトキハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條　前五條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十一條　雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サムトスル者アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業者ニ對シ事業ノ成功ヲ條件トシテ其ノ財産ノ賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シ其ノ事業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ事業ノ成功ニ要スル豫定期間事業者ヲシテ其ノ成功シタル部分ニ付無償ニテ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條　前條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間內ニ事業者其ノ事業ニ著手セサルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第二十三條　第二十一條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ豫定期間內ニ事業成功セサルトキト雖土地又ハ水面ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ事業者ニ對シ其ノ成功シタル部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲スコトヲ得

第二十四條　從前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財産ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做ス

寺院又ハ佛堂ノ上地ニ係ル雜種財産ハ其ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付スルコトヲ得

第二十五條　政府ハ國有財産ノ種類ニ從ヒ其ノ臺帳ヲ備フヘシ

臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條　政府ハ每會計年度間ニ於ケル國有財産增減總計算書及每五年三月三十一日現在ノ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ會計檢査院ノ檢査ヲ經テ之ヲ帝國議會ニ報告スヘシ

前項ノ國有財産增減總計算書ニハ各省ノ國有財産增減報告書ヲ、國有財産現在額總計算書ニハ各省ノ國有財産現在額報告書ヲ添附スヘシ

附　則

第二十七條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年勅令第六十一號ヲ以テ大正十一年四月一日ヨリ施行）

第二十八條　第二十五條及第二十六條ノ規定ハ當分ノ內公共用財産ニ付之ヲ適用セス

第二十九條　第二十六條ノ規定ニ依ル國有財産增減總計算書ハ本法施行ノ日ノ屬スル年度分ヨリ、國有財産現在額總計算書ノ第一回分ハ本法施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十條　北海道國有未開地處分法中ノ規定ハ本法ノ規定ニ牴觸スルモノト雖當分ノ內仍其ノ效力ヲ有ス

第三十一條　國有林野法第二條、第四條乃至第七條、第九條、第十二條乃至第十四條、第十六條、第二十四條及第二十五條ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ但シ本法施行前ニ係ル國有林野ノ增減異動報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十二條　從前ノ法令ニ依リテ爲シタル處分、契約其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條　本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

●國有財産法施行令

大正十一年一月二十八日
勅令第十五號

改正　昭和二年三月勅令第四二號、九年三月第七號

第一章　總則

第一條　左ニ揭クル動産及權利ニシテ國有ノモノハ之ヲ國有財産法第一條ノ國有財産トス

一　船舶、浮標、浮棧橋及浮船渠

二　不動産又ハ前號ニ揭クル動産ノ從物

三　事業所ニ於ケル機械及重要ナル器具

四　地上權、地役權、鑛業權、砂鑛權其ノ他之ニ準スヘキ權利

五　株式及出資ニ因ル權利

前項第三號ノ事業所ノ範圍ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ

〔大阪土〕

之ヲ定ム

第二條　各省大臣公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止セムトスルトキハ豫メ大藏大臣ニ之ヲ通知シ特ニ大藏大臣ト協定シタルモノヲ除クノ外用途廢止後遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

前項ノ規定ハ用途ノ廢止ト同時ニ國有財産タルノ性質ヲ失フモノ、國有林野法第三條第二項ノ規定ニ依リ營林財産ト爲スノ必要アルモノ、史蹟名勝天然紀念物ニ指定セラレタルモノ及帝國鐵道會計、通信事業特別會計、簡易生命保險特別會計、大學資金又ハ學校及圖書館資金ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

第三條　各省大臣國有財産ノ管理換ヲ受ケムトスルトキハ所管大臣及大藏大臣ニ協議スヘシ

第四條　左ニ揭クル場合ニ於テハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議スヘシ

一　公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ大藏大臣ノ定ムルモノニ該當スルトキ

二　公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ交換ヲ爲シ又ハ寄附ヲ受ケムトスルトキ

三　雜種財産ヲ公用財産又ハ營林財産ト爲サムトスルトキ

四　營林財産ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ

第五條　各省大臣公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條　前二條ノ規定ハ國有財産法施行地外ニ在ル財産及帝國鐵道會計ニ屬シ又ハ屬スヘキ財産ニ付之ヲ適用セス

第七條　國有財産ニ關スル事務ニ從事スル職員ハ其ノ取扱ニ係ル國有財産ヲ讓受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第二章　賣拂、讓與及交換

第八條　公共團體ニ於テ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル公共用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ公共團體ニ讓與スルコトヲ得但シ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外費用負擔ノ義務ヲ負ヒタル期間カ十年ニ滿タサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條　公共團體又ハ私人ニ於テ公共用財産ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル爲其ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ施設ヲ爲シタル者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ財産ノ見込價格カ其ノ施設ニ要シタル費用ノ額ヲ超過スルトキハ超過額ニ相當スル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條　公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ財産中寄附ニ係ルモノハ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ寄附ノ際特約ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外寄附ヲ受ケタル後二十年

ヲ經過シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　國有財産ニ付交換ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ目的物ノ價格ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ

評定價格ノ差額カ其ノ高價ナルモノノ價格ノ四分ノ一ヲ超ユルトキハ交換ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條　前條第一項ノ規定ハ隨意契約ニ依リ國有財産ノ賣拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　一定ノ用途ニ供セシムル目的ヲ以テ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官廳ハ其ノ用途竝之ヲ其ノ用途ニ供スヘキ始期及期間ヲ指定スヘシ但シ當該官廳ニ於テ特ニ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章　境界査定

第十四條　國有財産ニ付境界ノ分明ナラサルモノアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルトキ又ハ隣接地所有者ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ其ノ境界査定ヲ施行スヘシ

第十五條　境界査定ヲ施行セムトスルトキハ當該官廳ハ其ノ日時及場所ヲ定メ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ書面ノ送達ハ期日ニ付豫メ隣接地所有者ノ承諾アリタル場合ヲ除クノ外期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ七日前之ヲ爲スヘシ

第十六條　隣接地所有者期日ニ於テ立會ヲ爲スコト能ハサル事由ヲ申出テタルトキハ當該官廳ハ其ノ期日ヲ變更スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第十七條　境界査定ヲ了シタルトキハ當該官廳ハ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

隣接地所有者ハ當該官廳又ハ其ノ指定シタル官公署ニ就キ査定圖又ハ其ノ謄本ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第十八條　當該官廳第十五條又ハ前條ノ通知ヲ爲シタルトキハ配達證明郵便ニ依リタル場合ヲ除クノ外其ノ受領書ヲ徴スヘシ

第十九條　國有財産法第十二條ノ公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲シ且關係市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ揭示其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ爲サシムヘシ

第四章　貸付及準貸付

第二十條　公共用財産又ハ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ寄附ヲ受ケタル國有財産ハ其ノ用途ニ供セサル期間無償ニテ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ貸付スルコトヲ得

第二十一條　隨意契約ニ依リ國有財産ヲ貸付セムトスルトキハ當該官廳ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ

〔大阪土〕

作成スヘシ國有財産法第十五條第二項ノ規定ニ依リ貸付期間ヲ更新セムトスルトキ亦同シ

第二十二條　前二條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十三條　雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ノ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ事業者ヨリ左ノ事項ヲ具シタル事業計畫書ヲ提出セシムヘシ

一　土地又ハ水面ノ所在及面積
二　事業ノ目的
三　事業施行ノ方法及順序
四　成功豫定期間
五　收支豫算
六　計畫圖

事業成功ノ後公共ノ用ニ供スヘキ部分アルトキハ其ノ位置及面積ヲ事業計畫書ニ記載セシムヘシ

第二十四條　國有財産法第二十一條第一項ノ規定ニ依リ國有財産ノ賣拂又ハ有償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスルトキハ當該官廳ハ賣拂價格又ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ

前項ノ規定ハ國有財産ノ讓與又ハ無償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第五章　臺帳

第三十條　國有財産ノ臺帳ハ所管ノ各省ニ之ヲ備フヘシ但シ部局ノ長ニ於テ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル場合ニ於テハ其ノ部局毎ニ之ヲ備ヘ各省ニハ其ノ總括簿ヲ備フルモノトス

第三十一條　國有財産ノ臺帳ハ其ノ種類毎ニ之ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ財産ノ性質ニ依リ其ノ記載事項ヲ省略スルコトヲ得

一　種目
二　所在又ハ所屬
三　數量
四　價格
五　得喪變更ノ年月日及事由
六　其ノ他必要ナル事項

第三十二條　國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ價格ハ購入ニ係ルモノハ購入價格、交換ニ係ルモノハ交換當時ニ於ケル評定價格、收用ニ係ルモノハ補償金額ニ依リ其ノ他ノモノハ左ノ區分ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一　土地ニ付テハ類地ノ時價ニ比準シテ算定シタル金額
二　立木竹ニ付テハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ算定シタル金額、庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ハ見込價格
三　建物其ノ他ノ工作物及船舶其ノ他ノ動産ニ付テハ建築費、製造費又ハ見込價格
四　權利ニ付テハ第一條第四號ニ掲クルモノハ見込價格、第五號ニ掲クルモノハ拂込金額又ハ出資金額

第三十三條　土地及立木竹ノ價格ハ國有財産現在額總計算書調製ノ年三月三十一日ノ現況ニ依リ之ヲ改定スヘシ但シ臺帳ニ登錄シタル後二年ヲ經過セサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ土地ノ價格ハ類地ノ時價ニ比準シ、立木竹ノ價格ハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ之ヲ算定スヘシ但シ庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ニ付テハ見込價格ニ依ル

前二項ノ規定ハ帝國鐵道會計及通信事業特別會計ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

第三十四條　作業會計又ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノノ價格ハ前二條ノ規定ニ拘ラス其ノ資本價格ニ依ルヘシ

第六章　計算書及報告書

第三十五條　各省大臣ハ會計檢査院ニ證明ノ爲國有財産ノ增減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

前項ノ計算書ハ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル部局ノ長ヨリ直ニ會計檢査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三十六條　各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル國有財産增減報告書ヲ調製シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産增減報告書ニ基キ國有財産增減總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産增減報告書ト共ニ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第三十七條　各省大臣ハ每五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産現在額報告書ニ基キ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産現在額報告書ト共ニ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第七章　雜則

第三十八條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外國有財産ノ臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十九條　第三十五條ニ規定スル計算證明書類ノ樣式及送付期限ニ付テハ會計檢査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第四十條　前條ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ニ定ムル諸計算書ノ樣式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十一條　本令ニ定ムル帳簿及書類ノ樣式ニハ國防上祕密ヲ要スル國有財産ニ付必要ナル特例ヲ設クヘシ

附　則

〔大阪土〕

第四十二條　本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條　左ノ命令ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ增減異動ニシテ本令施行前ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

明治七年九月二十三日達皇城周圍內外ノ溝壘等修繕改築ニ關スル件
明治八年第百四十六號達
明治八年第百九十八號達
明治九年第四十六號達
明治十三年第六號達
明治十三年七月八日達皇城周圍內外ノ溝壘外岸接近ノ官有地ヘ家屋等建築ニ關スル件
明治十四年第十號達
明治十六年第四十五號達
官有地特別處分規則
官有財産管理規則
官有地取扱規則
明治二十四年勅令第十五號
明治二十七年勅令第九十二號
明治三十六年勅令第九十六號
明治三十九年勅令第二百二十號
明治四十一年勅令第百十九號

〔大阪土〕

明治四十二年勅令第七十號
大正六年勅令第二百二十四號

第四十四條　本令施行ノ際ニ於ケル各省所管ノ雜種財產ハ國有林野及北海道國有未開地ヲ除クノ外第二條ノ規定ニ準シ本令施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

第四十五條　本令施行ノ際國有財產ノ臺帳ニ登錄スヘキ土地及立木竹ノ價格ハ其ノ聘入、交換又ハ收用ニ係ルモノト雖爾後二年ヲ經過シタルモノニ付テハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノヲ除クノ外第三十二條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ算定シタル金額ニ依ル

第四十六條　各省大臣ハ本令施行ノ日ノ現在ニ於ケル國有財產現在額報告書ヲ調製シ其ノ年十月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四十七條　前三條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

國有財產法施行規則

大正十一年二月八日
大藏省令第十四號

改正　大正一一年一二月大藏省令第六一號、昭和二年三月第五號、七年八月第一七號、九年三月第一一號

第一條　公用財產タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ之ニ因リ各箇ノ官廳、兵營、病院、監獄、學校、官舍、

工場、倉庫、練兵場、作業場、演習場、射擊場、飛行場、牧場、農場、試驗場、演習林ノ敷地ニ異動ヲ生スヘキモノニ付テハ國有財產法施行令第四條ノ規定ニ依リ所管大臣大藏大臣ト協議スヘシ但シ其ノ異動ノ面積カ百坪ヲ超エサル場合及相接續スル兩敷地ノ區域ノ相互變更ニシテ其ノ面積カ各敷地ノ面積ノ一割ヲ超エサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　國有財產ノ臺帳ハ第一號樣式ニ據ル但シ帝國鐵道會計又ハ通信事業特別會計ニ屬スルモノ及作業會計又ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別ニ其ノ樣式ヲ定ムルコトヲ得

國有林野ニシテ別ニ臺帳ノ設備アルモノニ付テハ之ニ總括ヲ附シテ國有財產ノ臺帳ニ代用スルコトヲ得

第三條　臺帳ニハ土地、建物及國有財產法施行令第一條第四號ニ揭クル權利ニ關スル圖面ヲ附屬セシムヘシ但シ本令施行ノ際ニ於ケル雜種財產ニ付テハ其ノ重要ナルモノヲ除クノ外當分ノ內之ヲ省略スルコトヲ得

第四條　國有財產ノ總括簿ヲ備フル場合ニ於テハ第一號樣式中總括ニ準シテ之ヲ調製シ尙公用財產ノ分ニ付テハ前條ニ準シテ圖面ヲ附屬セシムヘシ

第五條　國有財產現在額報告書及國有財產增減報告書ハ第二號及第三號樣式ニ據ル

附　則

本令ハ國有財產法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和七年大藏省令第十七號）

本令ハ昭和七年度ヨリ之ヲ適用ス但シ昭和七年三月三十一日現在ニ於ケル國有財產現在額報告書ハ改正樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

（樣式略ス）

內務省所管國有財產取扱規程

大正十一年六月十九日
內務省訓令第十號

改正　大正一一年七月內務省訓令第一四號、一〇月第二一號、一三年四月第六號、昭和二年八月第二〇號、三年四月第五號、四年六月第九號、八月第一八號、五年四月第五號、七年四月第三號、九年四月第六號、六月第一三號、一一年八月第一五號

內務大臣官房會計課　土木出張所
土木試驗所　衞生試驗所　社會局
傷兵院　神宮司廳　造神宮使廳
警察講習所　武藏野學院
榮養研究所　國立癩療養所　廳府縣

第一條　內務省所管ノ國有財產ハ本規程ニ依リ取扱フヘシ但シ別段ノ定アルモノハ其ノ定ニ依ル

第二條　本規程ニ於テ部局長ト稱スルハ內務大臣官房會計課長、土木出張所長、土木試驗所長、衞生試驗所長、社會局長官、傷兵院長、神宮大宮司、造神宮副使、警察講習所長、武藏野學院長、榮養研究所長、國立癩療養所長、警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ謂フ

第三條　左ニ揭クル事項ハ部局長限リ之ヲ處理スヘシ

一　國有財產ノ管理ニ關スル事項
二　公用財產ノ一時使用許可ニ關スル件
三　公用財產タル土地ノ用途變更ニシテ大藏大臣ノ定メタルモノニ該當セサルモノ、其ノ異動面積百坪ヲ超エサルモノ、相接續スル兩敷地區域ノ相互變更面積カ其ノ敷地ノ一割ヲ超エサルモノノ用途ヲ變更スル事項
四　國有財產法施行令第一條第一項第二號ノ從物ヲ主物ヨリ分離シ公用財產タル用途ヲ廢止スル事項
五　公共用財產ト爲ス爲土地ノ買入、收容若ハ寄附受納ヲ爲ス事項
六　公共用財產ノ使用又ハ收益ヲナサシムル事項
七　公共用財產ノ用途ヲ變更スル事項
八　公共用財產及神社ノ用ニ供スル公用財產ノ用途ヲ廢止シ之ヲ大藏省所管ニ引繼ヲ爲ス事項
九　公共用財產ヲ公用財產ト爲ス爲他省所管ニ管理換ヲ爲ス事項
十　公共用財產若ハ神社ノ用ニ供スル公用財產ヲ營林財產ト爲ス爲農林省所管ニ管理換ヲ爲ス事項

十一　（削除）

十二　他省所管ノ公用財産ヲ公共用財産ト爲ス爲管理換ヲ受クル事項

十三　農林省所管ノ國有林野ヲ公共用財産ト爲ス爲又ハ神社上地ノ農林省所管國有林野ヲ神社ノ用ニ供スル公用財産ト爲ス爲管理換ヲ受クル事項

十四　神社ノ用ニ供スル爲土地ノ寄附ヲ受納スル事項

十五　神社用地又ハ公共用財産タル土地ノ用途ヲ廢止シ之ヲ神社用地又ハ公共用財産ト爲スノ必要アル民有地ト交換スル事項

十六　公用財産ノ用途ヲ廢止シ之ヲ公共用財産ト爲ス爲又ハ公共用財産ノ用途ヲ廢止シ又ハ公用財産ト爲ス爲大藏省所管ニ引繼ヲ爲ササル事項

十七　營林財産ヲ公共用財産ト爲ス爲及營林財産中建物及工作物ニシテ其ノ臺帳價格千圓以下ノモノノ目的ノ廢止ヲ爲ス事項

十八　公共用財産ノ用途ヲ廢止シ之ヲ營林財産ト爲ス爲大藏省所管ニ引繼ヲ爲サザル事項

十九　公用財産タル立木竹中庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キモノ及工作物中臺帳價格千圓以下ノモノニ付取毀ノ目的ヲ以テ用途廢止ヲ爲ス事項

前項第十二號及第十三號ノ場合ニ於テハ各省關係部局長及所轄稅務監督局長ニ、第十四號乃至第十八號ノ場合ニ於テハ所轄稅務監督局長ニ協議シ第十九號ノ場合ニ於テハ所轄稅務監督局長ニ事前通知ヲ爲スヘシ

第四條　部局長他省ヨリ國有財産ノ管理換ヲ受クルノ必要アルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ目的財産ニ關スル調書土地又ハ建物ニ在リテハ圖面ヲ添ヘ內務大臣ニ稟請スヘシ

部局長部局相互間ニ於テ國有財産ノ所屬換ヲ爲スノ必要アルトキハ其ノ事由及調書ノ外當該部局間ニ於ケル協議ノ結果ヲ具シ內務大臣ニ稟請スヘシ

第五條　部局長公用財産ト爲ス爲土地ノ交換ヲ爲シ又ハ不動産ノ寄附ヲ受クルノ必要アルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ土地又ハ建物ニ在リテハ圖面ヲ添ヘ內務大臣ニ稟請スヘシ

前項土地ノ交換ヲ爲サムトスルトキハ國有財産法施行令第十一條ニ依リ作成シタル調書ヲ添附スヘシ

第六條　部局長公用財産ト爲ス爲土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ直ニ內務大臣ニ報告スヘシ

第七條　部局長公用財産ノ用途若ハ營林財産ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ、公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ臺帳ノ抄本（圖面アルモノハ圖面共）ヲ添附シ內務大臣ニ稟請スヘシ

公用財産ノ用途廢止ノ後仍引續キ內務大臣ノ管理ヲ必要ト認ムルモノアルトキハ其ノ意見ヲ具申スヘシ

〔大阪土ム〕

第八條　部局長國有財産ヲ貸付セムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ契約書案ヲ添附シ內務大臣ニ稟請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ隨意契約ニ依ルモノニ付テハ國有財産法施行令第二十一條ノ規定ニ依ル調書ヲ添附スヘシ

第九條　部局長國有財産ノ使用若ハ收益ヲ爲サシメムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ契約書案、隨意契約ニ依ルモノニ付テハ國有財産法施行令第二十二條ノ規定ニ依ル調書（土地又ハ建物ニ在リテハ圖面共）ヲ添附シ內務大臣ニ稟請スヘシ

第十條、第十一條　（削除）

第十二條　部局長國有財産ニ付境界査定ヲ施行シタルトキハ其ノ調書及査定圖面ヲ調製シ之ヲ保存スヘシ

第十三條　國有財産亡失又ハ毀損シタルトキハ部局長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ詳具シ損害額調書ヲ添附シ內務大臣ニ報告スヘシ但シ其ノ損害額ノ輕微ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　部局長ハ國有財産ノ價格ヲ評定セシムル爲常置又ハ臨時ノ價格評定員ヲ命スヘシ

第十五條　臺帳ニ附屬セシムヘキ圖面ハ左ノ區分ニヨリ調製スヘシ

一、土地及國有財産法施行令第一條第四號ニ掲クル權利ノ目的物ニ付テハ縮尺六百分ノ一ノ平面圖但シ場合ニ依リ其ノ縮尺ヲ變更スルコトヲ得

二、建物ニ付テハ百分ノ一ノ平面圖

第十六條　國有財産法施行規則第一號樣式備考二ノ但書ニ依リ工作物及器具機械ノ種目ノ追補ヲ要スルモノアルトキハ內務大臣ニ稟請スヘシ

第十七條　部局長ハ左ノ區分ニ依リ國有財産增減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ直接之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

一、北海道廳ニアリテハ年二回（第一回　自四月至九月期　第二回　自十月至三月期間）

二、北海道廳以外ノ部局ニアリテハ年一回（自四月至三月期間）

計算證明規定第七十一條ニ依リ每年度最終ノ國有財産增減計算書ニ添附スヘキ明細書ハ第一號樣式ニ依リ調製スヘシ

第十八條　部局長ハ國有財産法施行規則第三號樣式ニ準據シ每會計年度間ニ於ケル國有財産增減報告書二通ヲ調製シ翌年度五月三十一日迄ニ內務大臣ニ進達スヘシ

第十九條　部局長ハ國有財産法施行規則第二號樣式ニ準據シ每五年三月三十一日現在ニ依ル國有財産現在額報告書二通ヲ調製シ其ノ年六月三十日迄ニ內務大臣ニ進達スヘシ

附　則

第二十條　本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

第二十一條　國有財産現在額報告書ノ第一回ハ大正十一年四日一日現在ニ依リ調製シ其ノ年七月三十一日迄ニ內務大臣

ニ進達スヘシ

第二十二條　左ニ掲ケタル訓令及通牒ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ増減異動ニシテ大正十年度中ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

訓　令

明治二十三年十月内務省訓令第三十七號官有地賣貸評價委員設定ノ件

明治二十六年十一月内務省訓第六九四號官有土地水面ノ公私有區別

明治二十七年四月内務省訓第二三八號官有土地水面竝土石竹木等賣買貸借交換讓與ノ際契約書省略ノ件

明治二十三年五月内務省訓第五二五號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ又ハ土地收用法ニ依リ收用シタル土地處分等ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件

明治三十三年六月内務省訓令第二十號、明治三十八年四月内務省訓令第十四號直轄河川改修工事ノタメ官有地ヲ要スル場合取扱方ノ件

明治三十六年十月内務省訓第六二五號耕地整理法第十條ニ依リ國有地ヲ參加土地所有者ニ交付シ又代地ヲ國有ニ編入ノ件

明治三十六年十月内務省訓第六六二號御料地ヲ賣渡シタル場合ニ於ケル地種組替ノ件

明治三十九年五月内務省訓令第三四四號官有土地水面竝土石竹木等交換讓與ニシテ無條件ノモノハ受書ヲ徵セサルモ妨ナキ件

明治四十年十二月内務省訓第一一三〇號大藏省所管ノ固定資本ニ屬スル土地處分ノ場合地種組替ニ關スル件

明治四十二年十二月内務省訓第六二〇號、明治四十三年三月内務省訓第八〇號地種目組替取扱ニ關スル件

大正元年十一月内務省訓令第四號官有財産竝其增減異動報告方

大正二年一月内務省訓令第一號國有土地水面等ニ關スル委任事項

大正二年四月内務省訓第一九九號國有土地水面ニシテ各地ニ散在スル小畝歩ノモノ賣却ノ件

大正八年十月内務省訓第六八五號官有財産ノ處分委任ノ件

達

明治九年五月内務省達乙第五十九號地所拂下代價算出方

通　牒

明治二十三年十月内務書記官通牒地甲第二三號官有地賣貸評價委員選定方

明治二十五年一月營甲第一一〇號官有地積算法ノ件

明治二十五年十二月内務書記官通牒庶甲第二七九號官有財産管理規則第十三條ニ公共組合ヲモ含ムノ件

明治二十七年十二月甲第三九七號風潮除又ハ風致等ノ爲メ樹木獻植ノ件

明治三十年三月土監甲第二二〇號通牒、明治三十八年四月祕甲第一七號通牒直轄河川改修工事ノタメ御料地中濱地ヲ要スル場合取扱方ノ件

明治三十年十月庶甲第一九五號各官廳ノ所有ニ供スル爲メ府縣郡市町村ヨリ土地ヲ寄付セントスルトキハ各其議會ノ議決書及監督行政廳ノ認可若ハ許可書ヲ添屬シテ出願セシムル件

明治三十一年三月庶務局通牒庶甲第四〇號官有地讓與ノ場合ニ於テモ評價セシムヘキ件

明治三十一年九月庶甲第二一二號森林法第二條ニ該當スル官有地ヲ保安林ニ編入ヲ要スル場合ニ於ケル手續及人民ノ獻植ヲ許可セラレタル場合ニ於ケル取扱方ノ件

明治三十一年十二月庶甲第二六號官有土地森林原野收入金徵收規程中改正ニ就キ產物年期賣拂代金徵收方ノ件

明治三十三年五月庶甲第一三三號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ又ハ土地收用法ニ依リ收用シタル土地處分等ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件

明治三十四年六月土甲第二五號河川改修工事ノタメ買收若ハ收用シタル土地貸付方

明治三十七年四月藏甲第一八號土地臺帳規則施行細則改正ノ結果土地所有權登記ニ關スル件

明治三十七年七月藏甲第三一號無番號ナル官有地登記ノ件

明治三十七年十一月理甲第一〇號直接公用ヲ廢シタル官有地ヲ戰時經營ノ一事業トシ小學校紀念殖林ニ充ルノ目的ヲ以テ拂下ノ件

明治三十八年九月青甲第四一號市町村又ハ公立小學校ノ基本財産造成ノ爲メ官有地特別處分ノ件

明治三十九年四月理甲第六號町村有ノ戰時紀念林ニ要スル官有地特別處分ノ件

明治三十九年四月理甲第三十八號小學校生徒樹栽地ニ供スル官有地特別處分ノ件

明治三十九年六月藏甲第三〇九號土地臺帳規則施行細則改正ニ付注意方ノ件

明治三十九年八月藏甲第二五二號大藏省所管ノ官用地ヲ同省限リ使用許否ノ件

明治三十九年九月地理課通牒理甲第二二號官有土地水面賣貸讓與交換ノ際評價書ニ掲記スヘキ事項ノ件

明治四十年八月農甲第二七號國有林野法第三條一項ニ依リ組換ヲ爲ス場合ノ協議手續ニ關スル件

明治四十年十月香甲第四六號官有地特別處分規則第三條適用ノ件

明治四十一年五月理甲第四號社寺佛堂合併跡地讓與ニ關スル

件

明治四十二年四月理甲第三號民有神社地及寺院敷地ノ上地許否ノ件

明治四十二年六月理甲第九號官有地ノ賣却貸付ノ場合ニ於ケル入札又ハ契約保證金ニ關スル件

明治四十二年七月富乙第六五號私有地ノ土砂ヲ無願採取ノ件

明治四十二年十二月藏甲第二三六號民有地ノ國有トナリ又國有地ノ民有トナリタル場合所轄稅務署ヘ通知ノ件

明治四十二年十二月閣甲第五四號地種目組替取扱ニ關スル件

明治四十二年十二月會計課通牒會甲第二〇〇號、量水標ハ官有財產トシテ取扱ハサル件

大正元年十二月理三〇〇號國有地ヲ民有地ト爲ス場合ノ取扱方ニ關スル件

大正二年一月元理第三二三號ノ內國有土地水面及木竹土石砂利其他產物ニ關スル委任事項改正ニ關スル件

大正二年二月理第六二號鐵道院ニ於ケル土地取扱官吏

大正三年二月發理第一號御大禮記念事業經營ノ爲メ官有地拂下ノ場合ニ於テ官有地特別處分規則第一條一號適用ニ關スル件

大正五年七月閣理第七號鐵道用地ニ關シ官有地ノ一部管理替ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件

大正五年八月會計課通牒發會第一三九號船舶取扱方

大正五年十月秋理第六號官有地貸付料徵收ニ關スル件

大正六年十二月理第三四七號未登記國有地公共團體ニ拂下箇所登記ニ關スル件

大正七年九月阪理第一一號官有地特別處分規則第一條二號ノ適用ニ關スル件

大正八年十二月岡理第五號鐵道用地管理替ノ件

第一號樣式（國有財產增減計算書附屬明細書）

大正何年度

國有財產增減計算書

附屬明細書

何（廳名）

〔大阪土〕

細明（付貸準）付貸

摘要	單位 呼稱	前年度末現在高 數量	前年度末現在高 價格	增 數量	增 價格	減 數量	減 價格	翌年度越高 數量	翌年度越高 價格	翌年度越高 料金	備考
貸付有料			圓		圓		圓		圓	圓	一、料金ハ滿期日ノ如何ニ拘ラス年額ヲ以テ揭クヘシ 一、增減ニ對シテハ其ノ事由ヲ備考ニ附記スヘシ
公用財產何地所在											
土地		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
何々		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計			0		0		0		0	0	
何々											
何々											
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			0		0		0		0	0	
無料（フ倣ニ例前）											
準貸付（フ倣ニ例前）											

〔大阪土〕

●永代借地權ノ設定セラルル土地ノ取扱ニ關スル件

大正十一年七月十日
課第三四四號會計課長通牒
北海道廳長官、東京、大阪、兵庫、長崎（各府縣）知事宛

標記ノ件ニ關シ別紙甲號ノ通リ神奈川縣知事ヨリ照會有之候處乙號ノ通回答相成候條爲念及通牒候也

（甲號）

國有財產事務取扱ニ關スル件

大正十年法律第四十三號國有財產法ハ本年四月一日ヨリ實施相成居候處右法律施行ノ結果同法第二條第四號ニ該當スル財產中大藏大臣ニ引繼ヲ要スヘキ官有地ニ關シ差當リ處分ヲ要スヘキ事件多數有之候ニ付左記事項ニ付貴省ノ御見解至急承知致度何分ノ御回示相成度此段及照會候

記

一　管下橫濱市內元居留地ニ現存スル永代借官有地ハ其事務ヲ從來當廳ニ於テ取扱來リ候處國有財產法實施後ハ該官有地カ同法第二條第四號ニ該當スルヲ以テ同法施行令第四十四條ニヨリ當然大藏大臣ニ引繼ヲ要スヘキモノナレハ本年四月一日ヨリ大藏大臣ノ管理ニ移リタルモノト

思考致可然哉

二　永代借官有地カ大藏大臣ノ管理ニ屬スルモノトセハ明治三十四年法律第三十九號永代借地權ニ關スル件中第二條及其以下ニ於ケル所謂地方廳ハ大正十一年大藏省訓令第十八號大藏省所管國有財産取扱規程第三條ノ部局長中ノ地方廳ヲ指稱シ同官廳ニ於テ永代借地權ノ移轉及抹消方ニ關スル一切ノ事務ヲ取扱フモノト思考致可然哉

三　永代借官有地カ雜種財産トシテ四月一日ヨリ大藏大臣ノ所管ト相成上ハ本年三月三十一日迄ニ處理未濟ノモノ及四月一日以後ニ於ケル永代借地ニ關スル諸申請中急施ヲ要スト認ムルモノハ關係書類ト共ニ所轄稅務監督局ニ隨時引渡致シ可然哉（所管換トナルヘキ雜種財産ハ本縣ニ於ケルモノ全部未タ引繼授受ノ運ヒニ至ラサル次第ニ有之候）

（乙號）

國有財産事務取扱ニ關スル件回答

大正十一年四月二十九日戌官發第二〇七號照會標記ノ件ハ左記ノ通御承知相成度

記

一　永代借地權ノ設定セラルル土地ハ國有財産トシテ大藏省ニ引繼クヘキモノニアラス

二　明治三十四年法律第三十九號ノ「其ノ土地ノ所在地ヲ管理スル地方廳」ハ大正十一年大藏省訓令第十八號第三條ノ部局ヲ指スモノト解スルヲ得ス

三　貴廳ニ於テ處理セラルヘキモノトス

●雜種財産引繼ニ關スル件

大正十一年三月十八日
藏第二八二二號内務大藏兩次官通牒
各地方長官宛

國有財産法ハ本年四月一日ヨリ實施可相成之カ實施ノ曉ニハ從來内務省所管有地トシテ取扱ヒ來レルモノヽ中雜種財産ニ屬スルモノハ總テ同法施行令第四十四條ニ依リ大藏省ニ引繼ヲ要スル儀ニ有之候處右官有地トシテ取扱ヒ來レルモノハ其ノ内容複雜ニシテ之カ區分ノ困難ナルモノモ可有旁特ニ左記各項ニ依リ之カ引繼ノ圓滿ト敏速トヲ期シ度候條所轄稅務監督局長ト御協議ノ上右趣旨ニ依リ御取扱相成候樣致度此段及通牒候也

記

一　國有財産法實施後遲滯ナク稅務監督局ヨリ相當ノ吏員ヲ地方廳ニ派遣シ引繼ニ關シ協力セシムルコト

二　地方廳ニ於テハ豫メ官有地臺帳ニ基キ其ノ雜種財産ニ屬スルモノト否ラサルモノトヲ區分標記シ尙其ノ雜種財産ニ屬スルヤ否ヤノ區分明ナラサルモノニ付テハ別ニ之ヲ標記シ置クコト

左記之通御了知相成度

記

一　内務省所管ノ雜種財産トハ北海道國有未開地處分法ニ依ルモノ、雜種財産中史蹟名勝天然紀念物トシテ指定セラレタルモノ又ハ公用財産ノ用途ヲ廢シタル場合ニ於テ國有財産法施行令第二條ニ依リ大藏大臣ト協議ノ上引繼ヲナササルモノ等ニシテ堤塘溝渠及公園ニシテ國カ公共ノ用ニ供シタルモノハ其ノ維持管理ノ費用ヲ縱令公共團體ニ於テ負擔スルモ公共用財産トシテ取扱フヘキモノニ有之候

二　國有財産中公共團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スルモノトハ公共團體カ雜種財産タル國有財産ヲ借入レ自己カ主體トナリテ直接公共ノ用ニ供スル設備ニ使用スルモノヲ稱スル次第ニ有之候

三　雜種財産以外ニハ國有財産ヲ貸付スル能ハス從テ堤塘溝渠公園等ニシテ公共ノ用ニ供セラレタル財産ハ其目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ使用收益セシムルハ格別貸付スルコト不能次第ニ有之候

三　右ノ標記ニヨリ地方廳吏員及稅務監督局吏員協同シテ先ツ雜種財産ト認ムヘキモノヲ謄寫シ郡市每ノ整理地目別集計ヲ附シ之カ引繼ヲ爲スコト

四　右引繼ニ當リテハ其ノ財産ニ關スル諸帳簿、圖面書類等事務取扱上必要ナル一切ノ關係文書又ハ其ノ謄本ヲモ之ニ添附シ引繼目錄ヲ調製スルコト

五　雜種財産ニ屬スルヤ否ヤノ區分明ナラサルモノニ付テハ前三項ニ準シ假リニ之カ引繼ヲ爲スコト

六　前項ニ依リ假リニ引繼ヲ爲シタル財産ニ付テハ稅務監督局ニ於テ之ヲ調査シ其ノ結果ヲ地方廳ニ通知スヘキヲ以テ其ノ雜種財産ニ屬スルモノニ付テハ初ヨリ引繼ヲ爲シタルモノトシ其ノ他ハ初メヨリ引繼ヲ爲ササルモノトシテ取扱フコト

七　雜種財産ニ屬セサルモノトシテ引繼ヲ爲ササルモノノ中地方廳ニ於テ調査ノ結果雜種財産タルモノヲ發見シタルトキハ發見當時ノ日附ヲ以テ之カ引繼ヲ爲スコト

●國有財産取扱ニ關スル件

大正十一年七月二十八日
庶第二〇號會計課長回答

鹿兒島縣知事照會（大正十一年七月十日十一土第二七九號）

國有財産取扱ニ關スル件照會

國有財産法施行令第四十四條ニ依ルトキハ雜種財産ハ總テ大藏大臣ヘ引繼クヘキモノト解セラレ候處月九日御省訓令第十號ヲ以テ發布相成候内務省所管國有財産取扱規程ニ依

レハ内務省ニ於テモ依然雜種財產ヲ管理スルコトヲ得ルモノノ如ク被認候ニ付テハ右雜種財產トハ國ニ於テ所有スル公共用財產中堤塘溝渠及公園等ノ如キヲ指稱スル義ニ有之候哉且又國自體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スル經營ヲ爲ササルモノニシテ地方公共團體カ公共ノ用ニ供スル官有土地水面ハ國有財產法第二條第一號ニ該當セサル義ニ候哉尙又同規程第八條ニハ貸付ノ場合規定セラレ居ルモ堤塘溝渠公園ノ如キハ公用トシテ處分スヘキモノト存候就テハ右貸付ハ如何ナル土地ヲ處分セラルル場合ニ可然哉目下差掛リタル件有之候條至急何分ノ御意見承知致度

●公共用財產用途廢止ニ關スル件

大正十一年六月二十一日
內務省訓令第十一號

公共用財產中河川法ノ規定ニ依ラサル河川、水流、水面ニシテ河川法ニ依ル河川ニ關スル工事ノ爲不用ニ歸スルモノノ用途廢止ニ付テハ部局長タル北海道廳長官及府縣知事ハ稅務監督局長ニ通知ヲ發スル前其ノ用途廢止ノ事由ヲ記シタル書類ニ圖面ヲ添附シ豫メ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

●國有土地水面ヲ耕地整理地區ニ編入ノ件

〔大阪土〕

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

●國有地ヲ耕地整理施行地區ヘ編入取扱ノ件

大正十一年七月二十六日
發土第六七號內務次官通牒
各地方長官宛

大正十一年七月二十五日訓令第十五號ヲ以テ國有地ヲ耕地整理施行地區ニ編入ノ認許ニ關スル件訓令相成候處耕地整理法

大正十一年七月二十五日
內務省訓令第十五號

改正　大正一三年一〇月內務省訓令第一三號

當省所管ノ國有土地水面ヲ耕地整理法ニ依リ耕地整理地區ニ編入ノ認許申請アリタル場合ニ於テ左ニ揭ケタルモノニ該當スルトキハ本大臣ニ稟請シ其ノ他ハ其ノ廳限リ處分スヘシ

一　（十三年十月一日內務省訓令第一號削除）
二　（同　上）
三　國ニ於テ改修工事ヲ施行スル河川ニ關係アルモノ
四　前號ノ外河川法ヲ施行シタル河川若ハ流域二府縣以上ニ跨ル河川ニ關係アルモノ但シ耕地整理地區ニ編入ノ結果施行スヘキ工事ニシテ道府縣廳限リ處分シ得ヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

●國有土地水面ヲ耕地整理地區ニ編入ノ件

〔大阪土〕

ニ依リ河川堤塘溝渠其ノ他公共ノ用ニ供スル土地ヲ耕地整理施行地區ニ編入シ又ハ該地區內ニ之ヲ開設スル等ノ場合ニ於テ他ノ法律命令又ハ訓令等ニ依リ工事又ハ其ノ他ノ行爲ニシテ許可若ハ認可ヲ受クヘキモノハ總テ其ノ手續ヲ履行セラルヘキ筈ニ有之又河川法施行ノ河川及其ノ附屬物ノ敷地ハ私權ノ目的ト爲スコトヲ得サルヲ以テ耕地整理施行地區ニ編入スルコトヲ得サル義ニ候條右樣御承知相成度

●雜種財產ノ處分ニ關スル件

大正十一年八月二十二日
發會第三八三號會計課長通牒
各地方長官宛

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通リ大藏省ヘ照會致置候條處理上參考ノ爲及通牒候

雜種財產ノ處分ニ關スル件

國有財產法ノ施行ニ依リ雜種財產トシテ貴省ヘ引繼ヲ了シ候モノハ單ニ土地目錄面ニ依リタルモノモ可有之ニ付テハ中ニハ現ニ公共用ニ供シアルモノ若ハ現在公共用ニ供セラレサルモ將來道路、河川等ノ改修用地トシテ必要ナルモノ或ハ民有地ニ歸屬ノ結果新ニ堤防護岸等築設ノ必要ヲ生スルモノ等土木事業ニ重大ナル關係ヲ有スル箇所多々可有之ト存候ニ付地方費支辨ニ屬スル道路、河川等ノ附近地ヲ貴省ニ於テ御處分ノ際ハ事前ニ關係地方廳ヘ一應御協議相成樣致度

追而土地臺帳及附屬圖ノ何レニモ脫漏ノ土地ハ稀有ナルモ圖上相當ノ地積ヲ占ムルニ拘ハラス土地臺帳ニ登錄ナキ土地ニシテ偶々發見セラルル事實アリ是等ハ從來整理シ來リタル殘地ナレトモ公共用地、公用地ニ接續シタル是等土地ヲ新ニ貴省ニ於テ雜種財產トシテ御處分ノ際モ同樣ノ手續御取計相煩度候

●公共團體ノ管理スル公共用土地物件ノ使用ニ關スル法律

大正三年四月四日
法律第三十七號

第一條　公共團體ニ於テ管理スル道路、公園、堤塘、溝渠其ノ他公共ノ用ニ供スル土地物件ヲ濫ニ使用シ又ハ許可ノ條件ニ反シテ使用スル者ニ對シ管理者タル行政廳ハ地上物件ノ撤去其ノ他原狀回復ノ爲必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第二條　前條ノ場合ニ於テハ行政執行法第五條及第六條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●公共團體ノ管理スル公共用土地物件ノ使用ニ關スル件

昭和六年六月十五日
內務省東土第一三七號土木局長通牒
各地方長官宛

標記ノ件ニ關シ東京府知事ヨリノ照會（甲號）ニ對シ別紙（乙號）ノ通回答致候ニ付御了知相成度

（乙號）（昭和六年六月十五日
內務省東土第一三七號土木局長回答）

標記ノ件ニ關シ昭和五年五月二十一日附午河第二二四號ヲ以テ照會相成候處右ハ後段御見解ノ通ト存候

追而地盤ノ官有ニ屬スル公共水路ハ市町村其ノ他ノ公共團體ノ營造物ト認ムベキニ非ザルヲ以テ大正三年法律第三七號ノ規定ノ範圍外ト御了知相成度

（甲號）（昭和五年五月二十一日
午河第二二四號東京府知事照會）

大正三年四月法律第三十七號第一條ノ首メニハ公共團體ニ於テ管理スルトアリテ後ニハ管理者タル行政廳ト有之候處右行政廳トハ公共團體ヲ指稱スル義ナルヤ又ハ管理者タル公共團體ヲ統轄スル行政廳ヲ指稱スル法意ナルヤ若前段ノ通リトセハ地盤ノ國有ニ屬スル公共水路ニ對シテモ公共團體ニ本法執行ノ權能ヲ附與セラレタルモノト解シ可然哉或ハ公共團體ノ所有ニ屬スルモノノミニ本法ノ適用アル義ナルヤ差掛リタル事實有之候ニ付至急何分ノ御回示相成度

●外國人居留地ニ設定シタル地上權移轉ニ付地券記載方申請手續

明治三十四年二月十八日
大阪府令第十八號

第一條　外國人居留地ニ設定シタル地上權移轉ノ場合ニ於テ地券ニ記載ヲ受ケムトスル者ハ土地ノ表示當事者ノ氏名、國籍、住所、權利移轉ノ原因及其ノ年月日ヲ明記シ當事者雙方連署シ大阪府知事ニ申請スヘシ

第二條　前條ノ申請書ニハ權利ノ移轉ヲ證明スルニ足ルヘキ書類ノ添付ヲ要ス

第三條　外國ニ於テ權利ノ移轉ヲ爲シタルニ依リ地券ニ記載ヲ受ケムトスルトキハ該權利移轉ノ契約カ適法ニ行ハレタルコトヲ證シタル其ノ地駐在ノ帝國領事又ハ本國領事ノ證明書ヲ添付スルコトヲ要ス

第四條　遺產相續ニ因リ權利ノ移轉アリタル場合ニ於テ地券ニ記載ヲ受ケムトスルトキハ被相續人ノ死亡及遺產相續人タルコトヲ證シタル本國領事ノ證明書ノ添付ヲ要ス

遺贈ニ因リ權利ノ移轉アリタル場合ニ於テモ亦前項ヲ準用ス

第五條　國籍住所氏名ノ變更坪數ノ增減其他地券ニ記載ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ旨大阪府知事ニ屆出テ地券ノ更正ヲ受クヘシ

第六條　申請ヲ爲サムトスルトキハ申請人ハ自ラ出頭シテ之カ手續ヲ爲スヘシ若シ代理人出頭スルトキハ委任狀ヲ呈示スヘシ

第七條　申請書ハ普通ノ登記申請ノ文例ニ準シ調製スヘシ

附　則

第八條　明治三十二年勅令第二百五十一號ヲ以テ定メラレタル期日前ニ成立セシ權利移轉ノ契約ニシテ其ノ契約カ適法ニ行ハレタルコトヲ該期日前ニ外國領事廳ニ於テ地券ニ證明シタルモノアルトキハ權利者一方ノ署名ノミヲ以テ申請スルコトヲ得

第三章　港灣

●河川法ヲ施行若ハ準用セザル河川又ハ港灣ニ關スル件

大正十一年五月二十六日
內務省訓令第六號

改正　大正一五年二月內務省訓令第三號、昭和二年一一月第二三號、三年八月第一〇號、四年七月第一〇號、一二月第二二號、八年一月第一號、一〇年二月第一號、一一年一二月第一八號

道廳　府縣

第一條　河川法ヲ施行若ハ準用セサル河川ニ關スル事項ニシテ左ニ揭クルモノハ本大臣ノ認可ヲ受ケ處分スヘシ

一　河川ノ全部若ハ一部ニ付大體ニ渉ル一定ノ計劃ニ基キ施行スル改良工事ニシテ府縣費支辨ニ屬スルモノ

二　河川法ヲ施行若ハ準用スル河川ノ流域ニ屬スル河川ニ付流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物ノ新築改築又ハ除却ニシテ河川又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及ホスノ虞アルモノ

三　流域二府縣以上ニ跨ル河川ニ付他府縣ニ影響ヲ及ホスノ虞アル工事ニシテ關係府縣知事ノ協議調ハサルモノ

流域二府縣以上ニ跨ル河川ニ關スル事項ニシテ他府縣ニ影響ヲ及ホスノ虞アルモノハ關係府縣知事ニ協議ヲナスヘシ

第二條　港灣ニ關スル事項ニシテ左ニ揭クルモノハ本大臣ノ認可ヲ受ケ處分スヘシ

一　左ノ港灣ニ關スル新築、改築、除却工事但シ輕易ナル工事ニシテ豫メ禀伺省略ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

東京港、橫濱港、淸水港、名古屋港、四日市港、大阪港、神戸港、下關港、門司港、若松港（洞海灣ヲ含ム）、伊萬里港、長崎港、鹿兒島港、高松港、小松島港、今治港、那覇港、伏木港、境港、敦賀港、新潟港、土崎港、船川港、靑森港、鹽釜港（花淵港ヲ含ム）、小名濱港、細島港、大分港、浦戸港、宮古港、七尾港、尾ノ道港、博多港、舞鶴港、酒田港、三角港、宇野港、廣島港、和歌山港、八戸港、飾磨港、宇部港、唐津港、函館港、室蘭港、小樽港

二　前號港灣ノ外本大臣ノ指定スル港灣ニ關スル新築、改築、除却工事ニシテ其ノ港灣ノ利用ニ著シキ影響ヲ及ホスノ虞アルモノ

三　前各號以外ノ港灣ノ全部若ハ一部ニ付大體ニ渉ル一定ノ計劃ニ基キ施行スル改良工事

第三條　前條ノ港灣ニ關シ明治四年太政官布告第六百四十八號ニ依リ使用料ノ徵收ヲ許可セムトスルトキハ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　本大臣ノ指定スル以外ノ河川又ハ第二條ニ該當セサ

ル港灣ニ關スル費用ヲ府縣ノ支辨ト爲サムトスルトキハ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ支辨區域ヲ變更セムトスルトキ又ハ其ノ支辨ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第五條　河川法ヲ施行若ハ準用スル河川、水流若ハ水面ニ就キ府縣知事ニ於テ河川法第十七條若ハ第十八條ニ記載スル行爲ヲ爲サムトスルトキ又ハ同一ノ行爲ニ付行政廳ノ協議ニ應セムトスルトキハ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ大正十一年五月内務省令第十一號第一條又ハ第二條ニ依リ府縣知事限リ處分シ得ヘキ行爲ニ付キテハ此ノ限ニ在ラス

附　則

大正元年十一月　内務省訓令第二十五號ハ之ヲ廢止ス

●大正十一年五月内務省訓令第六號第二條第二號ニ依ル港灣指定ノ件（抄錄）

大正十一年五月二十七日
内務省告示第百三十一號

改正略

大正十一年五月内務省訓令第六號第二條第二號ニ依ル港灣左ノ通指定ス

大阪府　堺港、岸和田港、大津港

〔大阪土七〕

●重要港灣選定ノ件（抄錄）

明治四十年十月
港灣調査會決議

改正略

港灣調査會ノ審議ヲ經テ選定シタル重要港灣左ノ如シ

第二種重要港灣

名稱	選定年月
大阪港	明治四十年十月

●港灣區域決定ノ件（抄錄）

大正十二年八月二十三日
内務省告示第二百七十六號

改正略

大正十一年五月内務省訓令第六號第二條第一號ノ港灣竝同條第二號及公有水面埋立法施行令第三十二條第一項第四號ニ依リ内務大臣ノ指定スル港灣ノ區域左ノ通告示ス

道府縣　港灣　區域

大阪　大阪　神崎川口左岸ヨリ南西微南ニ引キタル一線ト大和川口左岸ヨリ正西ニ引キタル一線トニヨリテ圍マレタル區域

堺　石津川右岸端ヨリ大阪港南防波堤突端燈臺ニ引キタル一線ト大阪港南側港界線トニヨリテ圍マレタル區域

突堤ノ基點ヲ中心トシテ半海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

大津　大津川右岸先端ヲ中心トシテ二粁ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧ニヨリテ圍マレタル區域中同先端ヨリ正北ニ引キタル一線以東ノ區域

〔大阪土七〕

●府縣費支辨河川及港灣編入ニ關スル件（抄錄）

大正十四年七月八日
發土第二三號土木局長通牒

各府縣知事宛

河川法ヲ施行シ又ハ同法第二十四條第一項ノ規定ヲ準用シ若ハ大正十一年五月當省訓令第六號第四條ノ規定ニ依リ府縣費支辨河川及港灣編入方稟請ノ場合ニ於テハ爾今左記圖書類添附相成度

追テ大正八年九月八日發第二六四號通牒ハ自然消滅ノ義ト御承知相成度

記

府縣費支辨河川及港灣編入ニ關スル稟請ノ際添附スヘキ圖書類

河川	略ス
港灣	

一　現在府縣費支辨港灣及新ニ縣費支辨ニ編入セントスル港灣ノ位置ヲ色別セル管内圖

二　新ニ府縣費支辨港灣ニ編入セントスル區域ヲ明記セル陸地測量部發行二萬五千分一地形圖（陸地測量部發行二萬五千分一地形圖ナキ箇所ハ適當ナル圖面ヲ使用ノコト）

三　府縣費支辨港灣ニ編入セントスル詳細ナル理由書

四　現在府縣費支辨港灣ト新ニ府縣費支辨ニ編入セントスル港灣及權衡上將來府縣費支辨港灣ニ編入ノ必要アルヘキモノトノ比較ニ關スル調書

五　新ニ府縣費支辨港灣ニ編入スル結果增額スヘキ港灣ノ經費

六　新ニ府縣費支辨ニ編入セントスル港灣ニ關スル左記事項ノ調書

1　既往十ケ年間ニ於ケル各年度ノ維持修繕費及改築費

2　既往十ケ年間ニ於ケル各年ノ輸移出入貨物ノ總噸數及主要ナル貨物ノ種類噸數

3　既往十ケ年間ニ於ケル各年ノ出入船舶ノ種類、隻數

4　主要ナル輸移出入貨物ノ仕向地及仕出地

七　漁港ニアリテハ前各項ノ外既往五ケ年間ニ於ケル各年ノ漁獲物集散高

●河川港灣ニ關スル處分禀伺方ノ件

大正十一年五月三十日
發土第九七號土木局長通牒
各地方長官宛

今般當省訓令第六號ヲ以テ標記ノ件訓令相成候處

一　本訓令ニ依リ禀伺ノ上處分シタル事項ト雖左ニ掲クルモノハ貴官限處分相成可然候

イ　第一條又ハ第二條ニ依リ認可ヲ受ケタル事項ノ些少ノ變更ニシテ認可ノ趣旨ニ反セサルモノ

ロ　第一條第一項第三號ニ依リ認可ヲ受ケタル事項ノ變更ニシテ關係府縣知事ノ間ニ協議調ヒタルモノ

ハ　第三條ニ依リ認可ヲ受ケタル事項中使用料徴收期間ノ變更

ニ　許可ニ因リテ生シタル權利義務ノ移轉

二　河川堤防又ハ港灣ノ大體ニ渉ル改修計畫ニ基キ施工スル工事ヲ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ於テ許可若ハ承認シタルトキハ直ニ其ノ計畫圖書ヲ具シ御報告相成度

三　大正元年十二月十二日土第一三二四號ヲ以テ及通牒候事項ハ第二號ヲ除クノ外總テ從前ノ通ト御承知相成度

四　大正元年十一月内務省訓令第二十五號ニ依リ禀伺ノ上處分シタル事項ノ變更ニ付テハ總テ本通牒ノ趣旨ニ依リ御處理相成度

●河川道路港灣等ニ關スル處分禀伺ノ場合取扱方ノ件

大正元年十二月十二日
土第一三二四號土木局長通牒
各地方長官宛

客月十六日内務省訓令第二十五號ヲ以テ河川道路港灣運河等ニ關スル處分中禀伺ヲ要スル件訓令相成候處

一　本訓令ニ於テ河身、堤防又ハ港灣ニ關スル工事ト稱スルハ河川又ハ港灣ノ爲ニスルモノト他ノ目的ノ爲ニスルモノトヲ問ハス河身堤防又ハ港灣ニ關スル總テノ工事ヲ指示スル義ニ有之候

二　（自然消滅）

三　河川法ヲ施行スル河川ノ河身及堤防ニ關スル工事ノ禀伺書ニハ工事ノ位置、形界等ヲ同一尺度ヲ以テ示シタル河川臺帳圖寫御添附相成度

四　港灣ニ關スル工事ノ禀伺書ニハ工事ノ位置、形界等ヲ同一尺度ヲ以テ示シタル海軍海圖又ハ其ノ寫（海圖ノ番號ヲ記入セラレタシ）御添附相成度

五　道路ノ部參照

六　明治四年太政官布告第六百四十八號ニ依ル使用料ノ徴收ニ關シテハ從前ノ方針ニ依リ御取扱相成度

七　明治十八年二月内務省達丁第二號、明治十九年八月内務省訓令第十三號、明治二十年五月内務省訓令訓第四三三號中第十四號及第十五號、同年同月内務省訓令訓第四百三十四號、明治三十三年三月拓殖務省訓令第七十四號中第七號、明治三十年十二月内務省訓令訓第千百六號、明治三十八年三月内務省訓令第四號、明治三十八年三月内務省訓令第五號、明治二十一年四月通牒乙發第三十一號、明治三十一年二月通牒乙發第七號、明治三十九年一月通牒土甲第五十五號、明治三十九年六月通牒土甲第三十一號及明治三十九年六月通牒土甲第三十一號ノ内其ノ他本訓令ニ牴觸スル從前ノ通牒等ハ總テ消滅ニ歸シタル義ニ有之候

右依命及通牒候也

●港灣工事ニ因リ生スル不用土地工作物處分ノ件

大正九年四月一日
勅令第八十二號

第一條　國ニ於テ施行スル内國貿易設備ニ關スル港灣工事ニ因リ生スル土地又ハ工作物ハ公用又ハ公共ノ用ニ供スル爲國有トシテ存置スルノ必要アルモノヲ除クノ外内務大臣ハ其ノ工事ノ費用ノ一部ヲ負擔シタル公共團體ニ無償ニテ之ヲ下付スルコトヲ得

第二條　前條ノ土地又ハ工作物ニシテ公共ノ用ニ供スル爲國有トシテ存置スルモノハ内務大臣前條ノ公共團體ニ無償ニテ之ヲ貸付シ使用料ヲ徴收セシメ其ノ收入ニ歸セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●堺市三寶海岸堤防府費支辨編入ノ件

昭和十一年三月十一日
大阪府告示第二百四十一號

左記海岸堤防ノ區域ヲ府費支辨ニ編入ス

自堺市三寶古川尻右岸
至堺市三寶大和川尻左岸海岸堤防

●堺港域內船舶航行禁止ノ件

昭和十一年十二月十一日
大阪府令第百號

堺港修築防波堤工事施行ノ爲左記箇所ニ於ケル一般船舶ノ航行竝ニ碇泊ハ同工事竣功ノ期日ニ至ル迄之ヲ禁止ス

一、禁止區域(左記圖面參照)

イ、大和川尻左岸ヨリ西南千七百六米ト堺燈臺ヨリ西北二千八百八十三米トノ交點(東經百三十五度二十六分二十二秒北緯三十四度三十五分五十七秒三ノ地點)及大和川尻左岸ヨリ西南二千三百四十六米ト堺燈臺ヨリ西北千百七十米トノ交點(東經百三十五度二十六分五十四秒八、北緯三十四度三十四分五十七秒九ノ地點)ヲ結ブ直線二千百米ノ兩側各五十米ノ區域

ロ、大和川尻左岸西南二千五百三十六米ト堺燈臺ヨリ西南五百二十四米トノ交點(東經百三十五度二十七分二十二秒一北緯三十四度三十四分四十五秒六ノ地點)及大和川尻左岸東南二千四百六十三米ト堺燈臺ヨリ西南百九十八米トノ交點(東經百三十五度二十七分三十五秒四、北緯三十四度三十四分四十五秒六ノ地點)ヲ直線三百五十一米ノ兩側各五十米ノ區域

二、禁止區域ノ標識

イ、晝間ハ右各交點ニ水面上高約四米ノ木柱ニ赤旗ヲ揭揚ス

ロ、夜間ハ同各柱頭ニ赤色燈ヲ點ズ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●堺港域內船舶航行禁止區域當府作業船ノ標識ノ件

昭和十一年十二月十一日
大阪府告示第千二百四十五號

昭和十一年十二月十一日大阪府令第百號ニ依リ一般船舶ノ航行竝ニ碇泊ヲ禁止セル區域內ニ於ケル當府ノ作業船ハ晝間ハ大阪府ノ旗ヲ揭揚シ夜間ハ綠色燈ヲ點ズ

●航路標識條例

明治二十一年十月十一日
勅令第六十七號

第一條　航路標識條例ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲メ政府ニ於テ之ヲ設置スルモノトス

第二條　土地ノ形狀又ハ情況ニ由リテハ(地方稅)又ハ區町村費ヲ以テ航路標識ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ地方長官ニ於テ遞信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

從來私設ノ航路標識ハ免許年限間之ヲ繼續スルコトヲ得

遞信大臣ニ於テ前二項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト認メタルトキハ之ヲ變更又ハ撤去セシムルコトヲ得

政府ニ於テ直接管理ヲ必要トスルトキハ相當ノ價格ヲ以テ第一項第二項ノ航路標識ヲ買上ルコトヲ得

第三條　航路標識ヲ損壞シ又ハ移轉シ又ハ其ノ性質ヲ變更シ又ハ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲナシ又ハ遞信大臣ノ指定シタル區域內ニ於テ航路標識ノ燈火若クハ警號ト誤認シ易キ所爲ヲ爲シタル者ハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條　航路標識ニ船筏其ノ他ノ物ヲ繫キ又ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四章　水面

●公有水面埋立法

大正十年四月九日
法律第五十七號

第一條　本法ニ於テ公有水面ト稱スルハ河、海、湖、沼其ノ他ノ公共ノ用ニ供スル水流又ハ水面ニシテ國ノ所有ニ屬スルモノヲ謂ヒ埋立ト稱スルハ公有水面ノ埋立ヲ謂フ

公有水面ノ干拓ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ埋立ト看做ス

本法ハ耕地整理法ニ依ル溝渠又ハ溜池ノ變更ノ爲必要ナル埋立其ノ他勅令ヲ以テ指定スル埋立ニ付之ヲ適用セス

第二條　埋立ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ免許ヲ受クヘシ

第三條　前條ノ免許ハ地方長官期間ヲ指定シテ地元市町村會ノ意見ヲ徵シ之ヲ爲スヘシ

第四條　地方長官ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者アルトキハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外埋立ノ免許ヲ爲スコトヲ得ス

一　其ノ公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者埋立ニ同意シタルトキ

二　其ノ埋立ニ因リテ生スル利益ノ程度カ損害ノ程度ヲ著シク超過スルトキ

三　其ノ埋立カ法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ爲必要ナルトキ

第五條　前條ニ於テ公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一　法令ニ依リ公有水面占用ノ許可ヲ受ケタル者

二　漁業權者又ハ入漁權者

三　法令ニ依リ公有水面ヨリ引水ヲ爲シ又ハ公有水面ニ排水ヲ爲ス許可ヲ受ケタル者

四　慣習ニ依リ公有水面ヨリ引水ヲ爲シ又ハ公有水面ニ排水ヲ爲ス者

第六條　埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第四條ノ權利ヲ有スル者ニ對シ其ノ損害ノ補償ヲ爲シ又ハ其ノ損害ノ防止ノ施設ヲ爲スヘシ

漁業權者及入漁權者ノ前項ノ規定ニ依ル補償ヲ受クル權利ハ共同シテ之ヲ有スルモノトス

第一項ノ補償又ハ施設ニ關シ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ地方長官ノ裁定ヲ求ムヘシ

第七條　前條ノ規定ニ依リ漁業權者ニ對シ損害ノ補償ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其ノ漁業權カ登錄シタル先取特權又ハ抵當權ノ目的タルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ補償ノ

金額ヲ供託スヘシ但シ先取特權者又ハ抵當權者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ付存スル漁業權又ハ入漁權カ訴訟ノ目的タル爲訴訟當事者ヨリ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

登錄シタル先取特權若ハ抵當權ヲ有スル者又ハ訴訟當事者ハ前二項ノ規定ニ依ル供託金ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第八條　埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ第六條ノ規定ニ依リ損害ノ補償ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其ノ補償ヲ爲シ又ハ前條ノ規定ニ依ル供託ヲ爲シタル後ニ非サレハ第四條ノ權利ヲ有スル者ニ損害ヲ生スヘキ工事ニ著手スルコトヲ得ス但シ其ノ權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得タルトキ又ハ地方長官ノ裁定シタル補償ノ金額ヲ供託シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ第六條ノ規定ニ依リ損害防止ノ施設ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其ノ施設ヲ爲シタル後ニ非サレハ第四條ノ權利ヲ有スル者ニ損害ヲ生スヘキ工事ニ著手スルコトヲ得ス但シ其ノ權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　第六條ノ規定ニ依リ損害ノ補償ヲ爲スヘキ漁業權ヲ目的トスル先取特權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ前條第一項但書ノ規定ニ依ル供託金ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第十條　公有水面ノ利用ニ關シテ爲シタル施設カ埋立ノ爲其ノ效用ヲ妨ケラルルトキハ地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ヲシテ其ノ施設ヲ爲シタル者ニ對シ之ニ代ルヘキ施設若ハ其ノ效用ヲ保全スル爲必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ損害ノ全部若ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

第十一條　地方長官埋立ヲ免許シタルトキハ其ノ免許ノ日及其ノ事件ノ要領ヲ告示スヘシ

第十二條　地方長官ハ埋立ニ付免許料ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ免許料ノ徵收及歸屬ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條　埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ關スル工事ノ著手及工事ノ竣功ヲ地方長官ノ指定スル期間内ニ爲スヘシ

地方長官正當ノ事由アリト認ムルトキハ前項ノ期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

第十四條　埋立ノ免許ヲ受ケタル者埋立ニ關スル測量又ハ工事ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケ他人ノ土地ニ立入リ又ハ其ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ

得

前項ノ規定ニ依ル立入又ハ使用ヲ爲サムトスル者ハ其ノ日時及場所ヲ少クトモ五日前ニ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

市町村長前項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨土地ノ占有者ニ通知スヘシ通知スルコト能ハサルトキハ告示スヘシ

前三項ノ規定ハ埋立ノ免許ヲ受ケムトスル者ニ關シ之ヲ準用ス

第十五條　前條ノ規定ニ依ル立入又ハ使用ニ因リテ生シタル損害ハ其ノ立入又ハ使用ヲ爲シタル者之ヲ補償スヘシ

第十六條　埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ埋立ヲ爲ス權利ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受ケタル者ハ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ依リ讓渡人ニ生シタル權利義務ヲ承繼ス但シ第六條第一項、第十條又ハ前條ノ規定ニ依ル義務ハ讓渡人及讓受人連帶シテ之ヲ負フ

第十七條　埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ相續人ハ其ノ被相續人ノ有シタル埋立ヲ爲ス權利ヲ承繼ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　埋立ヲ爲ス會社ノ發起人カ會社成立ノ後ニ於テ會社ノ爲埋立ニ付免許ヲ受ケタル場合ニ於テ會社成立シタルトキハ埋立ヲ爲ス權利其ノ他ノ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ依リ生シタル權利義務ハ會社之ヲ承繼ス

第十九條　埋立ノ免許ヲ受ケタル會社合併ニ因リテ消滅シタルトキハ埋立ヲ爲ス權利其ノ他ノ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ依リ生シタル權利義務ハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ成立シタル會社之ヲ承繼ス

第二十條　前三條ノ規定ニ依リ權利義務ヲ承繼シタル者ハ其ノ承繼ノ日ヨリ起算シ十四日内ニ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十一條　第十六條乃至第十九條ノ規定ニ依ル權利義務ノ承繼アリタル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ其ノ權利義務ヲ承繼シタル者ヲ以テ埋立ノ免許ヲ受ケタル者トス

第二十二條　埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ關スル工事竣功シタルトキハ遲滯ナク地方長官ニ竣功認可ヲ申請スヘシ

第二十三條　埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ前條ノ竣功認可前ニ於テ埋立地ヲ使用スルコトヲ得但シ埋立地ニ埋立ニ關スル

工事用ニ非サル工作物ヲ設置セムトスルトキハ命令ヲ以テ指定スル場合ヲ除クノ外地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條　第二十二條ノ竣功認可アリタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ竣功認可ノ日ニ於テ埋立地ノ所有權ヲ取得ス但シ公用又ハ公共ノ用ニ供スル爲必要ナル埋立地ニシテ埋立ノ免許條件ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ埋立地ノ歸屬ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條　公共ノ用ニ供スル國有地ニシテ埋立ニ關スル工事ノ施行ニ因リ不用ニ歸シタルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ有償又ハ無償ニテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ下付スルコトヲ得

第二十六條　前二條ノ規定ハ耕地整理法第十一條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第二十七條　埋立地ニ關スル權利ノ設定又ハ讓渡ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項但書ノ埋立地ノ歸屬ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムル

第二十八條　前條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立地ニ關スル權利ノ設定又ハ讓渡ニシテ同條第一項ノ許可ヲ受クヘキモノハ其ノ許可ヲ受クルニ非サレハ效力ヲ生セス

第二十九條　前條ノ許可ヲ受ケ權利ヲ取得シタル者ヲ除クノ外第二十七條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立地ニ關スル權利ヲ取得シタル者ハ其ノ取得ノ日ヨリ起算シ十四日內ニ地方長官ニ屆出ツヘシ

第三十條　地方長官ハ前二條ノ埋立地ニ關スル權利ヲ取得シタル者ニ對シ埋立ノ免許條件ノ範圍內ニ於テ義務ヲ命スルコトヲ得

第三十一條　第八條第一項ノ規定ニ依リ埋立ニ關スル工事ニ著手スルコトヲ得ル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ工事ノ施行區域內ニ於ケル公有水面ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ノ除却ヲ其ノ所有者ニ命スルコトヲ得

第三十二條　左ニ揭クル場合ニ於テハ埋立ニ關スル工事竣功

不動產登記法第百二十九條ノ規定ハ前項ノ登記ニ付之ヲ準用ス

地方長官登記シタル處分ノ制限ノ全部又ハ一部ヲ解除シタルトキハ遲滯ナク其ノ登記ノ抹消又ハ變更ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第二十八條　前條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立地ニ關スル權利ノ設定又ハ讓渡ニシテ同條第一項ノ許可ヲ受クヘキモノハ其ノ許可ヲ受クルニ非サレハ效力ヲ生セス

第二十九條　前條ノ許可ヲ受ケ權利ヲ取得シタル者ヲ除クノ外第二十七條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立地ニ關スル權利ヲ取得シタル者ハ其ノ取得ノ日ヨリ起算シ十四日內ニ地方長官ニ屆出ツヘシ

第三十條　地方長官ハ前二條ノ埋立地ニ關スル權利ヲ取得シタル者ニ對シ埋立ノ免許條件ノ範圍內ニ於テ義務ヲ命スルコトヲ得

第三十一條　第八條第一項ノ規定ニ依リ埋立ニ關スル工事ニ著手スルコトヲ得ル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ工事ノ施行區域內ニ於ケル公有水面ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ノ除却ヲ其ノ所有者ニ命スルコトヲ得

第三十二條　左ニ揭クル場合ニ於テハ埋立ニ關スル工事竣功

認可前ニ限リ地方長官ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ其ノ爲シタル免許其ノ他ノ處分ヲ取消シ其ノ效力ヲ制限シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ、埋立ニ關スル工事ノ施行區域內ニ於ケル公有水面ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ヲ改築若ハ除却セシメ、損害ヲ防止スル爲必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ原狀回復ヲ爲サシムルコトヲ得

一　埋立ニ關スル法令ノ規定又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ

二　埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シタルトキ

三　詐欺ノ手段ヲ以テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ヲ受ケタルトキ

四　埋立ニ關スル工事施行ノ方法公害ヲ生スルノ虞アルトキ

五　公有水面ノ狀況ノ變更ニ因リ必要ヲ生シタルトキ

六　公害ヲ除却シ又ハ輕減スル爲必要ナルトキ

七　前號ノ場合ヲ除クノ外法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ爲必要ナルトキ

前項第七號ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方長官ハ同號ノ事業ヲ爲ス者ヲシテ損害ノ全部又ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

第三十三條　埋立ニ關スル工事竣功認可後埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件又ハ第三十條ノ規定ニ依リ命スル義務ニ違反スル者アルトキハ地方長官ハ其ノ違反ニ因リテ生シタル事實ヲ更正セシメ又ハ其ノ違反ニ因リテ生スル損害ヲ防止スル爲必要ナル施設ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十四條　左ニ揭クル場合ニ於テハ埋立ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ但シ地方長官ハ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ效力ヲ失ヒタル日ヨリ起算シ三月內ニ限リ其ノ效力ヲ復活セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ埋立ノ免許ハ始ヨリ其ノ效力ヲ失ハサリシモノト看做ス

一　免許條件ニ依リ埋立ニ關スル工事ノ實施設計認可ノ申請ヲ要スル場合ニ於テ申請ニ對シ不認可ノ處分アリタルトキ又ハ免許條件ニ於テ指定スル期間內ニ申請ヲ爲ササルトキ

二　第十三條ノ期間內ニ埋立ニ關スル工事ノ著手又ハ工事ノ竣功ヲ爲ササルトキ

前項但書ノ規定ニ依リ免許ノ效力ヲ復活セシメタル場合ニ於テハ地方長官ハ免許條件ヲ變更スルコトヲ得

第三十五條　埋立ノ免許ノ效力消滅シタル場合ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ヲ原狀ニ回復スヘシ但シ地方長官ハ原狀回復ノ必要ナシト認ムルモノ又ハ原狀回復ヲ爲スコト能ハスト認ムルモノニ付埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ申請アルトキ又ハ催告ヲ爲スニ拘ラス其ノ申請ナキトキハ原狀回復ノ義務ヲ免除スルコトヲ得

前項但書ノ義務ヲ免除シタル場合ニ於テハ地方長官ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ存スル土砂其ノ他ノ物件ヲ無償ニテ國ノ所有ニ屬セシムルコトヲ得

第三十六條　第三十二條第一項及前條ノ規定ハ埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者ニ關シ之ヲ準用ス

埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者アル場合ニ於テ地方長官原狀回復ノ必要ナシト認ムルトキハ埋立ノ追認ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ追認ノ日ニ於テ埋立ノ免許アリタルモノト看做ス

埋立ノ免許ニ關スル規定ハ前項ノ埋立ノ追認ニ關シ之ヲ準用ス

第三十七條　地方長官第六條第三項ノ裁定ヲ爲シ又ハ第十條若ハ第三十二條第二項ノ規定ニ依ル補償ヲ爲サシムル場合ニ於テ鑑定人ノ意見ヲ聞キタルトキハ其ノ鑑定ニ要スル費用ハ第三十二條第二項ノ場合ニ於テハ同項ノ事業ヲ爲ス者、其ノ他ノ場合ニ於テハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第三十八條　第十二條ノ免許料ニシテ國ニ歸屬スルモノ及前條ノ鑑定ニ要スル費用ハ地方長官國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第三十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者

二　詐欺ノ手段ヲ以テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ヲ受ケタル者

三　埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シ公有水面ノ公共ノ利用ヲ妨害シタル者

第四十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二十三條但書ノ規定ニ違反シ工作物ヲ設置シタル者

二　第二十七條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立地ニ於テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シ

工事ヲ爲シタル者

三　第三十條ノ規定ニ依リ命スル義務ニ違反シ埋立地ニ於テ工事ヲ爲シタル者

第四十一條　第二十條又ハ第二十九條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十二條　國ニ於テ埋立ヲ爲サムトスルトキハ當該官廳地方長官ノ承認ヲ受クヘシ

埋立ニ關スル工事竣功シタルトキハ當該官廳直ニ地方長官ニ之ヲ通知スヘシ

第三條乃至第十一條、第十四條、第十五條、第三十一條、第三十七條及第四十四條ノ規定ハ第一項ノ埋立ニ關シ之ヲ準用ス但シ第十四條ノ規定ノ準用ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受クヘキ場合ニ於テハ之ニ代ヘ地方長官ニ通知スヘシ

第四十三條　地方長官ハ公共ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國ニ於テ埋立ヲ爲シタル埋立地ノ一部ヲ公共團體ニ歸屬セシムルコトヲ得

第四十四條　第六條第三項ノ規定ニ依ル補償ノ裁定ニ不服アル者ハ其ノ裁定書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ起算シ六月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第四十五條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十六條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十七條　本法ニ依リ地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

第四十八條　本法ニ依リ地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輕易ナルモノニ限リ下級行政廳ニ之ヲ委任スルコトヲ得

第四十九條　本法中市會又ハ市長ニ關スル規定ハ北海道區制又ハ沖繩縣區制ニ依ル區ニ付テハ區會又ハ區長ニ關シ之ヲ適用ス

本法中町村會又ハ町村長ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ付テハ町村會又ハ町村長ニ準スルモノニ關シ之ヲ適用ス

第五十條　本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公有水面ノ一部ヲ區

劃シ永久的設備ヲ築造スル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年勅令第百九十三號ヲ以テ同年四月十日ヨリ施行）

本法施行前爲シタル處分及之ニ附シタル條件ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ牴觸セサル限リ本法ニ依リ爲シタル處分及之ニ附シタル條件ト看做ス但シ地方長官ハ公益上必要アリト認ムルトキハ本法施行ノ日ヨリ起算シ三月内ニ限リ第三十二條ノ規定ニ拘ラス處分ニ附シタル條件ヲ變更シ又ハ處分ニ條件ヲ附スルコトヲ得

地方長官ニ對スル申請其ノ他ノ埋立ニ關スル手續ニシテ本法施行前爲シタルモノハ本法ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

●公有水面埋立法施行令

大正十一年四月八日
勅令第百九十四號

改正　大正一五年九月勅令第三〇八號

第一條　公有水面埋立法第一條第三項ノ規定ニ依リ左ノ通指定ス

都市計畫法第十二條ノ土地區劃整理トシテ施行スル溝渠又ハ溜池ノ變更ノ爲必要ナル埋立

第二條　埋立ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ地方長官ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テ埋立ニ關スル工事ノ施行區域カ數府縣ニ亙ルトキハ關係地方長官宛ニテ同一願書ヲ各地方長官ニ提出スヘシ

一　出願人ノ住所職業及氏名尙埋立ヲ爲ス會社ノ發起人カ會社ノ爲ス埋立ニ付出願ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

二　埋立ノ場所及其ノ面積

三　埋立ノ目的

四　埋立ニ關スル工事ノ著手及竣功ニ付指定ヲ受ケムトスル期間尙埋立ニ關スル工事ノ施行區域ヲ分割シ各區域ニ付異ル竣功期間ノ指定ヲ受ケムトスルトキハ其ノ區分及事由ヲ記載スヘシ

前項ノ願書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一　埋立ニ關スル工事ノ計畫說明書

二　埋立ニ關スル費用ノ明細書

三　公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ同意ヲ證スル書面、其ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由書

四　公有水面ノ利用ニ關シテ爲シタル施設ニシテ埋立ノ爲其ノ效用ヲ妨ケラルヘキモノアルトキハ其ノ施設ノ種類及其ノ施設ヲ爲シタル者ヲ記載シタル書面

五　一般平面圖、實測平面圖、求積平面圖、縱斷面圖、橫斷面圖及工作物構造圖但シ埋立ニ關スル工事簡易ナル場合ニ於テハ縱斷面圖、橫斷面圖及工作物構造圖ハ之ヲ省略スルコトヲ得

六　海面ノ埋立ニ在リテハ前各號ニ揭クルモノノ外埋立ニ關スル工事ノ施行區域ヲ記載シタル海軍海圖又ハ其ノ謄寫圖二通

第三條　埋立出願人ハ出願名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得其ノ變更ハ屆書ニ新出願人ニ關スル前條第一項第一號ニ揭クル事項ヲ記載シ新舊出願人ヨリ連名ニテ地方長官ニ之ヲ屆出ツルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

出願人死亡シタルトキハ其ノ相續人ハ被相續人ノ出願ヲ承繼スルコトヲ得其ノ承繼ハ相續人ヨリ屆書ニ其ノ住所、職業及氏名ヲ記載シ相續開始ノ日ヨリ起算シ三月以内ニ地方長官ニ之ヲ屆出ツルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

數人ノ相續人前項ニ規定スル承繼ノ屆出ヲ爲シタルトキハ之ヲ共同出願人トス

第二項ノ規定ハ埋立ヲ爲ス會社カ其ノ發起人ノ爲シタル出願ヲ承繼スル場合又ハ會社ノ合併ノ場合ニ於テ合併後存續スル會社若ハ合併ニ因リテ成立シタル會社カ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ出願ヲ承繼スル場合ニ之ヲ準用ス但シ相續開始ノ日トアルハ設立又ハ合併ノ登記ノ日トス

第四條　地方長官ハ埋立區域ヲ制限シテ其ノ出願ヲ免許スルコトヲ得

第五條ノ場合ニ於テ埋立區域ヲ制限シ二以上ノ埋立ヲ併立セシメ得ルトキ亦前項ニ同シ

第五條　同一區域ニ亙ル埋立ノ出願ニシテ免許シ得ヘキモノ數件アルトキハ公益上及經濟上ノ價値最モ大ナルモノヲ免許スヘシ

前項ノ事情ニ優劣ナキトキハ先ツ沿岸土地所有者ノ出願ニ係ル埋立ニシテ其ノ土地ノ利用ニ著シキ關係アルモノ、次ニ出願受理ノ日先ナルモノヲ免許スヘシ

前二項ノ規定ハ先願ヲ受理シタル日ヨリ起算シ六月ヲ經過シ又ハ地元市町村會ニ諮問ヲ發シタル後ニ受理シタル出願ニ付テハ之ヲ適用セス

第六條　地方長官埋立ノ免許ヲ爲サムトスルトキハ第二條第一項第一號乃至第三號ニ揭クル事項及埋立ニ關スル工事ノ計畫ノ要領ヲ具シ三月以内ノ期間ヲ指定シテ地元市町村會ノ意見ヲ徵スヘシ

第七條　地方長官ハ埋立ニ關スル法令ニ規定スルモノノ外埋立ノ免許ニ公益上又ハ利害關係人ノ保護ニ關シ必要ト認ムル

ル條件ヲ附スルコトヲ得

第八條　公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ハ同法第十一條ノ規定ニ依ル告示アリタル後爲シタル公有水面ノ利用ニ關スル施設ニ付テハ埋立ニ因リテ生スル損害ノ防止ノ施設又ハ其ノ損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケテ爲シタル施設ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條　埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ノ受クヘキ損害ニシテ防止スルコトヲ得ルモノニ付テハ其ノ損害ノ防止ノ施設ヲ爲スヘシ但シ當事者間ニ於テ協議調ヒタルトキ又ハ其ノ施設ノ費用カ損害ノ程度ヲ著シク超過スルモノナルトキハ損害ノ補償ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ノ受クヘキ損害ニシテ前項ノ施設ニ依リ防止スルコト能ハサルモノニ付テハ其ノ損害ノ補償ヲ爲スヘシ前項ノ施設ヲ爲スモ尙損害アル場合ニ於テ其ノ損害ニ付亦同シ

前二項ノ施設又ハ補償ハ埋立ニ因リ通常生スヘキ損害ニ付テノミ之ヲ爲スヘシ

第十條　埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ前條ノ施設又ハ補償ニ關シ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ト協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ヒタルトキハ當事者ハ連名ニテ協議調ヒタル日ヨリ起算シ十四日以内ニ其ノ顚末ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第十一條　前條ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ地方長官ニ對シ裁定ノ申請ヲ爲スヘシ

裁定ノ申請書ニハ申請ノ目的及事由ヲ記載シ協議調ハサルトキハ其ノ顚末書、協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ添附スヘシ

第十二條　地方長官ハ前條ノ申請ヲ受理シタルトキハ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ニ對シ申請ノ要領及指定スル期間内ニ意見書ヲ差出スヘキ旨ヲ告知スヘシ但シ告知スルコト能ハサル場合ニ於テハ告示ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

前項ノ期間内ニ意見書ヲ差出ササルトキハ地方長官ハ之ヲ俟タスシテ裁定ヲ爲スコトヲ得

第十三條　地方長官ハ裁定ヲ爲シタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者及公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ニ裁定書ノ謄本ヲ交付スヘシ但シ裁定書ノ謄本ヲ交付スルコト能ハサルトキハ其ノ要領ノ告示ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十四條　第八條及第九條第一項第二項ノ規定ハ埋立ノ免許

ヲ受ケタル者ヲシテ公有水面埋立法第十條ノ規定ニ依ル施設又ハ補償ヲ爲サシムル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　公有水面埋立法第十條ノ規定ニ依ル施設又ハ補償ヲ求メムトスル者ハ其ノ目的及事由ヲ具シ地方長官ニ同條ノ規定ニ依ル處分ノ申請ヲ爲スヘシ

地方長官ハ前項ノ申請ヲ受理シタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ申請ノ要領及指定スル期間内ニ意見書ヲ差出スヘキ旨ヲ告知スヘシ

前項ノ期間内ニ意見書ヲ差出ササルトキハ地方長官ハ之ヲ俟タスシテ處分ヲ爲スコトヲ得

地方長官ハ申請ヲ理由アリト認メタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ相當ノ期間ヲ指定シテ施設又ハ補償ヲ命シ且申請者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

地方長官ハ第一項ノ申請ナキ場合ト雖必要アリト認ムルトキハ前三項ノ規定ニ準シ施設又ハ補償ヲ命スルコトヲ得

第十六條　地方長官ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ歸屬スヘキ埋立地ノ價額ノ百分ノ三ヲ埋立ノ免許料トシテ徵收スヘシ

埋立地ノ價額ハ埋立ノ免許ノ日ヲ標準トシ比隣ノ土地ノ價格ヲ參酌シテ地方長官之ヲ認定ス

第十七條　公共團體ノ爲ス埋立、祭祀宗教慈善學術技藝其ノ他ノ公益事業ニシテ營利ヲ目的トセサルモノノ用ニ供スル目的ヲ以テ爲ス埋立又ハ土地ノ農業上ノ利用ヲ增進スル目的ヲ以テ爲ス埋立ニ付テハ免許料ヲ徵收スルコトヲ得ス

公共團體ノ爲ス埋立ヲ除クノ外埋立竣功認可後十年以内ニ其ノ埋立地ノ利用方法ヲ變更シタルトキハ前條ノ例ニ依リ免許料ヲ徵收ス但シ埋立地ノ價額ニ付テハ其ノ利用方法變更ノ日ヲ標準トス

前項ニ規定スル埋立地利用方法ノ變更ヲ爲シタル者ハ遲滯ナク地方長官ニ之ヲ屆出ツヘシ

第十八條　免許料ハ國庫ノ收入トス但シ地方公共團體カ修築又ハ維持ノ費用ヲ現ニ支出シ又ハ支出シタル河川、港灣其ノ他ノ公有水面ノ埋立ニ付テハ地方長官ハ其ノ免許料ノ全部又ハ一部ヲ其ノ地方公共團體ニ歸屬セシムルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ免許料ヲ歸屬セシムル地方公共團體及其ノ歸屬ノ割合ハ地方長官之ヲ定メ且其ノ地方公共團體及埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第十九條　免許料ハ埋立ノ免許ノ日ヨリ起算シ一月以内ニ之ヲ納付スヘシ但シ其ノ半額ニ付テハ地方長官ハ竣功期間内ニ於テ其ノ定ムル期限迄ニ之ヲ納付セシムルコトヲ得

免許料ノ額及前項但書ノ規定ニ依ル納付期限ハ免許條件ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十七條第二項ノ規定ニ依リ免許料ヲ徵收スル場合ニ於テハ地方長官ハ免許料ノ額及納付期限ヲ定メ之ヲ告知スヘシ

第二十條　埋立ノ免許ヲ受ケタル者埋立ニ關スル工事ノ著手又ハ竣功ヲ爲スヘキ期間ノ伸長ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由及伸長ノ期間ヲ具シ期間滿了ノ日ヨリ起算シ少クトモ二週間前ニ之ヲ申請スヘシ

第二十一條　公有水面埋立法第十四條ノ規定ニ依ル立入ハ邸內ニ付テハ日出前日沒後ハ占有者ノ意ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條　公有水面埋立法第十四條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスルトキハ立入又ハ使用ヲ爲スヘキ土地ノ所在、區域及現況、所有者及占有者ノ住所及氏名竝立入又ハ使用ノ目的、時期及期間ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ地方長官ニ出願スヘシ

第二十三條　公有水面埋立法第十四條第三項ノ規定又ハ同項ノ規定ノ準用ニ依ル通知又ハ告示ハ少クトモ三日前ニ之ヲ爲スヘシ

第二十四條　公有水面埋立法第十六條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ願書ニ埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受クル者ニ關スル第二條第一項第一號ニ揭クル事項ヲ記載シ埋立ノ免許ヲ受ケタル者及埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受クル者ヨリ連名ニテ出願スヘシ

地方長官ハ公有水面埋立法第十六條ノ許可ヲ爲シ又ハ同法第二十條ノ規定ニ依ル屆出ヲ受理シタルトキハ埋立ヲ爲ス權利ノ讓渡又ハ承繼アリタルコト及埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受ケタル者又ハ承繼シタル者ニ關スル第二條第一項第一號ニ揭クル事項ヲ告示スヘシ

第二十五條　竣功認可ノ申請書ニハ實測平面圖及求積平面圖ヲ添附スヘシ

第二十六條　公有水面埋立法第二十三條ノ規定ニ依リ左ノ通指定ス

一　耕地整理法ニ依リ施行スル工作物ノ設置

二　開墾助成法ニ依リ助成金ヲ受ケテ施行スル埋立ニ係ル土地ノ利用ニ關シ必要ナル工作物ノ設置

三　簡易ナル一時的工作物ノ設置

第二十七條　公有水面埋立法第二十四條第一項但書ノ埋立地ハ國ニ於テ必要ナルモノヲ除クノ外公共團體ニ歸屬ス

前項ノ規定ニ依ル歸屬ハ地方長官埋立ノ免許條件ヲ以テ之ヲ指定スヘシ

第二十八條　公共團體ハ竣功認可ノ日ニ於テ前條ノ規定ニ依リ之ニ指定セラレタル埋立地ノ所有權ヲ取得ス

第二十九條　公共ノ用ニ供スル國有地ニシテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者カ埋立ニ關スル工事トシテ其ノ國有地ト同一又ハ同種ノ用途ニ供スル工作物ヲ施設シタルニ因リ不用ニ歸シタルモノハ其ノ工作物ヲ構成スル土地及物件ヲ無償ニテ國ニ歸屬セシムル場合ニ限リ無償ニテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ下附ス

前項ノ場合ヲ除クノ外公共ノ用ニ供スル國有地ニシテ埋立ニ關スル工事ノ施行ニ因リ不用ニ歸シタルモノハ有償ニテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ下附スルコトヲ得

前二項ノ國有地ハ國ノ所有ニ屬スル水流又ハ水面ヲ包含ス

第三十條　本令ハ國ニ於テ埋立ヲ爲ス場合ニ公有水面埋立法第四十二條第三項ノ規定ニ依ル準用ノ範圍內ニ於テ之ヲ準用ス

第三十一條　第二十七條第二項及第二十八條ノ規定ハ國ニ於テ埋立ヲ爲シタル埋立地ノ一部ヲ公共ノ用ニ供スル爲必要アルトキ公共團體ニ歸屬セシムル場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條　左ニ揭クル事項ニ付テハ地方長官ハ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一　第四條第二項又ハ第五條ノ場合ニ於ケル埋立ノ免許又ハ其ノ拒否

二　內務大臣ノ指定スル河川ノ埋立ノ免許

三　前號ノ河川ノ流域ニ於ケル水面又ハ其ノ河川ノ河口附近ニ於ケル海面ノ埋立ノ免許但シ其ノ河川ニ著シク影響ヲ及ホスノ虞ナキ埋立ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

四　內務大臣ガ甲號港灣トシテ指定スル港灣ノ埋立ノ免許及乙號港灣トシテ指定スル港灣ノ埋立ニシテ其ノ港灣ノ利用ニ著シク影響ヲ及ボスノ虞アルモノノ免許

五　海峽、堀割其ノ他ノ狹水道ニ於ケル埋立ニシテ航路、潮流、水流若ハ水深又ハ艦船ノ航行碇泊ニ影響ヲ及ホスノ虞アルモノノ免許

六　埋立ノ面積五十町步ヲ超ユル埋立ノ免許

七　第二號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於ケル公有水面埋立法第三十六條第二項ノ埋立ノ追認

第三十三條　公有水面埋立法第五十條ノ規定ニ依リ同法ヲ準用スヘキ場合左ノ如シ

一　水產物養殖場ノ築造

二　乾船渠ノ築造

本令ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條　埋立ノ免許ヲ受ケタル者數人ナルトキハ本令ノ定ムル所ニ依リ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ負擔スル義務ハ連帶シテ之ヲ負フモノトス

第三十五條　埋立ニ關スル工事ノ施行區域カ數府縣ニ亙ル場合ニ於テハ埋立ニ關スル法令中地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ關係地方長官共同シテ之ヲ行フ但シ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條　本令ニ於テ住所、職業及氏名ト稱スルハ法人ニ在リテハ主タル事務所ノ所在地、法人ノ目的及名稱ヲ謂フ

第三十七條　本令中町村會ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ付テハ町村會ニ準スルモノニ關シ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ公有水面埋立法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十一年四月十日ヨリ施行）

●公有水面埋立ニ關スル取扱方ノ件

大正十一年四月二十日
發土第三五號土木局長通牒
各地方長官宛

公有水面埋立法及同法施行令本年四月十日ヨリ施行セラレ候ニ付テハ左記事項御承知ノ上御處理相成度

記

一　法第一條及施行令第一條ノ「溝渠又ハ溜池」中ニハ泉、惡水溜、水游、鹽廻シ、鹽游等溝渠又ハ溜池ニ準スヘキ水流、水面ヲ包含シ又「變更」中ニハ位置、形狀ノ變更ハ勿論箇數ヲ增減シ又ハ從前ト同一ノ用途ニ供スル目的ヲ以テ溜池ニ更フルニ揚水機ヲ新設スル場合ヲモ包含スルモノトシテ御取扱相成可然

二　從來埋立免許願書ハ下級行政廳ヲ經由シテ提出セシムル向モ有之候處爾今ハ直接道府縣廳ニ提出セシムルコトニ御取扱相成度尙競願處理ノ關係モ有之願書受理ノ日ヲ明確ナラシムル樣御注意相成度

三　河川法適用ノ水流、水面ニ付テハ公有水面埋立法ノ適用ナキ義ニ付御注意相成度

四　土地ノ所有權ヲ享有スルコトヲ得サル外國人及外國法人ニハ埋立ヲ免許スルヲ得サル義ニ付御了知相成度

五　施行令第二條ノ圖面ハ左ノ通調製セシメラレ度

（一）一般平面圖

縮尺五萬分ノ一以上ノ陸地測量部ノ刊行圖又ハ之ニ準シ調製シタル圖面ニ埋立ニ關スル工事ノ施行區域ヲ記載スルコト

（二）實測平面圖

縮尺ハ五千分ノ一以上トシ埋立ニ關スル工事計畫區域ノ全部及其ノ周圍ノ地形及工作物ノ位置等ヲ示シ且工事計畫區域內及其ノ附近ニ名勝、舊蹟、古墳墓、天然紀念物等アルトキハ其ノ名稱及位置ヲ示スコト

（三）求積平面圖

縮尺ハ五千分ノ一以上トシ埋立地ノ面積算出ノ方法及計算表ヲ記入シ且埋立地內ニ於ケル堤防、道路、溝渠、物揚場其ノ他ノ工作物ノ敷地ヲ區別シテ明記スルコト

（四）橫斷面圖及縱斷面圖

縮尺ハ橫五千分ノ一以上縱百分ノ一以上トシ水準基線ハ陸地測量部水準基標ニ準據スルコト但シ陸地測量部水準基標ニ準據スルコト能ハサル場合ニハ別ニ水準基標ヲ設クルコト

（五）工作物構造圖

縮尺ハ百分ノ一以上トシ其ノ構造及寸法ヲ示スコト

第四號及第五號ノ圖面ニハ高水位、低水位、又ハ滿潮位、干潮位等ヲ記載スルヲ要ス

六　埋立地ト公有水面トノ境界ハ潮汐干滿ノ差アル水流、水面ニ在リテハ春分及秋分ニ於ケル滿潮位、其ノ他ノ水流、水面ニ在リテハ高水位ヲ標準トシ之ヲ定ムルコトニ御取扱相成度

七　施行令第五條中「埋立ノ出願ニシテ免許シ得ヘキモノ」トアルハ埋立ニ關スル工事ノ施行カ公益上支障ナク且事業遂行ノ見込確實ナルモノニシテ埋立ニ關スル法令ノ規定ニ依リ免許シ得ヘキモノヲ指ス義ニ有之

八　公共團體ノ出願ト個人ノ出願トカ競願トナリタルトキハ事業計畫上ヨリ觀察シテ公益上及經濟上ノ價値同等ナル場合ニハ公共團體ノ出願ヲ以テ公益上ノ價値大ナルモノトシテ處理スヘキ義ト御了知相成度

九　法第十一條ノ「其ノ事件ノ要領」トハ少クトモ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ住所、氏名、埋立ノ場所、埋立ノ面積、埋立ノ目的竝埋立ニ關スル工事ノ著手及竣功ノ期限ヲ包含スル義ニ有之

十　施行令第十八條ノ規定ニ依リ免許料ヲ地方公共團體ニ歸屬セシムル場合ニ於テハ大體國又ハ各地方公共團體カ現ニ支出シ又ハ支出シタル費用ヲ標準トシ歸屬ノ割合ヲ定メ例ヘハ地方公共團體カ費用ノ全部ヲ現ニ支出シ又ハ支出シタル場合ニ於テハ免許料ノ全部ヲ地方公共團體ニ歸屬セシムルコトニ御取扱相成度

十一　法第二十七條ノ規定ニ依リ埋立地ニ關スル權利ノ設定又ハ讓渡ニ付埋立ノ免許條件ヲ以テ地方長官ノ許可ヲ受クヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得ルハ埋立ノ免許條件ヲ以テ埋立地ニ關シ竣功認可後ニ於テ遵守スヘキ義務ヲ命スルヲ要スル場合ニ限ル義ニ付御注意相成度

十二　施行令第二十五條ノ實測平面圖及求積平面圖ハ縮尺ヲ二千五百分ノ一以上トシ第五項ノ實測平面圖及求積平面圖ニ準シ何レモ實測シタル結果ヲ記入セシメラレ度

十三　埋立ニ關スル工事ノ施行區域ヲ分割シ各區域ニ付異ル竣功期間ヲ指定シタルモノニ就テハ其ノ竣功區域毎ニ竣功認可ヲ爲スヲ妨ケサレトモ右ハ幾工事ノ竣功ニ妨ケナク且公益ニ害ナキ場合ニ限ル義ニ付御注意相成度

十四　從來護岸、堤塘ハ總テ之ヲ國ニ歸屬セシムルコトニ御取扱相成居候向モ有之候處爾今ハ公用又ハ公共ノ用ニ供フルノ必要アリト認ムルモノニ限リ國ニ歸屬セシムルコトニ御取扱相成度

十五　法第四十二條ノ承認又ハ通知ニ付テハ施行令第二條又ハ同令第二十五條ノ規定スル所ニ準シ適宜御措置相成度尙各省ヘ其ノ旨及通牒置候條御了知相成度

十六　施行令第三十二條ノ規定ニ依ル認可申請ノ場合ニハ左ノ事項ヲ詳具セラレ度

一　埋立ノ免許ノ事由尙施行令第三十二條第一號ノ場合ニ於テハ其ノ拒否ノ事由

二　埋立ノ免許又ハ追認ノ條件

三　起業ノ確否

四　免許料算定ノ基礎

五　（自然消滅）

尙施行令第三十二條第一號乃至第七號ノ場合ニハ其ノ免許願書類ノ副本ヲ添附相成度

十七　國ニ於テ埋立ヲ爲ス場合ニ於テ施行令第三十二條各號ニ該當スル事項ニ就テハ當省大臣ノ認可ヲ受ケラレ度

十八　施行令第三十二條第二號ノ河川ノ支派川等ニ於ケル埋立ニシテ之ニ著シク影響ヲ及ホス虞アルモノハ其ノ本流ニモ著シク影響ヲ及ホスモノト被認候ニ付是等ノモノハ同條第三號ニ依リ認可ヲ受クルヲ要スル義ト御承知相成度

十九　施行令第三十二條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタル埋立ノ免許ニ關シ、免許願書及添附圖書ニ記載ノ事項ヲ變更シ又ハ免許條件ヲ變更セムトスルトキハ更ニ認可ヲ受クヘキ義ト御承知相成度

二十　公有水面占用ノ許可ヲ受ケテ水產物養殖場又ハ乾船渠ヲ築造シタル者其ノ地盤ノ所有權ヲ取得セムトスル場合ハ

〔大阪土〕

埋立ニ關スル法令ノ規定ニ依リ其ノ築造ニ關スル手續ヲ履マシムルコトニ御取扱相成度

二十一　法ノ附則第二項ニ依リ處分ニ附シタル條件ヲ變更シ又ハ處分ニ條件ヲ附セムトスルトキハ施行令第三十二條第二號乃至第七號ニ該當スル埋立ノ免許ニ對スルモノニ就テハ當省大臣ノ認可ヲ受クルヲ要スル義ト御了知相成度

二十二　大纜權ハ土地所有權ニ非スシテ埋立免許權ナルニ付法ノ附則第二項ニ依リ貴官ノ定ムル期限內ニ實施設計認可ノ申請ヲ爲サシメ且其ノ他ノ必要ナル條件ヲ附スルコトニ御取扱相成度

二十三　左ニ揭クル事項ハ遲滯ナク其ノ要領ヲ當省大臣ニ報告セラレ度

一　埋立免許願書ノ受理

二　埋立ノ免許ノ拒否

三　施行令第三十二條ノ規定ニ依ル認可ヲ要セサル埋立ノ免許

四　法第六條ノ規定ニ依ル裁定

五　法第十條ノ規定ニ依ル處分

六　法第十三條ノ期間ノ伸長ノ許可及法第三十四條第一項但書ノ規定ニ依ル埋立免許ノ效力ノ復活

七　法第二十二條ノ竣功認可

二十四　本通牒ハ施行令第三十三條ノ水產物養殖場又ハ乾船

〔大阪土〕

渠ノ築造ニ關シ準用アルモノト御了知相成度

●公有水面埋立ニ關スル取扱方ノ件

大正十二年一月十日
發土第二號土木局長通牒
各地方長官宛

標記ノ件客年四月二十日發土第三五號ヲ以テ及通牒置候次第モ有之候處更ニ左記事項御承知ノ上御處理相成度

記

一　曩ニ通牒シタル通河川法適用ノ水流、水面ニ付テハ公有水面埋立法ノ適用ナキモ河川法準用ノ水流、水面ニ付テハ其ノ敷地カ國ノ所有ニ屬スルモノニ限リ本法ノ適用アルモノトス

二　工事ノ施行上必要ナル設計變更ト認メラルル場合ヲ除クノ外埋立區域ヲ擴張シ埋立ノ面積ヲ增加セムコトヲ出願シタルトキハ其ノ部分ニ對シテハ法第三條ニ依リ地元市町村會ノ意見ヲ徵シ且令第十七條第一項ニ該當セサル埋立ナルトキハ免許料ヲ徵收スル等總テ新規ノ埋立トシテ處理セラルルコト

三　法第十一條ノ告示ヲ爲シタル後免許ノ效力消滅シ又ハ告示シタル事件ノ要領ニ變更ヲ來シタルトキハ更ニ其ノ旨ヲ告示セラルルコト

四　令第十八條但書ニ地方公共團體カ修築又ハ維持ノ費用ヲ現ニ支出シ又ハ支出シタル云々トアルハ地方公共團體カ實際ニ其ノ費用ヲ支出シ又ハ支出シタル場合ニ限ルモノニシテ且ツ其ノ目的カ河川港灣其ノ他ノ公有水面ノ利用又ハ保全ノ爲メナラサルヘカラス例ヘハ專ラ家屋、田畑等ノ保護ヲ目的トスル堤防ニ要スル費用ノ如キハ之ヲ含マサルモノトス

五　大正十一年四月二十日發土第三五號通牒左記第十ニ依リ免許料歸屬ノ割合ヲ定ムル標準ト爲スヘキ國カ現ニ支出シ又ハ支出シタル費用ノ內ニハ國庫補助金ヲ含ミ地方分擔金ヲ除外ス地方公共團體カ現ニ支出シ又ハ支出シタル費用ノ內ニハ地方分擔金ヲ包含シ國庫補助金ヲ除外ス地方公共團體相互間ニ付テモ此ノ例ニ依ル

六　地方公共團體ニ於テ設備負擔ヲ爲スモノヲ除クノ外公共ノ用ニ供スル物揚場、繫船岸壁、護岸、堤塘、道路其ノ他ノ國ノ營造物タルヘキモノハ令第二十七條ニ依リ之ヲ國ニ歸屬セシムヘキモノトス

●公有水面埋立ニ付疑義ノ件

關スル各行政ハ便宜陸地境界ヲ延長シタル線ヲ區域トシ處理セラレ居ル實情ナルモ海ハ陸地トナリテ後編入ニ依リ始メテ行政區域確立スルモノナルト地元市會ノ答申ハ單ニ地方長官ノ埋立免許裁量ノ補充ニ過キサルトニ依リ此ノ場合乙地元市町村會ニハ諮問ノ要ナキカ又ハ該埋立工事カ乙市町村ニ及ホス影響ノ厚薄ヲ勘案シ地方長官ニ於テ任意ニ意見ヲ徴スレハ足ルモノト被考候得共聊カ疑義ニ亙リ候條何分ノ御回答相煩度

追而目下差掛リタル事案有之候ニ付乍御手數至急御回答相願度候

●公有水面埋立使用免許權ヲ擔保貸付又ハ他ニ移スコトヲ出願スル者アルトキ取扱方ノ件

明治二十七年十一月二日
内務省訓令訓第八一二號

公有水面埋立竝使用免許權擔保貸付又ハ賣買相續等ニ依リ他ニ移スコトヲ出願スル者アルトキハ其ノ埋立又ハ使用ニ付テハ既ニ本大臣ノ許可シタルモノナルカ故ニ更ニ其ノ點ニ就キ稟申スルノ必要モ無之單ニ權利ヲ繼承スルモノニ於テ埋立事業ヲ成功シ得ルヤ否ヤ若ハ尚ホ繼續シテ使用ヲ差許スモ不都合ナカルヘキ人物ナルヤ否ヲ調査スルヲ要スルニ過キサル場合ハ縣限篤ト其ノ人物如何ヲ調査ノ上相當處分セラルヘシ尤モ右ハ總テ之ヲ容易ニ許可スルノ意思ニハ無之特許權ヲ擔保貸付ニ供シ若ハ之ニ類スル行爲ニシテ特許ニ付其ノ權利義務ノ關係ヲシテ錯雜ナラシムルノ恐アルモノハ可成之ヲ許可セサルヘシ又相續ノ場合ノ如キ右ニ反シ特別ノ事情アルニ非サレハ其ノ許可ヲ拒ムヘキモノニ非ス又埋立人若ハ使用人ノ變更ニ付テハ當初下付セル命令書ノ條項ニ增減變更ヲ要スル義モ可有之且又從來下付シタル命令書ノ條項ニシテ其ノ後本大臣ヨリ時々指示シタル處ニ違フノ點モ多々可有之ニ付其ノ邊篤ト調査ノ上曩ニ許可シタル要件ノ範圍内ニ於テ曉近指示ノ文例ニ倣ヒ不備ノ廉々ハ相當修補ヲ加ヘラルヘシ此ノ場合ニ於テハ明治二十三年當省訓令第三十六號第十三條第二項ニ依ルノ限ニアラサル義ト心得ラルヘシ

右訓令ス

●公有水面埋立法第二十五條ニ依ル國有地ノ下付處分ニ關スル件

昭和七年十一月二十四日
發甲第四九號土木局長通牒

各地方長官宛

標記ノ件ニ關シテハ從來處分官廳處分時期等ニ付取扱上疑義有之哉ニ被存候處右ハ左記ニ依リ御處理相成度

一　公有水面埋立法第二十五條竝同法施行令第二十九條ノ規定ニ依リ埋立ニ關スル工事ノ施行ニ因リ不用ニ歸シタル公共用國有地ヲ有償又ハ無償ニテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ下付スル場合ニ於テハ國有財産法所定ノ手續ヲ要セス地方長官限リ處分スルコトヲ得ルモノトス

二　前項ノ處分ハ竣功認可ト同時ニ之ヲ爲スヘキモノトス尚別ニ他ノ法律ニ依リ手續ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ手續完了ノ時ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス但シ竣功認可濟ナルモ下付處分手續未了ノモノニ付テハ此際速ニ措置スルヲ要ス尚右國有地ノ下付ニ關シテハ必スシモ豫メ埋立ノ免許命令書ニ記載スルヲ要セサル義ニ付爲念

●公有水面埋立免許命令書ニ關スル件

大正十四年八月三日
發土第二八號土木局長依命通牒

各地方長官宛

公有水面埋立免許ノ際免許人ニ交付セラルヘキ命令書ハ從來

各府縣區々ニ亙リ且往々不備ノ廉アリテ照復ノ爲手數ヲ要スル向モ有之候ニ付爾今大體別紙命令書案ニ據リ御處理相成候樣致度

命令書案

住所　氏名

右出願人ニ對シ公有水面埋立ヲ免許スルニ付本命令書ヲ下付ス

第一條　公有水面埋立ヲ免許スル區域ハ　府　郡　町　字　番地ヨリ　番地ニ至ル地先公有水面面積　坪　村　合　勺（町　段　歩）ニシテ願書添附圖面（出願區域ヲ變更シ免許スルトキハ「別紙圖面」トス）ノ通トス

第二條　公有水面埋立ノ目的ハ　ニ供スルモノトス

第三條　埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ免許ノ日ヨリ起算シ月以內ニ埋立ニ關スル工事ニ著手シ著手ノ日ヨリ　年以內ニ竣功スヘシ

前項ノ工事ニ著手シタルトキハ直ニ　府（縣）知事ニ屆出ツヘシ

第四條　埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ免許ノ日ヨリ起算シ月以內ニ工事實施設計書ヲ調製シ實測平面圖求積平面圖縱斷面圖橫斷面圖及工作物構造圖ヲ添ヘ　府（縣）知事ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ

第五條　埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ前條ノ工事實施設計認可ノ日ヨリ起算シ　月以內ニ埋立ニ關スル工事ニ著手シ著手ノ日ヨリ　年以內ニ竣功スヘシ

前項ノ工事ニ著手シタルトキハ直ニ　府（縣）知事ニ屆出ツヘシ

第六條　埋立地ノ內公用ニ供スル　及公共ノ用ニ供スル道路堤塘護岸物揚場等願書添附圖面ノ箇所　坪ハ國ニ歸屬ス（　ノ部分　坪「願書圖面記載」ハ府縣（市町村）ニ歸屬ス）

第七條　埋立ノ免許料ハ金　圓　錢トシ府（縣）知事ノ發スル納入告知書ニ依リ納付スヘシ

（半額ヲ竣功期限迄ニ納付セシムル場合）

但シ金　圓　錢ハ　年　月　日迄ニ納付スヘシ

第八條　埋立地ニ關スル權利ノ設定又ハ讓渡ニ付テハ府（縣）知事ノ許可ヲ受クヘシ

第九條　埋立地ノ　ニ幅　以上ノ公共用道路ヲ築造スヘシ

第十條　埋立地ノ　ニ公共用ノ溝渠物揚場ヲ築造スヘシ

第十一條　工事中ハ日沒ヨリ日出迄通船ノ安全ヲ保ツ爲適當ノ場所ニ標燈ヲ揭クヘシ

第十二條　埋立區域ノ境界ハ出願人ニ於テ區劃シ境界標ヲ設

〔大阪土〕

定スヘシ

第十三條　本命令書第　條ニ依リ國ニ歸屬シタル道路護岸防波堤ノ維持修繕ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ヲシテ之ヲ負擔セシム

（附記）

一　命令書案中第四條及第五條ハ工事實施設計ヲ要スル場合ニ限リ附スルモノトス此ノ場合ニハ第三條ヲ附セサルコト

一　同第七條本文ノ納入告知書ニハ「　年　月　日（埋立免許ノ日ヨリ一月目ニ相當スル日）迄ニ納付スヘシ」ト記入スルコト

一　同第八條ハ主トシテ特別ノ義務（例ヘハ埋立地內ニ於ケル水道道路等ノ維持ノ義務）ヲ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ負擔セシムルノ要アル場合等ニ附スルモノトス故ニ第十三條ヲ附スルトキハ必ス本條ヲ附スルコトヲ要ス

一　同第九條乃至第十三條ハ地方長官カ公有水面埋立法施行令第七條ニ依リ埋立ノ免許ニ公益上又ハ利害關係人ノ保護ニ關シ必要ト認ムル條件ヲ附スル場合ノ數例ヲ示セルモノトス

〔大阪土〕

●公有水面無願埋立取締ニ關スル件

大正十四年十一月十六日
發甲第二九號土木局長通牒

各地方長官宛

公有水面埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲ス者ノ取締ニ付テハ平素充分御注意相成居候事トハ存候ヘ共近時無願埋立ヲ爲シタル者多キヲ加フル向モ有之ヤニ被存候ニ付テハ公有水面埋立法第三十九條規定ノ次第モ有之事情ニ依リ適宜告發ノ手續ヲ採リ一層之カ取締ノ嚴重ヲ期セラレ度爲念及通牒追テ免許ヲ受ケタル面積ヨリ故意ニ坪數ヲ增加シテ埋立ヲ爲シタル者ノ如キハ本文ニ依リ御措置相成候樣致度

●官ニ屬スル公有水面埋立竝使用ニ關スル件

明治二十三年十月二十日
內務省訓令第三十六號

改正　明治二六年內務省訓令第二號、三一年第五號、四〇年第一四號

第一條
第二條
第三條
第四條
第五條
第六條
第七條

（公有水面埋立法ノ施行ニ依リ消滅）

舊慣ニヨリテ捕魚採藻ノ業ヲ營ムノ外公有ノ水面又

ハ河川敷地ヲ其儘使用セシコトヲ出願スルモノアルトキハ前條々ノ例ニ準シ命令書ヲ下付シテ之ヲ免許スル可シ但本條ノ場合ニ於テハ相當ノ料金ヲ國庫ニ納メシム可シ

第八條　（公有水面埋立法ノ施行ニ依リ消滅）

第九條　水上ノ取締ニ關スル規則ニヨリテ公有水面ノ使用ヲ許スノ類ハ命令書ヲ下付スルニ及ハス又使用料ヲ納メシムルニ及ハス公共ノ障碍ナキニ於テハ無料使用ヲ許スコトヲ得

第十條　何レノ場合ニ於テモ使用料額ハ五箇年ヲ期シテ定ムヘシ

第十一條
第十二條）（公有水面埋立法ノ施行ニ依リ消滅）

第十三條　公有水面ノ埋立使用及河川敷地ノ使用ハ特ニ其處分ヲ委任シタルモノ及第九條ヲ除クノ外總テ意見ヲ具シ地圖ヲ添ヘ本大臣ニ稟議スヘシ但公有水面ニシテ使用ノ慣行アルモノニ限リ地方ノ狀況ニ依リ特ニ其處分ヲ委任スルコトアルヘシ

其本大臣ノ指令ヲ得テ下付シタル命令書、設計書、圖面ハ又本大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ變更スルコトヲ得ス

●公有水面埋立竝使用ニ關スル方ノ件　延期又ハ加除名ニ關スル取扱

明治二十五年十月十二日
庶甲第二〇四號内務書記官通牒
各地方長官宛

明治二十三年當省訓令第三十六號官ニ屬スル公有水面埋立使用規程施行以前埋立又ハ使用ヲ許可シタルモノニシテ著手若ハ成功期限ノ延期及埋立人又ハ使用人ノ加除名ヲ願出スルトキハ特別ノ約定アルモノヲ除クノ外契約ノ更新ニ屬スルモノニ付右規定ニ依リ新タニ出願スルモノト同一ニ處理セラルヘキ筈ニ有之候條御心得有之度命ニ依リ此段及通牒候

●公有水面埋立法施行令第三十二條ニ依ル河川港灣指定ノ件

（抄錄）
大正十一年四月八日
内務省告示第八十號

改正　大正一五年九月内務省告示第一三八號、昭和二年四月第三二二號、一一月第四八五號、三年八月第二〇五號、四年一月第一七號、七月第二二三號、一二月第三八三號、五年一月第二號、七年一二月第三一〇號、八年一月第四號、九年四月第二三八號

公有水面埋立法施行令第三十二條第一項第二號及第四號ニ依リ左ノ河川及港灣ヲ指定ス

河川
淀川（琵琶湖ヲ含ム）　大和川

港灣
甲號　大阪港
乙號　堺港　岸和田港

乙號追加（昭和九年四月内務省告示第二三八號）
大津港（大阪）

●沿海工事施行ノ協議方ニ關スル件（抄錄）

大正十二年七月四日
内務省訓第六八一號

改正　昭和二年一〇月一日内務省訓第九九三號

第一條　公有水面埋立法施行令第三十二條及第三十三條ニ依リ本大臣ノ認可ヲ要スルモノニシテ左ニ掲クル場合ハ豫メ所管海軍鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ト協議ヲ遂ケ其ノ顚末ヲ認可稟請書ニ記載スヘシ

一　公有水面埋立法施行令第三十二條第四號乃至第六號ノ海面ノ埋立

二　公有水面埋立法施行令第四號及第五號ニ該當スル箇所ニ於ケル水產物養殖場及乾船渠ノ築造

第二條　大正十一年五月内務省訓令第六號第二條ニ依リ本大臣ノ認可ヲ要スルモノハ豫メ所管海軍鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ト協議ヲ遂ケ其ノ顚末ヲ認可稟請書ニ記載シ且其ノ工事ノ位置ヲ記入シタル海軍海圖又ハ其ノ謄寫圖二通ヲ添附スヘシ

第三條　前二條ニ依ルモノノ外海面ノ埋立、水產物養殖場及乾船渠ノ築造其ノ他ノ沿海工事ニシテ左ニ掲クル場合ハ所管海軍鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ト協議ヲ遂ケ處分スヘシ

一　海軍省所管地又ハ建設物ニ接近シ若ハ之ニ關係ヲ及ホスヘキモノ

二　別表甲號區域内ニ於テ施行スルモノ

三　別表乙號區域（別表甲號區域ヲ除ク）内ニ於テ施行スルモノ但シ左ノ工事ニ付テハ此限ニ在ラス

一　漁業ノ爲ニスル簗建設其他區劃漁業ノ爲ニスル工作物ノ施設

一　棧橋竝繫船杭ノ建設

一　土砂ノ採取及浚渫

一　一時的工作物ノ施設

一　護岸工事

第四條　前條第三號但書ニ依リ處分シタルトキハ遲滯ナク其